

隨筆風

500年前に鉛筆を考えた奴がいる！

アイデアマン

やる気になれば出来る発明（考案）



各地の戦野に草蒸す屍、南冥に、北海に、水漬く屍、或いは国土空爆により一
身を捧げられた、同胞を想う時、転た感慨無量、今我々が平穩の日々を与えら
れているのも、これ等の方々の尊い犠牲による恩恵に他なりません。
謹んで御冥福をお祈り申し上げ、感謝の意を表し、この一編を捧げます。

はじめに

私は、無名の一市井人です。このような目的の本を、世に問い、特に若い方々の共感を得たいとの願望が、幸い良縁を得て、「株式会社かんぼう（官報）」の社長をはじめ社員の方々の絶大なご支援により、私の拙い考えを具現する機会を与えられたのです。

世間には、著名な方々の発明考案に関する著作が、多数出回っており、それはそれなりに、読者の参考になることに違いありません。

この本は、私が実際に発明をした立場で経験した物事を書きまとめました。発明の現場におられない第三者の著述とは異なり、発明の経験者でなければ分からぬ、苦心の内容をお汲み取り下されば幸いです。また、科学技術分野で多年の経験を積まれた方がご一読の上、お気付きの点があれば、是非温情あるご叱正を願う次第です。

私の主張は、高等な科学技術教育を受けなくても、ごく基本的、物の道理、具体的に申すと、小中学校で学んだ理科、社会科の知識の活用範囲で、その人の身边には、高度の発明は別として、いくらかでも発明考案の材料があると申したいのです。

そして、心の温かい発想法を体得し、世を潤して戴きたい。

人間の頭脳が、大発明をする場合も、また身近な考案をする時も、頭脳の働く機能は僅かな差こそあれ、個々の人間の頭脳と言うコンピュータの演算基本作業は、大差ないと思います。それゆえ、幼少時より発想演算法の練習は特に大切だと思います。

よく教育問題が問われる時、必ずと言ってよい程、一番最初「創造性豊かな人間の育成」等と、喧しい程に言われていますが、当事者には、大変失礼ですが具体的事項となると、なんとなく、視点がぼけていると私は感じています。この本は、先に述べたような主張を、成るべく平易に、説明した積もりです。

私が実際に経験した失敗は、前車の轍を踏まないよう、また小さな成功でも、こうすれば出来ると、納得してもらええる結果も述べました。

重要な基本事項は、分かり易くを第一に、はじめに述べた趣旨に沿えるように心掛けました。

人間は、暇な時こそ、何か名案が浮かびそうです。これは逆です。私の乏しい経験からしても、忙しい時の寸暇に、何かのきっかけから、ひよっと、ピタリの名「迷」案が、神様から与えられるように思われます。自分が発想するのではなく、矢張り天与の賜と謙虚に、受け止めたいと思います。

高価なコンピュータも、買い求めただけでは、人間に置き換えれば、頭の素質の良い子を、何の教育訓練も賤もしないで、放置同然に育てられたままと似ています。

幼い時から、将来の夢を描いて、着々と日々、知育、徳育、体育を正しく積み重ねてこそ、世の役に立つ人物の完成に近づくのと同様です。

話は現実的な事になりますが、最近の入社試験では、「スーパー新人」たれ、つまり、どんな種類の企業でも、かつてのような記憶力、一般の知識の豊富さ等を社員に求めるのではなく、発想力を基幹とする判断力、発明と工夫の能力、企画力等々臨機応変の能力を尊重しており、所謂、使える人物とは、この様な能力の持ち主だと思います。

さあ、この本を読もうと思われた方は、我が国には、昔から、「思い立つたが、吉日。」と言つ良い諺ことわざがありますね。

本書を一読されたら、今の諺どおり、すぐ実行に移して下さい。

発明考案の発想訓練をするには、ある程度習慣付けが必要です。それができると一日の内に、何件もの名案や迷案が、飛び出す様に浮かんでくるものです。しかし、その中味には、既に商品として売られていたり、大分昔に、誰かの発明考案されたものであったり、我が頭脳と言ふコンピュータが、懸命に演算するわりには、あなたの発明や考案品といえるものが、湧き出るところか、今迄に世に出ている、所謂、「公知」のものばかり。

大体、発明家と言われる人でも、最初は、今のあなたと違いないのです。

ここで「ガックリ」引き下がるようでは、全く見込み無し。皆ここから出発するのです。この一度や二度の「ガックリ」は、誰でもやることで、心配御無用。他人が過去に、発

明考案した物でも、兎に角、頭に発想出来るようになれば、もう、しめたもの。後は本書を更によく読んで、発想法を早く身に付けるよう心がけましょう。

最近流行った言葉に、「自分を褒めてやりたい。」なんて洒落た人がいましたが、あなたも毎日、泉のように、とは行かないまでも、時々発想が湧き出したら、きつと、自分を褒めたくなる日も間近い事でしょう。しかし、天狗にならないように注意してください。

必ずその発想の中には、一件や二件、特許庁長官のお墨付きである、「特許証」の交付、つまり、あなたの発明を「特許発明」として、公認される日も間も無い事と思います。

その様な、実用になる発明考案で、自信の持てる案件が出来たら、まずその発明考案は先にちよつと説明した公知のものであるか、どうか、専門の弁理士さんに調査依頼（有料）するか、または、各都道府県に配置されている、発明協会支部の相談室に持ち込み相談（無料）するのも、一つの方法です。但し、相談室で、調べかたを教わり、自分で調べます。また、過去の特許公報の調査も、有料で出来ます。又特許庁のHPの利用も可能。

特許庁への、夫々出願は、最初は熟練した弁理士さんに依頼するのが、一番無難です。その他、前に記した発明協会各支部でも、出願の手続きの指導はして呉れます。（無料）出願する案件の書類が出来上がったら、手続きには、特許願、実用新案登録願等の願書に、所定金額の特許印紙を貼付するか、他の方法で、出願料を支払う。そして、特許庁に出願する。他の方法として、弁理士さんに出願手続一切を依頼した時は、出願書類作製の謝礼

をする。そしてその出願がめでたく特許登録の通知があった時、弁理士さんには、所定の成功報酬を謝礼する。この場合、自分の特許権等取得のための特許登録料も弁理士事務所に依頼して特許庁に、第一回は三年分、以後毎年度分を納入する。以上の経過を経て、あなたの出願した案件が、あなたの特許権等として確立するわけです。細部は、一章を設けて後述します。

出願も幾度か重なる内に、特許出願の願書作製から、特許庁への出願、出願中に生ずる、例えば、拒絶査定に対する対応等、また登録決定し、特許登録料納付、特許証の受領まで全て自力で出来るようになれば、一人前と言えます。

自分の発明考案の出願を全て自力でやる気になったならば、先に述べた発明協会各支部に、工業所有権（特許、実用新案、意匠、商標等）に関する公報類、参考書類等（購入も可能）常備してあります。一度訪ねるのも宜しいと、思います。何にも、通じる事と思いますが、一寸した障害に挫けず、是非目的達成に努力して下さい。尚、文中くだけた口調で説明し、一寸失礼しますが、ご了承ください。

拙著出版に際しては、全般にわたり冒頭に記した、「株式会社かんぼう（官報）」の社長はじめ社員の方々、特に桐生敏明氏には並々ならぬご配慮に預かり、また、内容構成に就いては、東海大・唐津一教授が他紙に書かれた我が国独自の優れた工業技術の引用例の借用をお願いしたところ、快くご承諾ご指導下さり、又、恩師であり先輩である池淵良次先

生、畏友同期の酒井透氏より種々アドバイスを戴いたにも拘わらず、我が意を十分に尽くし得なかった事は、我が不徳であり、この場を借りてお詫び致し、また、関係各位に厚く感謝申し上げます次第であります。

平成13年9月

奥山
博

随筆風 アイデア・マン / 目次
やる気になれば、出来る発明（考案）

はじめに

前編（発想の糸口を、作る）

第1章	子供との付き合い	14
第2章	苦心の無い処、よい発想はない	17
第3章	発明考案は、自分だけでは出来ない	21
第4章	頭脳の素質の差は小さい、訓練次第で大差	25
第5章	「シマッタ?!」は「シメタ!!」	28
第6章	誰でも出来る家庭用品の改良（発想法練習の一段階）	33
第7章	世に発想の種子は、	36
第8章	寢床の発想、メモのご用意	39
第9章	デパート、スーパーは、発想教材の陳列場	41
第10章	たまには、「狂った」組み合わせをやってみる	45

第11章	「トイレ」は、座禪道場と同じ精神統一の場合	48
第12章	課題は、いつも複数持つて	49
第13章	自惚れ うぬぼ すぎずに、自惚れる	51
第14章	小中高校の理科、社会科、(技術、家庭科)総復習	55
第15章		57
第16章	傍目 おかめはちもく 八目の視野	61
第17章	友人(業務上の)は、利害の関わらぬ間柄に多く持つて	64
第18章	転んだら、寝そべってから、起きる	67
第19章	「裏側」から、ものを観る	69
第20章	「病床」は、発想の好環境	72
第21章	「発想」が、空転している時は	75
第22章	「真理」は、造物主が我が頭脳に与えられる	78
第23章	「発明考案」と、「社会情勢」との、	
第24章	急には、育たぬ発想力	83
第25章	「有り難う」と押し戴き、心で「批判」をする	85
第26章	「物理馬鹿」	86

第27章	たまには、変わった息抜きを	88
第28章	「自己暗示」のインプット	90
第29章	「漠然」としていては、良い発想は生まれない	94
第30章	二世、三世、へのアドバイス	96
第31章	仕事が道楽でも、必ず二番目の道楽を他に持って	99
第32章	「発明」の、国家保護は、完全か	101
第33章	わが地球の生き残りは、己の良心的発想力を、たかめる心構えから	104
第34章	現場のマンネリ化は?!	107
第35章	発想の糸口を、作る（探す）	109

後編（こんなヒントで、パテントが得られる）

第1章 「発明免許証」は、まず自分が「特許登録か実用新案登録」を得て、自信を持つ事、これが「発明免許証」

第2章	「特許登録」と「実用新案登録」の違い	122
第3章	「ブックカバーに、カレンダー」（書店で、本に覆う紙カバー等に）	124
第4章	小学校時代の、理科の実験を思い出し、 「二目で飲み頃が分かる徳利」を考案した	126
第5章	銀行の金庫の鍵を改良した男	132
第6章	飲み頃の温度が見て分かる哺乳びん	133
第7章	日常身辺に見る、諸々がヒント	136
第8章	私の生業となった、発明と考案	144
第9章	日本は、今でも憧れの「ジパング」でありたい	147
第10章	金儲けに、発明は不向き、純粹な心で	151
第11章	日本人よ!! 我々の智力に、自信を持つとう	153
第12章	出願する時は 付（工業所有権法の各第一条）	159
第13章	パテントの有効活用	163

前
編
(発想の糸口を、
作る)

第1章 子供との付き合い

子供と大人を単純に比べて見れば、物理的に、視（目）線の高さの違いがはっきりしている。何もこの高さの違いだけが、物の見方全てを、変えているとは、考えられない。

しかし、ある部分については肯定出来る。子供の視線の高さからの、社会の観察も、決して無駄ではない。

実際に、手をひいて歩く子供の背の高さに、己の身を屈めて観てみよう。

もう早速、夏なら太陽の、地面からの照り返しが、辺りを眺め回す前に「ムウッ」と、我が身に襲^{おそ}つて来る。何処の母さんも、余り気にしてない様だが、乳母車の中の赤ちゃん、何も言えないから、時に大声で泣くわけ。地面に近い程寒暖の影響を直に受けている。

乳母車の夏の太陽直下の温度は、大変な暑さとなる。もし、本書を読まれた方で、乳母車のメーカーの方おられたら、夏場の太陽の照り返しを、軽減する乳母車を作って下さい。「赤ちゃんの代理人、筆者」と、こつこつ訳で、いくらでも、新たな必要や不便にぶつかるとそれに対応する発想は、泉の湧くように、限らない。

今一寸、乳幼児の立場で考えると、大人はどうして、こんな事気が付かないのかなど、

思う事がいっぱいある。

乳母車屋さん、大人が乗れるサイズの乳母車作って、社長か、研究担当者に乗って、夏の炎天下の町並を、誰か母さん代わりの人が押して、実感してみたら!?

夏場ばかりじゃない。空っ風の吹く頃も、実験してみたら?! 今迄気が付かぬ事にお感じになる筈。大人の感覚でなく、乳幼児の感覚での設計に一層心を砕いて下さい。

また、スーパーの生鮮食品売り場。暑い外から入ると、急に冷えずで、「汗かいてて、寒い!! たまらないよう!!」（汗の肌着とりかえて!!）

本当に、赤ちゃんの事考えて、作った乳母車なら、赤ちゃんずいぶん助かり喜ぶと思うよ。それから、暑いところ走っている時、扇風機欲しいねえ。いたずらしても怪我しないのね。

この頃は、高齢者の介護等、大分関心が高くなり、目の不自由な白内障患者の擬似体験、或いは、足の不自由な患者の擬似体験が出来る装具が作られている時代である。

乳幼児の視線の高さに、大人の視線を下げて、町場の観察も一案と思う。他にも、多々、乳幼児の為、気遣う必要を、主張する一人である。乳幼児用品は、与える品が果たして、その子に、「ピッタリ」適合しているか、両親が余程気配りして求めるべきだ。例えば靴等は、現物を子に履かせて、ピッタリより余裕ある物を、選びたい。余りプカプカでは困るけれど。

衣服等の場合、兎角^{とかく}、体裁にこだわって、子供が満足出来る着心地であるか、肝心な部分に、しっかり配慮してある品かに、着眼点をおいて選択して求めるべきだ。

当然、その品のメーカーは、成人向けの品物以上に諸処に、気配りが大切な事は言うまでもない。

内科のお医者より、小児科のお医者の方が、患者である小児が自分の意志表示ができないか、或いは、不完全な子等が相手で、診断が難しいのと、基本的には対応の考え方が、共通している。

我が国は、最近、物の豊かさは、確かに感じる。

物満ち足りて、筆者を含めての事だが、誠に失礼であるが、年端もゆかぬ幼な子に気配りが、足りない家庭が増えた。

昔は、一年の内、厳寒酷暑の時は、乳母車を使うのは、よくよく、おぶえない事情のあった場合だったと思う。酷暑でも、衣類を工夫して、おんぶして遣った方が、乳幼児の為にどれ程良いか。世の中、なかなか難しい。厳冬の場合は親子文句なしに暖かいね。

これが、心からの母子のスキンシップだ。

日本人同士よ、お互い温かい心で、付き合えるよう心掛けよう。これは、発明考案する心の原点だ。

第2章 苦心の無い処、よい発想はない

ご承知の中国の故事に、ある若者が傍らの切り株に、兎がぶつかって倒れたのを拾った。それから、其処にじっと待っていたと言う。

人生には、時に思わぬ幸運もないでもない。脱線話ばかりだが、遠縁の親類の遺産が、思わぬ時に転げ込むなんて話、ごくたまには聞く。

事、発明考案にも、ひよつとして時流に乗り、このような幸運を拾う事、万が一にはあるかな！？

けれども、日進月歩どころか、秒進分歩の目まぐるしい世の中、こんな棚ボタ式は、まづ有り得ない。

秒進分歩の中で、日夜己の職務に励み、そして研究開発に没頭している。つまり、自己の頭脳という、コンピュータが、持ち主は自覚しなくても、寝ても覚めても、無意識のうちに、演算している結果、種々の開発が進んでいる。偶には、たまに、ねぎらゆっくり労いたい。

よく、「観る目が違う。」と言つ言葉が聞かれる。一つ物事にぶち当たった時、人、夫々に反応や、その速度が異なるのは、頭脳の善し悪しでなく、その頭脳が、その物事に対面

した時に、即応出来る知識または経験をしていたか、或いは失敗した。と言うソフトのインプットの有無に係っている。矢張り経験の多い先輩には、敵わない。「一日の長」と言う言葉の通りと思う。

通常、経験者は何事においても、未経験者よりも、対応力があるわけで有る。そして経験の深さの度合いも、大いに関係する。

また、その事が己の属する技術分野の事に就いては、誰しも人知れず苦心と努力を重ね、多年を経た結果、後輩からベテランと言われる大先輩と、仰がれる存在となる。

我々が求めている、発明考案において基本は、「観る目の違い。」此処に在る。

何かの際、この違いがその対象物をどのように、取り扱うか、こここの差が大差となる。例えば、頁数の多い大きな辞書と、小型のポケット辞書と比べれば、一つ事の説明内容に於いて、大型辞書は、微細な事項まで説明が施され、辞書をひく人の要望に、大体応える事が出来る。今ではその辞書も、DVDだCD等と電子化され留まる処を知れず小型化している。また、ポケット型も、和英、英和、漢和等が一つにまとまって、使い勝手は昔とは、比べられぬ程便利になった。これも発明考案の成果だ。

前述の辞書の大小でも、お分かりと思うが、頭脳と言う、手持ちの辞書の知識を肥大化する事は、体の肥満化とは異なり、大いに結構な事だ。

知識の吸収は、己の専門分野は、縦深を成るべく深く、また、周辺の知識は、まず、広

く浅く、更に専門を離れた処に在る有効と思われる分野へも触手を延ばし、また、一般雑学も、折りあれば、何でも食いつく意欲は大切だ。

雑学の知識も、発明考案の大切な肥やしで、何かが思わぬ時に、その効果を發揮する。人間の思考力は、一つ事を得よう得ようと、集中している時より、時には、一杯機嫌で、頭脳が休息状態の時、一瞬、今迄の停滞が解ける時がある。

これも、日頃苦心に、苦心を重ねているからで、寝て切り株の兎を待っていては、蟻一匹も得られまい。

また、就寝中、ふと夜中にこれほど、思う発想を授かる時がある。

けれども、翌朝には、ケロリ!! と、よく消える消しゴムで、消したように、綺麗サツパリ!! 返納。跡形もない、あとの祭り。

寢床のグッドアイデアは、寢床で必ず「メモ」して残す習慣が大切。そして一杯やる時も同様、「メモ」とる用意位は、お忘れなく。

それに、もうひとつ申したいのは、他章でも触れているが、職務中の集中度を、始終保つ事は、如何に頑張っても、出来る事ではない。身体に毒、切り替えが大切。

しかし、己は休息してる積もりでも、あなたの忠実な頭脳と言うコンピュータは、ご主人休息中の積もりでも、帰宅の電車中でも、チャント演算してくれている。

何時アウトプットがあるか分からない。常時メモのご用意お忘れなく。ご主人様!!

メモしたら直ぐ仕事の事は忘れる。女房の奴、今夜俺にどんな夕飯作ったかな!? いや、作って下さったかな!? これくらいが、精神衛生上宜しい。

胃袋は、「ゴクリ」と、生睡をのんだ。胃袋の方が、帰宅を急いでいるようだ。このような、日常生活の微細な点まで、筆者が干渉する事でない。各自夫々の流儀を編み出し、一派を成されよ。

我々の日常は、それこそ部外者から見ると奇想天外の事と、思える物事を追求する身、日常生活のマンネリ化は、一般職の方々より以上に忌むべき事で、日々新鮮な心の活力を保ち続け、随時即応の態勢に、心の窓を開き、目指すテーマに怠りなく歩を進めたい。「心の窓を開く」とは、簡単に言えば「好奇心」と言つ事になる。

幼児の「ナゼ」の連発。あの心境が成人しても、保てたらなあ!! と、時々考える。残念乍ら、殆どの大人は、己のアンテナ素子エレメントに社会の垢がこびりつき、周辺の大事な、初対応の事象が発した電波に、共振出来にくいのだ。

これでは、発明の要点である、新規性も、進歩性もあつたものでない。常に貪欲に、幼児と張り合つて、耳目を張り巡らし、感度を少しでも、昔の幼児期に近づけて高める様工夫したい。

この為には、幼児との付き合いが出来れば、理想的だ。

幸い、我が子とその適齢であれば、願ってもない事。若し、この様な幸運がなくても親

しく交際している、近所の幼児がいたら、有り難い。しかし、最近は世の中が騒然としており、先方のご家族に、ハッキリと理由を説明し、了解を得ておかないと、あらぬ誤解の元になるので、十分な準備を念の為。

何も、ここまでしなくても、休日の電車やその他で、幼児の観察は出来る。今、絶好の場所を思い出した。動物園や遊園地、これは前記のような事、一々気兼ねなく、観察や時に幼児と会話もできよう。ただ、観察しても、致し方ない。幼な子等が疑問を持つ時の彼等の目の耀きかがやを観たい。あなたの幼時も同じ耀いた眼だったに違いない。

「眼は、心の窓」とも言われる。

もう一度、往時のあなたの眼の耀きを心に描いて、心の洗濯をしよう。

第3章 発明考案は、自分だけでは出来ない。

登山家が言うのか、新聞社が書き立てるのか。よく「○×山を征服!! 登頂に成功!!」等と、デカデカと書かれた記事を見ると、何か虫酸むしずが走る思いがする。

大体、親なる大地、地球と言う大自然の一突出部である、山と人間の大きさを比べて見

たら、山の偉大さが分かるう筈だ。「征服」とは極めておこがましいにも程が有る。

山の頂上になんとか、やっと載せて貰ったに過ぎない。逆上^{のぼ}せるのも、いい加減に願いたい。失礼。

けなしついでにもう一つ、兎角、人間は苦心して成功した結果を、一人占めしたがるものである。特にこの発明だの考案等は、その最たるものだろう。

時流に乗り、企業化され、社会に受け入れられる事は、それなりに大いに称賛し、評価される事には吝^{やぶや}かではない。

時の流れは、身近の紙、エンピツいや!! 街頭であちこちで、宣伝媒体として、かつてはマツチ、今はティッシュ・ペーパー等何一つとつても、目に見えぬ所にも、改良進歩があり、筆者が戦前の子供の頃と比べ、格段の進歩が見られ、昔から我が国に定着していた、「舶来崇拜のコンプレックス」は、殆ど消えた。

大方の国産品は、他国製品に比して、出来上がりが優れ、総合的に一段抜きんでている。これも、敗戦の苦汁を嘗めながら、立ち上がった、各業界の先達の苦心努力の結晶である恵みに外ならない。

戦中戦後の物資欠乏の時代を経て、今を知っている年代の人々は、飽食暖衣の現在の生活しか知らぬ若い人々に勿体無いと言う事を是非伝えておきたいと思う。

そして、現在の物質万能の時代が昔からあった等とは、思っていないにしても、物の欠乏

した時の辛さを知っておいて貰う事は、これから将来のためにも大切な事と思う。

我が日本が敗戦後五十余年にして、この繁栄!? いや、砂上の楼閣かも知れない。いや、そうあつてはならぬ、と否定するが、此の儘、今のような、資源の乱費とも言える生活を続けければ、未恐ろしい気がしてならない。

地上の資源は、有限であり、我々世代だけで使う物ではない。

また、科学的に考えれば、「質量不変の法則」により、何らか形を変えて後世に、物質は確かに存続して残る。しかし、物々々、天与のものは使い勝手の良さで、我々は利用させて貰い、現在の繁栄が与えられた。

石油にしても、人類が、種々形を変え利用し、分解して仕舞えば、前述の通り、質量の総量は、地球上と空間に確かに残ってはいるだろう。

我々の子孫は、我々先人によって浪費変質された石油の老廃物を、どのように使用出来るのか。

現在に於いてさえ公害の代表の様に、光化学オキシダント濃度云々と迷惑指数の代名詞扱いされている。石油を主な原因物質とだけ考えて、この始末である。

少し、話の向きを変える。人類文化の結実とも言える、今日の文明社会も一朝にして出来上がったものでない事は、誰しも百も承知の筈。筆者が特に申したいのは、どんな発明、考案にしろ、「俺一人で発明した。」などと威張れるものは、まず一つもない事だ。また、そ

んな積りでは出来るものではない。

発明、考案、発見等は社会進展の正に道具、手段である。あなたが発明考案に到達するまでには、それを構成する素材、部品等はみな先人努力の業績の賜である。

ひるがえって思えば、その時の社会の要求、その時代に適合、つまりタイミング、出生した国、皆どれ一つ取つても、独り裸で孤島に放り出されたと想定したら、直ぐ、己の非力を肯定せざるを得ないほど、我々は周囲すべての恩恵の上に存在する。あたかも、お釈迦様の掌上の「孫悟空」かも知れない。

重ねて申すが、あなたの立派な発明、考案も、現社会と言う、将来へのワンステップの要求にタイミングよく、出来たればこそ、有用なのである。若しその時代、社会の時代要求が、少しでもずれていたら、残念ながら没だと思ふ。

発明考案はご存知のとおり、新規性、進歩性の上に在り、また、世に出ても時代とのマッチング、つまりその時、多くの人の要求があるか、場合によつては、需要の喚起を自らして行く事も、考慮しなければならない。他章で申したように、「切り株の傍で待つ。」では優秀な発明も世に出す事は出来ないだろう。まして己のみでは。

第4章 頭脳の素質の差は小さい、訓練次第で大差

発明考案の、大先輩として、我々は敬意を表する意味においても、エジソンに言及しない訳にはいかない。

彼の名言として、「発明は、1%の閃き・暗示（インスピレーション）と、九十九%の汗の結晶（努力）」と言われた。

誰しも、発明考案に、関心ある者は、一度は聞いた言葉と思う。

動物特に人間の頭脳は、良性の刺激を適度に与える事に依って、次第に進歩する事は、今や常識である。勿論、他の動物にもある範囲で言える。

まだ、完全な物とはいえないが、頭脳の実働模型のような、コンピュータを考えれば、ソフトウェアのインプットは、まさに、人間における、学問、あらゆる経験の蓄積に似ており、この蓄積量と、その質如何が、コンピュータの基本的性能の優劣と共に、有用性を評価される。

各専門分野における、第一線の有能な開発担当者でも、まず、幼少時から、出来る限り幅広い体験の積み重ねをソフト化しているからこそ、現在の職務に対応出来るのである。

多年にわたり蓄えられた経験、知識も、只無作為^{むさくゐ}に抽出されているのではない。

一般に、夫々その分野に身をおいて活躍するのに何らの不足を感じない、人間の頭脳と言ふコンピュータのソフトインプットには、有り難い事に「心掛け」と言ふ、ベースのソフトがある。これを、いかに十分活用できるか、どうかでそのコンピュータの優劣が問われる処である。

研究業務は、通常縦深に突っ込んでゆく事が多い。これからは益々社会の流動化が進む時代であるから、只、一つ事だけに知識集中する態度では、まず、どのような職種にあつても、業務の遂行は難しい。

如何に崇高で、新規性、進歩性にすぐれ、時世に適合した研究であつても、結局、現社会に於いて、役立たせるものだ。努めてこの点に着目し、己の属する技術分野の一般的知識は勿論、むしろ、無関係と思われる範囲まで、所謂、雑学的知識の吸収に、心掛けたい。発想の行き詰まりを生じた時、多くは馬車馬的思考に陥っている己に気が付かぬ時か、または、専門知識不足に起因する。その他、先に述べた、雑学者でなければと、痛感する。兎角、雑字と申すと、何か学問の埒外^{らちがい}にある外道^{げどう}のように、軽視する向きがある。

とんでもない!! 誤解である。

「雑学」と、文字の印象から誤解を受ける被害甚大である。「雑学」殿にお気の毒だ。

雑学とは、一般学問のように、幅狭く扱いその分野を限定出来ず、また、分科された個々

の狭義の内に、収容しきれない、広大な範囲にあるものを、包括しておる。

また、未理解の為、系統立てては、それこそ、論文もまとめられぬ程広汎である。

それゆえ、この件は、これで打ち切りとし、読者の研究に委ねる。大分脱線したので、この後かたづけに、ゆき詰まった時の、気分転換法を一つ。

お奨めの方法がある。それは、小中校或いは高校位までの、理科系、社会科系の教科書を、気楽に眺めてみるのも、結構面白い。懐かしい。そしてまた、忘れていた法則、定理等を見ると、（熟読ではない。）ハハアーンと何か、頭の隅がムズムズして、思わぬヒントが得られるかも。

大学者先生でも、専門外のごく基本的知識には、思わぬ欠落した処があると思う。失礼。己の属する技術の第一線で、第一級の技術者を自負するアナタでも、小中高校の教科書で、現に専門外の部門にある、平易な定理、公式等全て覚えておられようか。

この際、この様なエアー・ポケットに目を通し、確認なさるのも決して無駄にはならぬ。それこそ、近い将来役立つであろう思わぬ埒外の部類として。

案外、このように、ソッポの方に気が向いている時、主題とする懸案の「鍵」がヒヨット見付かるようだ。別章でも述べているが、発明考案と言う開発業務は、先人、先輩の足跡の上に己の苦心と努力の発想を加えて、成り立っているのだ。兎に角、先哲の後塵を拝して行く謙虚さがなければならぬと頭を整理し、より一層素直さを求めるところに、柔軟

性のある発想が与えられる。

また、あなた自身も将来は、後進に同様の畏敬と感謝の目でみられる立場にあるに違いない。発想力の高下は、謙虚に事を観取る包容力!! この感覚が根底を為してる。そして先に述べた雑学は、何時、いかなる時でも、あなたの引き出しに収納出来る。

あなたさえ、何時でも開けられるだろう「ナゼ!」と言う、あの幼児の心の「鍵」さえ、持ち歩いていれば。

第5章 「シマツタ?!」は、「シメタ!!」

この激烈な、現代の技術戦争の中で、日夜を分かたず奮闘されている皆さん。

己の研究開発に、真剣に取り組んでいればいる程、「ウーン」と絶句するような、ライバルの開発技術発表に、ショックを受けた事があると思う。

こんな事の一つや二つでへこたれる様では、早速アツサリ閉店廃業したほうがよい。全くショックを受けるのは当然だ。

人間の考え方は、大きく見れば、五十歩百歩のもの。同じ分野で同じ様な目的に向かっていれば、必ずいつかは、同じ考えから、同じ結果が出てくるのはあたりまえだ。

それは当事者は或程度は、覚悟しているものの、しかし己の先を越された技術開発の発表位、飯のまずい事はない。時と場合に依つては己の職責上進退問題にまで及ぶ事もあるう。しかし、この様な「シマッタはシメタ。」である。ライバルの開発内容も知り得た事だし、あなたの脳裡には、瞬間、無意識に発想転換の自律作用が働き始めている筈である。事の次第は苦しいけれども、冷静に受け止めることは当然だ。

さて、今後の研究姿勢はいかにあるべきか。己のポストによつては、一概にかたづけられるものではない。技術的立場にある者としては、政策的營業的対応は別として、現在までの技術研究が、少なくとも如何に活かせるか、又は思い切つて中断すべきか、この決断は、研究当事者のみならず、経営的見地からの判断に任せる場合が多いと思う。

昔から言われている、「待つ有るを待む。」つまり、平生より、いざ!! と言う時の構え（備え）が大切と思う。

話を他に移す。よく人生行路の譬えに、富士山の登山口が引き合いに出される。

登山道は幾通りがある。頂上は一つ、丁度、発明への到達点に幾とおりかの道が、有る場合に似ている。

他社（者）との競合の続きとして、ライバルは吉田口（富士登山口の一つ）ならば、こちらには御殿場口（前に同じ）から登ろう。いや、待てよ!! これでは月並みすぎる。山肌を登るより、「ヘリ」だ!! そうだ。ヘリコプターをこの際使うべきだ!!

この位の機転は利く位の頭脳は持たたい。

なに!? ヘリは大分昔に、富士山ドーム建設に使われたって!? それはそうだ。

今、ここでヘリを使う話は、譬え話として言っただけだ。(ドームは、今は頂上にない。) 全く頭がトンカチだな!! こんな揚げ足取る暇あったら、もっとマンガの本でも読みなさい。マンガも物によっては、頭脳の「軟化剤」だ。「おい!!」。脳軟化する薬じゃないよ!!

固い誰かの様なアタマを、柔らかにする薬と言う意味だ。読みすぎのぼけは、注意してね!! と、いうわけで、話は半分それだが、ライバルの陽動は、かえって、我が方の対策が楽に進められる事も有る。

ところで、ヘリコプターって、この話の中でなんだ?!

それは、この章の中頃で一寸話した、「待つ有るを待む。」「備えあれば、憂いなし。」「この二つの諺、「いざ」と、いう時の準備をしておけば、心配無し。」「皆の知つてのとおりだ。このヘリは、その仕事の、万事に対する対応法とでも言う、伝家の宝刀とも言える。企業の命運をになう技術者、研究者として、時にはライバルあるいは、この現状に無関係な企業等が、我々が目指す目的の基本技術の特許権を既に取得しているような場合も想定される。

この時は、その基本特許に抵触しない技術開発可能ならば、大いに頑張るべし。

もし、如何ともしがたい特許技術を既に相手か他社が取得しておれば、先方の同意を得て実施権を設定すると言う方法もあるが、げんとう拳骨（無料）じゃ出来ない。

誠に、残念だが、やむを得ない結果だ。現に、米国の企業に、日本の企業がこの様な立場で高額の特許料を払わされているのは、日本が取るより余程多い。この事は既に皆ご承知の通りだ。

我が国の若人諸君。新世紀は、諸君の活躍の場だ。奮励努力、是非この立場を逆転される様切望する。米国人は、我々日本人と比べ矢鱈やたらに権利を主張する国民性だ

我々に関わる工業所有権法においても、彼等に対する法律上の対応も、しつかり、学んでおく事は、技術の研究と並行して、ゆるがせに出来ない重要事項だ。

また、この様な実施権設定の場合によつては、己の属する企業が、積極的に行つ時もある。そのような時は、研究者、技術者としては、誠に不本意であるが、研究費と完成までの時間を考慮すると、他社の発明を買い求めた方が利有りと、トップの判断が下つた時だ。また、己の企業において、ライバルの特許技術に触れない技術開発可能と判断の場合は、まず、現実に我が技術に関連する情報、例えば特許庁からの諸公報をはじめ、業界紙、一般紙に至るまで広く、我が目的の障害となるものの有無は、疎漏そろうなく点検するのを、スタートと、すべきだ。更に、必要と思う時は、特にこの方面に詳しい法律の専門家の意見も参考にする。この様な調査をおこたり、特許侵害等の訴訟問題を生ずる愚は避けるのが、

当然である。特許出願の日から、一年六月経過した出願は、特許掲載公報の発行した物を除き、その明細書、図面、要約書の内容が、「公開特許公報」に出願公開される。

この「公開特許公報」が最新情報と言えよう。

しかし、この場合通常、出願の日から一年六月間は、特許庁のお蔵入りの状態と考えられる。それゆえ、この間の出願情報は、出願人のみぞ知ると言っわけである。

それこそ、支那春秋時代（中国）の孔子の訓えにある、「一隅を教えて、三隅を知るにあらざれば、吾教えず。孔子」とある。

他の企業等が「出願公開」に発表された内容に、我が研究関連の出願案件が有る時は、申すまでもなく、その企業の進路が推定出来る。勿論、先述の「出願公開」前の一年六月を含め。

当方の研究内容の深度と範囲が大いに関係するところだが、これも「待つ有るを待む。」心構えは申すまでもなく、情報のアンテナは鋭敏に、この様な窮状の打開をしてこそ、研究者、技術者冥利と言える事であらう。

第6章

誰でも出来る、家庭用品の改良 （発想法練習の一段階）

「日常の茶飯事^{さはんじ}」とは、昔からたやすい事の表現だったが、かつての敗戦前後は、茶飯も大変な苦勞だった。

兎角、身の回りに存在する品物は、そこに当然あるものと、無意識の内に理解している。そのせいか、有難さも感じない。有るべくして其処に有ると言っただ程度だろう。

いまや、どんな貧乏暮らしでも、鍋釜と布団だけと言う様な生活は、まず、有り得ない。誠に物質面では、豊かな世の中である。

中流意識の世帯が殆どである我が国では、どの家庭でも什器類^{もじりぐ}、その他の用品が溢れている。

話が大分、飛躍するが、茶道で用いられる、茶器もピンからキリまでであるが、あの儀式ばった所作の中には、合理的で無駄な動作がないそうだ。

茶道については、門外漢で、何も知らぬが、茶の湯のもてなしは、テレビその他の事で、見学はしている。

茶道は、道具を大切に労りながら、扱う精神が感ぜられて、誠にすばらしい。日常所作の美の精華だ。

また一方、我が身の周囲に、ゴロゴロしている品物も、必ず誰かの労作に違いない。ちり紙一枚とて、人手を労して作られた物だ。

そして、ちり紙一枚が、今、ここに有ると言う事は、何人かの手数をかけてきた、有難い物だ。

たまには、身近に置いてある品物を手にとり、つくづく、眺めて観るのもよい。其の物を構成している素材、種類、機構、作用等、つまり実用品としての存在価値、其の理由。手に持った物への思いは、いくらでも、繰り広げることができ、其の展開の仕方と程度は、人、夫々千差万別だ。

本書の読者の中には、己の職業分野の事なら、こうあらねばならぬ。と一言を以って、鋭い評価、鑑識眼を發揮される事だろう。その眼力を何時かは必要であろう雑学に広げたい。

夫々、身边にあるほとんどの品物は、その業界における、激しい改良競争の結果生き残りの物である。往時のものと比べ、機能は勿論、其の形態、彩色、デザインに至るまで立派だ。そして、性能は従来の物に比べ向上している。特に、戦後のプラスチック素材の多様化と、品質、そして成型加工技術の進歩は、過去に於いて、不可能なものを可能にした。

前編（発想の糸口を、作る）

そして、性能の向上とともに大量生産も可能にした事は、コストダウンにも貢献している。また、身の回りの品物に関しては、他業種に比べ、各メーカーは、ユーザーの意見要望に、如何に応えるべきかと、懸命である。

いやしくも、技術開発に関わる者としては、他分野の物に関心を持つことは、決して無駄ではない。一寸息抜きの時、このような傍観者と成る事で、日頃の研究業務への“閃き”だつてある筈だ。

そして、今、手にたとえ、筆記具を持っていれば、その物に対しての、率直な評価と意見は、整理しておけば、必ずや其の物の改良のみならず、或いは新製品開発への足掛かりとなる貴重なあなたのアイデアである。其のまま、「ボツ」にすべからず。

門外漢のアイデアこそ、「傍目八目」（おかげはちやく）、急所を衝いた独創の眼が、新製品開発の原動力となる可能性大である。

そして更に、筆者の意見を加えれば、大量生産により、作られ商品として、世に出まわった物は、その品の購入者から見れば、まず、こちらの考えが、タッチしたものではない。確かに、求める時は、「良い」「便利だ」「使い勝手がよさそうだ」「気に入った」「あ、こつう物が欲しかった」「こんな物あったのか」「等等、求める気持ちに差こそあれ、買いたい求めたわけだ。その後、望み通りそのまま、役立つ場合は良い。完全に満足の品が、手に入った訳だ。

若し、そうでなく、十分満足しない場合は、なぜ、なのか。「必要無い物の衝動買いか。」或いは、「必要にも拘わらず、期待した程役立たずか。」その原因を究明し、期待した程の機能が無いと判断した場合は、己の能力、つまり其の物の、機能不足部分の、改修に要する技術、そして必要とする工具、機械等が揃っていれば、十分改良法検討の上、改良に着手しよう。首尾よく成功すれば、大いに宜しい。但し、学習のためであって、実用には、果たして如何!? 柔軟なるご一考を願う次第だ。このような思考から、新製品に繋がる発想も生まれやすい。

第7章 世に発想の種子は、“ゴロゴロ”

「ご承知の方も多いと思うが、漢詩の構成は五言絶句、七言絶句その他ある。大体「起」「承」「転」「結」と、四句構成の漢詩が多い。

また、新聞連載のマンガも、四駒の「起、承、転、結」はご承知の通り。

我々が発想する、発明考案の行程は、詩作の順序や、四駒マンガの創作に似ているように、筆者は思う。なぜかという、漢詩や歌を創る時の発想も、発明考案する時の頭脳の

演算も、内容が異なるのみで、漢詩で表現したい、山川草木の自然や、或いは己の心情を詠いたい思いにかられる時と、発明目的の外殻が、大体まとまって来た時、と、やや似た感じを持つ。これは、筆者の考えであり、他の考えをお持ちの方も居られよう。

漢詩においては、表現に用いる文字を選び、漢詩の決まりである、平仄ひょうそくつまり、漢詩で漢字の遣い様つかに従って、己が添削しつつ一体の漢詩が出来上がる。

同様に発明考案においても、この範囲が広汎であるから、一まとめに説明し難い。

夫々、物理、化学の定理、諸法則の上に、物の働きが成り立つから、詩作における文字選びと、平仄にしたがうのと同様、物理、化学の定理や法則を無視しては、発明考案の発想には到達しない。頭脳の働きは、ひと、夫々、皆微妙な違いはあっても、大筋においては、大体同じ働きと思う。

私事を申して恐縮だが、筆者が発明考案を職務とする場に、身を措おいて、詩作や俳句などの発想の援けで、比較的不自由なく発想し、それこそ、大過なく責務を何とか果たして来た。誠に不思議とも思えるが、頭脳の働き其のものには大差なく思う。

見方を少々変えて説明すると、碁の定石、将棋の定跡を覚えれば、誰でも上手下手は兎も角、打ったり、指したり出来る。この様な頭脳の働きは、皆同様の演算と言えそうだ。同じ説明を前にもして一寸、くどいと思うが、読者の頭脳に焼き付けたいと思うので、悪しからず、許して頂きたい。人間の精神活動の範囲は無限であり、この発明考案も、そ

の一分野であるから、これから人類の存する限り、無限の進展があるだろう。

どうしたら発明考案が、己の技術力の中に取り入れられるか。今までの説明では、万全でなく、理解されたとは、確信がない。

発想のひらめきは、あたかも禅の修行者が、日の出の一瞬に、多年の宿願の悟りさとの境地に達し得たなどと、言われる。百万遍の説法を聞くより、己の目指す目的を定めた上で、失敗にくじけず、それこそ、エジソンの九十九%の努力の外にない。邪念を去り、無欲無心で、広く物事を観る時、自ずと天与の発想が授けられる感じを覚ゆる。其の為には、己の頭脳は、今、何をテーマとして、演算を開始しているのか。その方向づけが、ソフトに繰り込まれているのか。(目的を十分理解しているか。)己がその進めるべき方向を確認しているか、どうかの自覚の有無。造物主への逆らいはないか。天与の恵みである発想は、全てこれらの結果として、最も素直な発想者に与えられる。

我々は創作などと、如何にも己のみの能力で、創つたように考えるが、さにあらず、造物主なる眼に見えぬ偉大な力が、芝居における黒子のように、我々につきまとい創作の力を与えて呉れるように思われる。

造物主なる天地のお陰で、我々が存在するように、我々が創りだしたと思っている現代までの、文明の利器全て、その発明考案の閃きと努力をした者へ天与の物と思えば、これから限りなく授かる事だろう。

天地を汚す、天にツバする様な発明は、愚なる事、努^{ゆめ}すべからず。

現代に生きる我々は、今まで、我々現在必要な事柄のみに、耳目を傾け過ぎである。

我々には後世を託す子々孫々の将来を熟慮し、その対策を早急にたてねばならぬ秋にある。重大なる責任がある。

既に人類はそれに気づき対策は打ち出されているやに、思われるが、後世に悪影響を及ぼす懸念は、拭い切れないのが現実だ。今後、創出する諸々は、これらの対応を最優先に配慮し、綺麗な環境を子々孫々に申し送れる思いやりを以って対処したい。

第8章 寝床の発想、メモのご用意

「夢枕に立った、神様のお告げ。」なんて古臭い言葉と、思うかも知れないが、真夜中にグツドアイデアが生まれる事だつてある。

つまり、誰でも時には夜、なかなか寝付けずに、ウトウトしている時。こんな時をむしる積極的に作る積もりでいれば、皮肉なものですぐに、高イビキ間違いなし。その常習者がそれを体験証明しているから。

早寝早起きの人は、午前三時四時頃目覚め、寢床で漫然と無駄な時を過ごすのは、もったいない。この様な時には、時には瞑想、迷想、発想、妄想等と頭の回（怪）転するのも宜しい。

ところが、不思議なもので、真夜中に浮かんだ迷想だか、発想は、一晩明けると、アラ!! 不思議。己の頭の隅にも、何処にも残っていない。

グッドアイデアだったんだがなあ! とこの事だけ。かく申す筆者は過去に幾度もこの愚なる経験者である。釣り損なつて逃がした魚程大きい。後の祭り。

二、三日、何か失った気持ち^{ゆめゆめ}がぬけず、情けない。

いやしくも、発明を志す者、努々（夢夢）夜中の発想を、無駄にすべからず。

宝くじに当たる確率より、あなたの発想の確率の方が、御利益間違ひ無しですぞ。

己の寢床の枕辺には、今後、メモ執る準備おこたりなく、夜中に、急に明かりをつける、隣の「山の神様」に迷惑する。ペンライト等で事足りる。

録音と言う手もある。そこは工夫して、兎に角、翌朝まで折角の発想を、現実のものとして保存しておく、心構えが大切である。発想の要点だけでよい。

寢床でメモに記録する下敷き板も、一寸工夫してペンライト照明付きにしておくと、仰向けのまま、楽に記録し易い。工夫は手元から始めよう。

「昔から思い立つたが吉日。」と言われている通り、即、（すぐに）実行この行動力こそ、

優秀な発想を得る為の心強い協力者と思う。

第9章 デパート、スーパーは、発想教材の陳列場

この頃のデパート、スーパーは、「無い物は御座いません。」とばかり、有りとあらゆる品が、店内に溢れている。

戦中、戦後の日本を知る人にとっては、誠に、今昔の感にたえない。

これも日本国民が、敗戦後ガムシヤラに形振りなりふ構わず、働いたお陰だ。

今や、世界における日本の存在は、かつての、農産物輸出国はとうに消え、工業製品生産輸出国として、世界市場に優秀さを認められるに至っている。

これは一に、我が民族の優秀性に基づく事に異論はない。

我が国で商品と名のつくもので、何らかの工夫が無い物を探すに苦労する。例えばちり紙一枚、爪楊枝一本に至るまで、改良のあとが見られる。あの小さな爪楊枝にしても、手元の端のところに、同心円に2ミリ間隔位に三本の溝が掘ってある。これは尖端に一番近い溝を折り取り、膳に置きそこへ爪楊枝本体を置くと言う、誠に日本人らしい気配りだ。

恐れ入った発想だ。衛生への配慮だ。

勿論、このように眼に見える品物の、改良工夫は誰が見ても、直ぐ理解出来る物であるが、表面的には何の変化も感じさせない品々の進歩も著しい。

釣り糸は昔、天然のテグスや絹糸が使われていた。いまではナイロンに代表される化学繊維に独占された。この化学製品の強度が、滅法強いから驚き入る。化繊の糸をオヤ指位の太さに撚ったロープで、普通自動車一台軽く持ち上げる強さだ。

科学の進歩は誠にスバラシイ。

かつては、アイデアとしては生まれていたが、素材の性能不足、加工技術の精度不良、また、あえて作るにしても、市場性を無視するコスト高等の為、商品化出来なかった。その良い例が、飛行機が代表である。アイデアはあったがエンジンその他がでなかった。今や、時代は進み、街の店、スーパー、デパートには、現代文明を象徴する電化製品をはじめ、諸々の品々が、大袈裟に言えば、地球創生以来の優れた文明社会が到来した感がある。表向きは??

この様な、演出力を構成した主役は、ご存知の通りプラスチック成型品の材質及び成型技術全てが格段の進歩発展の結果に負うところが大きい。

このプラスチック製品は、成型品であるから、金型精度が製品の良否を決する。また、この金型製造技術は、各種金属加工法の進歩により、其の精度をたかめ、一方プラスチック

ク素材その物の進歩、つまり新材質で性能向上した物が、近来数多く発明或いは改良された。

すなわち、その素材は低温域から高温域の環境に於いても、その素材の目的に応じて、性能を維持出来、かつ、他の素材例えば金属、ガラス、炭素等との混合、或いは化学的結合をさせた新素材として、従来不可能であった新天地を開拓し、ロケット、航空機、船舶、自動車等の外、きわめて広汎な使用が、可能となりバイオテクノロジー部門にまで貢献している。また、プラスチックの接着剤は、一見眼に見えぬ縁の下の力持ちだ。

一方、我々が日常接する、身近な品物を扱うスーパー、商店、デパートの様子はどうか。

まず、この方面で扱う品物は、枚挙にいとまない。スーパー、デパートから、目を各家庭に向けてもらいたい。他国の家庭は、いざ知らず、我が国の家々では、この半世紀余りの過去と比べ、生活様式が革命的とも言える変革を遂げた。それは衣食住全てに亘っての事を、意識、無意識を問わず理解している。

敗戦直後の一時期まで、コンプレックス表現である、「欧米崇拜思想」は、彼等の文明の産物を「舶来品」と称して無条件で取り入れていた。

勿論、我が国の諸産業は、幕末以来昭和初期の頃まで、欧米諸国の模倣時代が続いた。それゆえ、舶来崇拜の時期があったのはやむをえない。

しかし、現在はもう違う。資源に乏しい我が国が、今日の隆盛をみるに至ったのは、敗戦後の国民が嘗々たる努力に加え、他国に勝る発明工夫の積み重ねがあつたればこそである。「猿まね」なぞとは、無礼千万である。

かつて、百貨店と称されたデパートそれに、スーパーは、当然「百貨」は字の示す通り数々の品を意味する在庫で、当然それら生活用品の展示場と言うに相応しい所である。息抜きには、スポーツ大いに宜しい。また時には、何の目的もなく、それこそ漠然と、スーパーやデパートの散歩はどうだろう。平生なんの関心もない、ぶらぶら歩き、思わぬ目覚しをしてくれるヒントを、授かるチャンスになるかも知れない。

特に何か壁にぶち当たり状態のスランプ時、近くにいくつかスーパーでもあつたら、たまには、休日の定期散歩コースを作つて決めておくのも良い。

衝動買ひして、思わず「シマッタ。」!! あとで、山の神の逆鱗げきりんにふれる。

まあ、この位のリスクは覚悟の上、わがコンピュータへのインプットができれば、矢張り「シマッタ!」は「シメタ!!」だ。

この章の中頃に、「表向きは??」と申したのは、化学製品は、全てではないが諸刃の剣、毒性対策等今後への宿題がある事を忘れぬ様にしたい。

第10章 たまには、「狂った」組み合わせをやってみる

几帳面さは、平均的日本人が持っている、美德の一つと言える。

前大戦後は、大分、日本人社会のモラルが低下した。心ある日本人は、戦前より受け継がれた、美点は持ち続けたいと思っている。

新聞種になる社会は別として、実直な人々は、家庭や職場で、余りにも平穩過ぎると、何か物たりなさを感じて仕舞う。誠に贅沢なはなしだ。日本国内大部分は、この恵まれ過ぎた暖衣飽食の中にある。

第二次大戦後、種々のプラスチックの生産技術の、際立った発達は、鉄、アルミ等の金属製品ならびに陶磁器等の、相当広範囲の品々を駆逐するように置き換わり、日常生活用品のコストダウンを実現した。

従来は高嶺の花と思われる様な品々も、プラスチック製とした事により、大量生産が可能となり、大衆化が進み生活の潤いを増す事に貢献大なるものがあった。

これらの品々も一見したところ、どうとも感じないのが普通と思う。

しかし、これらの製品が世に出てゆくまでには、関連する異種部品、各種プラスチック

の素材、金型製作、成型機械の製作、その他ここに書かずともネジ、ナットに至るまで、各分野の技術者等の皆々努力の賜に他ならない。実に有難い感謝の極みだ。

話は一転するが、人間今まで述べたように、暖衣飽食に馴れてしまっていると、兎角、脱線する事は、好まぬもので、また、それが煩わしい。現状維持が抵抗も少なくて楽だから、よく物事のはじめ、つまり転勤、退職等の時使われる挨拶言葉に、「大過なく・・・云々」と言う人がいる。これは、勿論謙遜だが。

それこそ、大失敗は困るが、発想のためには、少々失敗は発想の切っ掛けとなる。捨て難い一つのステップに置き換えられる事もある。

また、軽いハングリー状態は、体調を整えるにも、時々必要と思う。

特に、発想は満腹で満ち足りた状態では、望めない。

話がまた変わるが、アメリカでは、東洋原産の豆腐が、今やヘルシー産業として、お受けのようである。その食べかたは彼等らしく、「トウフステーキ」等日本食とは変わったレシピで食べているようだ。

私事で恐縮だが、豆腐は好物の一つで、今から四十年位前から、時々豆腐にマヨネーズやトンカツソースで食べる。また、冷やっこに玉ねぎの薄切りを細かく刻み薬味とする。なかなか、目先も味も変わり、甲とは言えぬが結構乙な一品だと思う。

貴重な紙面を使って、なんでこんな話をとられると思う。余り褒められたレシピでな

いが、たまには、こんな非常識やって見るのも無駄じゃない。「下手な鉄砲も、数撃ちやあたる。」時には、発想の非常識をお奨めする。

そんな事、分かっていると、思ってたやっていない事の中に、結構役立つものがある。我々が常識と思って、実験もテストもやっていない中に、未経験の眠れる宝と思われるものや、アイデアが幾らでもある事だろう。

先の、冷やっこのレシピはいまでは、我が家の特製メニューとして暑い日、湯上がりのビールと……。もうこの辺で失礼。

事程このような次第。たまには手料理を作る。味付けは目分量、良く出来た時は家族の評判もよいが、百発百中美味とは行かない。家族の評判は、ご想像にお任せする。

実は、不評を逆手にとり、酒肴になるものを作って美味い時は、まずそうにたべ、失敗したように見せ、こうゆう時は、家の者は、見向きもしない事を幸い、独り悦にいつてチビリ、チビリ。この戦術、企業でもどこかで、応用出来そう?! お粗末。

時に、正攻法を用いず、状況に応じて「はかりごとで攻める。」謀攻を用いる事は、企業の行動に於いても、他からの謀攻を考慮しなければならぬ時もある。謀攻は事業には用いるべきでない。正攻法こそ繁栄の道である。

第11章 「トイレ」は、座禅道場と同じ、精神統一の場

冒頭、尾籠な話で大変恐縮だが、排泄は人間のみならず、動物全て、摂食の次が排泄で、どちらも、このくらい大切な行事は外に無い。

毎日、食べるばかりで、排泄の方を怠る時は、どうなるか、これ以上申すにおよばず、先刻ご承知の事。

いや、毎日の大切な儀式の場、つまりトイレを単に排泄の場としてだけに、使っていたのでは、この建築単価の高い昨今、償却に年月が掛かりすぎるから、オマケの仕事の場としようと言う、迷発想と言う次第。

座禅の修行、真似事でもよい。禅寺で座禅し、また冥想にふけた経験者なら、この相通じること、理解される事と思う。

あの排泄中と言うものは、誰しもご承知の通り、是なかなか快的で、禅で言う「無」の境地に近いかな？！

トイレ位、心のリフレッシュ出来る個室はほかに無いかもしれぬ、等と言う我が無能（脳）ぶりをさらけだしている次第。

兎に角、短時間だが、精神集中出来る、またとない貴重な場所だ。

ウーンと利用すべきで、何も狭い発想のみにとらわれず、人生の大事な決断事案も、この部屋の活用を、提案申しあげたい。

そして、本論の良い発想を生む場で、ある事も祈っておる。

最後に、禅道場の導師殿へ、この比較文、大変失礼を申しあげました。よもや、ご立腹為さるほど、狭量ではおられますまい。失礼は、重ねて平におわび申し上げます。ご寛恕の程を。

第12章 課題は、いつも複数持つて

チャランポランな性格の筆者だから、この様な考え方が出来るのだらう。

所謂、氣が多いと言うやつで、実行力はなく、持て余すくせに、やる気だけ大有りで、仕上げは適当な、「瑕^{きず}に玉」（間違いでない。どうにもならぬ奴に一寸良い所がある。）みたいな者と言う訳。

万事このような次第で、幾つもの事をスタートする。処である。あれもこれもだから、

はじめからそう簡単には、出来ない事は、分かりきっている。我が心の中では、この停滞を楽しんでいるらしい。

例えば、模型鉄道を作り始め、ハム（アマチュア無線技士）のアンテナ作りを始め、更に日曜大工で、机作りとくるから、どうしたって、そう簡単には片付かない。

発想法からすれば、確かに邪道とおもうが、鉄道模型作りの最中、チラッと、アンテナの事を思い出す。また、机の事もチラッ、コンピュータは、三つの事に作動している事は確かだ。このように書くと、頭の中が、分裂しているかに思われるが、本人から見れば、この時は、人より三倍楽しんでいる積りであるから、始末が悪い。

一つ課題に、それこそ、全身全霊を打ち込んでゆく。これは特に緻密な研究業務に携わる時は、当然の姿だと思うが、ときには、客観的立場で、己自身を観る事が出来るような心のゆとり、つまり、道楽も大切な事。特に、打ち込んだ態度で、研究に没頭している時こそ、何でもよい、己に適すると思う趣味道楽のたぐいを並行して、息抜きとして持つ事は絶対に必要と思う。それこそ、頭の隅っこに息抜きの場所を確保しておけば！

只、馬車馬的に、主とする研究に没頭するタイプは、我々日本人に多いと聞く。中には「仕事が道楽だ。」と言い切る人がある。誠に結構な事ではある。

これも順境にある時は良い。いざ、ひとたび悪条件が思わぬ時に発生し、逆境に陥った時、このような思考では、気を抜く逃げ場が無く、壁にぶち当たった状態となる。

私事で誠に恐縮だが、かつて、息子が大学教養学部終了前、進学する希望学部の相談を受けた時、我が経験から、趣味道楽に類する分野の学部は選ばず、他に進むようにアドバイスした事がある。

「好きこそ物の上手なれ。」という事もあるが、この目まぐるしい変化のスピード時代だから、自らの精神安寧の場を犯す様な事になりかねないので、次善の分野を生業とするよう進路を選ばせた。

第13章 自惚れすぎずに、自惚れる

子供でも大人でも、何か遊びなり、仕事をしている様子を見てみると、成る程うまくやっているなあと、つくづく、感心する事がある。

筆者は、町場で職人さんが、品物を作っている所にぶつかると、一寸つい立ち止まって、道草を食う習癖がある。東京の下町育ちのせいか、家の近く周辺には、種々の職業の職人兼商売の家が多かった。職人の手捌きを観れば、どの位の腕前か、お陰で直ぐ分かる。

矢張り、年季の入った職人技は、見ていても実に気持ちのいいものだ。この腕前に成る

までには、おそらく永年の厳しい修行のうえになり立つた腕前に違いない。

昔から、良い意味で、「職人氣質」と言う事がある。

これは、他人には無い、己の磨き上げた努力の賜が、俺の腕前だと言う、密やかな誇り、つまり男一匹の矜持^{きやうじ}が、物の形として現れ、その心意気を物語^{てさは}っている。

これと、また感じは大分異なるが、矢張り修練の手捌き^{てさは}を見せて呉れるのが、大抵このオフィスでもパソコン、ワープロを扱う熟練のキイパンチャーのスバラシイお手並みだ。昔はタイプライターの派手な音だったが、今は快いリズムミカルな指の動きから、オフィスルーム内を躍動感に漲らせる、活気の根源のように感じさせる。

しかも、彼女が、スマートレディときたら、周囲のムクツケキ者共、終日の労を厭^{いと}うまい。

パソコンの馴れとて、そう簡単には習熟出来るものでもなく、人知れず修練に打ち込んだ努力の現れだ。

話は一転して、日本古来の計算機、算盤にも一寸触れよう。ご承知の通り算盤は、中国から渡来したもので、今何処でもみられる形の物は、日本で改良の結果、出来上がった。最近では電卓に圧倒され、かつての隆盛は見られぬが、それでも国内所々に、算盤塾は健在だ。隠然たる力を持ち続け、子供等が算盤の学習に励んでいるのは、実に頼もしい。

是非、算盤の灯は消さぬようお願いしている。と申すのは、算盤が構造簡単な訳は、実際に

加減乗除の演算をしているのは、持ち主である人間で、算盤は演算の時、一時、便宜的に置（値）数を表現するだけの、パソコンで言えばパネルと同じ働きをしているに過ぎない。子供に計算練習は、算盤か暗算又は筆算で練習をさせるべきで、電卓は不向きと思う。驚く事に、算盤高度の熟達者は、十けた、二十けたと言う、我々一般の者では、筆算でも容易に出来ぬ高度の計算を、暗算で難なくやって仕舞う。誠に恐ろしい程の頭脳だ。

人間、何事もやる気になりさえすれば、努力次第で、あそこまでは到達出来るという、素晴らしい手本と思う。その様な訳で、子供に電卓を持たせるのは考えものだ。

物事に、立ち向かう自信のある無し、口で言うのは簡単だが、実は自信の持てるようになるまでが、大変な苦勞である事は、ご承知のとおり、仲にはいくらやっても自信の持てぬ事柄もある。

この場合は、一つには高望みをしすぎるか、或いは所謂、「得手に帆をあげ。」に逆らつての事と思う。

特に技術開発と言う、積年の幅広い知識の蓄積を土台とした、発想を目的にする仕事に於いては、どうしても、其の仕事に対しての自信のあるなし、つまり、その仕事の為の幅広い範囲の知識が勿論土台である。前の方の章で触れたが、雑学と称する範囲の知識拡大は是非、心掛けたい。

人間誰しも、得手、不得手が夫々に異なる。それだから、世の中持ちつ持たれつ具合よ

く行くのだと思う。

これからの社会は、各部門が、更に細分業化が進む事は必至だ。それゆえ、各自分担する幅は狭く、そして奥行きは深く探求することを、人々に要求される。

学校の進学状況にも、その兆候と言える現象が、専門学校の繁栄と言う形で広がりにだした。大学、短大指向は少子化とともに以前程ではなくなろう。

前述のように、これからは個々人への業務上の要求は、専門中の専門家とでもいう、兎に角、この事については、彼以外には任せられぬと、一措かれる程の努力が求められよう。時代は停滞していない、それゆえ、慎み深い心掛けを持った日々の研鑽が、あなた自身の支えだ。自惚れる程の実力を蓄え、秘めて持ち続けよう。

そして、社会や企業が、アナタに求める物は、優れた発想力つまり、技術研究部門においては、発明考案を基幹とする開発力であり、又経営に参画する地位においては、卓越した企画力の持ち主と言う事になるう。

第14章 小中高校の理科、社会科（技術・家庭科）総復習

多くの段階に試験制度が採用されている我が国では、大学卒業位の年齢に達した人は、試験に対して、歴戦の猛者^{もさ}と言えよう。

ここで、各試験全てが、「満点合格」というのなら、一寸話が変わって来る処である。合格点は、相当難関と言われる、国家試験の中でも、65点位以上の得点で合格のようであるから、出来なかったか、或いは間違った約35点ぶんの知識は、放置されて置いたらどうなるか？ 合格後失点部分の補習をすればよいが。

かく、申す筆者など恥ずかしながら、試験後はどこかに返納して、それっばなし、キレイに忘れる方だ。まあ全部の人が筆者と同族と言う事は、なかるうが、社会の一部分には、この65点人で成り立っていると言つては、大暴言とお叱りを受けるかな!!

次にこんな、話はどうであろう。自動車運転転免許試験（合格点は65点より高いが。）も、こう考えて置かないと、試験の解答不完全部分にあつた知識の欠如または誤りが、事故の原因にもなりかねない。

過去の交通事故当事者、特に、発生原因者の試験結果の内容分析と、事故内容の突き合

わせ調査は、今後の事故防止に何らかの解答を示すに違いない。

時々、脱線する悪癖は、生来のも故お許し願っておく。

今示したような観点から、大変失礼な事を申すのをあしからず。

余程の臭才？（秀才への僻^{ひが}み）は別として、誰しも習った事一〇〇％理解していたとしても、相当部分の大切と思われる事柄も、時の経過とともに、忘却の彼方にあるだろうことは……。これ以上筆者のボロはご勘弁願う。

まあ、自動車運転免許試験はともかく、そんな訳で過去に習った初歩の諸々知識の復習、欠落の修復の特効薬は、章題に掲げた小中高校の軽い復習からやるのが早道とおもう。

熟読でなくても、宜しいから、昔取った杵柄^{きねづか}、小中高校時代の理科、社会科、中学の技術・家庭科の教科書を取り出し、素直にパラパラと読んで、心当たりの個所があったら、ゆっくり見るのもよし、中には、こんな事も習ったのかと、今更記憶喪失個所が出てくるかも知れない。

しつこく、幾度も申すが、発想を豊かなものにするには、雑学の範囲の広いほど、一寸したヒントが、現実の発想に結びつく。

味気ない晩酌と、思われるかもしれないが、かつて習った教科書パラパラ、チビリチビリ往年の己の周辺の事ども、僅かに残る教科書の傷や落書き等から、友との懐想等、この古い教科書の酒肴もなかなか乙なもので、ある瞬間、思わぬグッドアイデアだって有る。

これから先のアナタは、アナタと神のみぞ知ると言う訳。

忙中の閑に、ファミリースービスとして、こんなプランどうだろう。時に、適齡の小学校生の親父であれば、教科書真ん中に相手して蘊蓄^{うんちく}を傾け、貫禄を示せるかも。但し、自信のない時は、そつと聞いて相づちでも打ってボロ出さぬがよい。下手すると親父の貫禄丸つぶれになるのを、御用心あれ。と、申したいが、たまには、親父のボロも出した方が、親しみが増して、かえって信頼感が持てるかもしれぬ。分かった振りは良くない。

人生、仕事ばかりじゃ成り立たない。適齡に達したなら、スイートホームは、仕事をすゐるための兵站基地^{へいたん}だ。晩婚化した現代、若人よ！安心して任せる兵站司令官を早く、しっかり、確保しよう。

第15章 “ 全て “ を忘れて

毎日使っている自動車、エレベーター等特定の機械類は、使用するも、しないも時々手入れ、つまり必要とする部分の点検整備は、法定定期検査がある。

最近の自動車は性能が向上しているので、検査の間隔については、種々意見の別れる処

らしい。そこには、政策的意図が含まれている事は、たしかだが。車検の必要な事は、若し、現行のように法規で規制しないと、自分で整備依頼する事になる。こうなると、誰しも分かつていても、其の義務を怠る者が必ず出る。とやかく、言われながらも法定車検制度は、まだ必要だ。

これから述べる、身体の健康保持が、車の整備に似ているので、車検等の話を一寸借りて、前座の勤めを頼んだ次第。これより真打^{しんうち}。

我々日本人も最近では、人間ドックまたはそれに近い制度が、しだいに定着し、ある程度以上の規模の企業の従業員は健康保険組合に加入し、定期健康診断が配偶者も併せて行われる。また、地方自治体では、国民健康保険加入者対象の健康診断が、略全国的に実施されている。

我が国は、世界一の長寿国に、戦後成長した。その基礎には、このような制度の陰の功績を見過ぐす訳にはいかない。尤も、現状で国民の健康増進に十分であるとは、誠に残念ながら、誰しも思っていないと思う。

元来、己の体の健康維持責任者は誰であるか。是は自身の課題で、日頃健康維持に自ら努めず、例えば大酒を食らって、翌日は二日酔いを時々繰り返しては、人間ドックの受診をしても、無駄だ。上戸^{じょうこ}ならば、たまには、大酒を飲みたい事もある。酒が、「百薬の長」と言つのは、ほろ酔い加減までの事であるのは、皆、承知の常識だ。その自制の効かぬ状

態を度々繰り返すのは、アルコール依存症の範囲に在るのだろう。己の力だけで、治癒できずアルコール依存離脱不可能なら、専門医の門を叩くべきだろう。

この様な人は、体質的原因に依るか、酒で憂さばらしをしているのだ。

現在我が国が描かれている不況は、種々、外圧より生じている、謀略の様にも感じられる面もあり、政治外交の貧困にもよるし、また、一部の企業の経営者の社会に対する、モラルの欠如にも、起因していると思う。

如何に社会情勢が変化しようとも、己の健康保持の直接責任は申すまでもなく、己に在り、その補助部分を分担してくれるのが、各種の医療機関である。それゆえ、体調に異変を感じたときは、自ら医師を選んで受診する。

また、定期検診は積極的に受けるもので、注射を好まぬとか、胃検査のバリウムは苦手だとか、仲には、多忙を理由として、受診忌避^{きひ}する人がいる。全く命知らずの人かという、さにあらず。大体手後れになって苦悶し、周囲に大層な迷惑を掛ける類の人だと、他人事ではない。筆者も大いに自省している。

西洋医学が主流を占める、我が国の医療は最近でこそ、心療内科と言う看板の医療施設が、所々で見受けられる時代となった。

医療について考えてみると、我が国の医療は、肉体にのみ主体を置き、最も重要な精神作用に関する部門は甚だ軽視されている。精神科医師の数も他科に比し、少なく、其の施

設内容も、他の先進諸国より乏しいと聞く。是は伝聞であるが。

この様な事を書いたのも、世間では毎日のように、不況のため失職したと思われる方々の悲惨な、自殺報道を聞かぬ日はまず無い。これらの不幸な事態を未然に防ぐには、如何に仕事が多忙でも、疲労の限界を超えそうな時は、己の手をぬけぬ場合でも、何らかの理由を設けて、本来の休日ならば、休むべきだ。生活のリズムを狂わす事は体調を崩す元だ。

特に、休日出勤や夜勤の連続は、あなたは近い将来、肉体の変調を来たし、やがてまもなく、精神活動の能力が低下、廃人一步手前までゆき、夢遊病のようになる。しらず知らずに鉄道レールが恋しくなれないと、誰が断言出来ようか。我が身の苦痛は、本人以外どんな事しても、他者は知り得ない。たとい、有能な医師であつても。

話は変わるが、最近の報道を見ると、企業のトップの一部には、己の経営の失態の責任を部下になすりつけ、「蛙のツラに小便」で平気なのがいる。卑劣の極みだ。

「武士は己を知る者の為に死す。」と古来言われている。骨身をすり減らし企業の為働くもよい。あなたの身体は、あなた自身と家族にも大切だ。国を護る為の戦争とは違う。命まで企業に捧げる事はない。企業が真実、あなたを重用してくれても、「命あつての物だね。」と昔からの俚諺りげんもある。とくと、こここの処を熟考せられよ。

たまには、全てを忘れて浩然の気を養うよう、進言申しあげる。これが、また、新たな発想のためのエネルギー蓄積である事を申し添えて。また、職務中の昼食後幹部が率先し

て寸暇（二十分位）を惜しんで昼寝をする企業があると聞いた。これも有効な保健術だ。更に一言、企業経営者、上司の方に申し上げたいのは、申すまでもなく研究職、技術職の部下の方々は、頭脳であり、推進力である。大変失礼な申し上げかただが、技術等に関する発想は、養鶏場の鶏が卵を産むような訳には行かぬ事は、十分ご承知の筈。研究者等に必要なのは、「心のゆとり」しかも十分な自由度の高い。

第16章 傍目八目の、視野

おかめはちもく

碁、将棋、特にへボ同士の対局を見てみると、対局者より周囲の観戦者の方が、指し手より先を読んでしまう。落語のネタにまでなっている。

同様、発明考案で、一発何か当ててやろう等となったら、これはそばで見ちゃいられぬ、亡者で新作落語のネタ間違いない。

こつもひどくならなくとも、とかく、誰しも一つ事に熱中すると、所謂、「鹿を逐う者、山を見ず。」と言う諺の通りになり易い。

我々は、時にこの反省も必要と思う。この為には、仕事の区切りに一拍の間を措く事を

習慣付ける事が大切である。熱中し過ぎるところ、己の脳細胞の働きには、自ずと能力の限界が有り、本人はいかにも快調に物事を進めて居ると思っても、傍でみている人達からは、厳しい評価を受ける事だつてある。

まあ、個々の人間の能力は、大差ないと思うから、余り無理せぬが良い。大きくまた永い目で見れば、適切な休息を取り入れて、小さな反省を繰り返しつつ事を進めた方が、格段の違いをもつて効率が良い。

一拍の間は、日常一寸した考え方で出来る。特に一日の憩いの入浴時間、これは身体のみならず、洗心の時と言える。「常在参禅」等と言われる通り、たとえ、何処に居つても、一事に集中する、雑念の無い時、既に禅の真髄である「無」の境地に近いと言えるよう。この様に、心の安泰を与えられた時、客観的自己観察の習慣付けは、大切な事と思う。現実には、そう簡単に直ぐ出来るものではなく、それこそ、「内観」の修行道場が、世間にはある位である。己の内面の有り様を観ての反省道場だ。

章題の傍目八目は、ご承知のとおり、碁、将棋の当事者より、周囲の傍観者の方が、八目も先を読んでしまふと言う、譬^{たと}えだ。我々が発想する頭脳の中では、対局者は居らず単独で、頭脳を駆使せねばならない。それこそ無い知恵を絞り（作り）出さねば成らぬと言う訳だ。むしろ、対局者がいるほうが、思考の進め方は楽かも知れない。我々の発想は一人相撲だ。それゆえ、よく己の思考の働きを把握する為の、自己観察の修練は、発想力を

高めるには重ねて申すが、極めて大事である。

また、一つには余り強く客観視しようとせず、他人特にグループの同格者との比較は、時には、要を得た客観視が出来るかもしれないが、これも己の性格に依っては、あまり強い比較は場合によっては、自信喪失に繋がりがかねない。

身近なライバル、例として同僚への気配りや対応は、かつて、小中校在学中の学友との間柄を思いだして見たらどうだろう。

学期末成績発表の際、あいつに今度は負けた。彼は俺より下がった。どうしたんだろ？！等、ガヤガヤが続いた事を思い出す。学友に負けまいとする心はあるが、友を心から思っていた。其の点「無心」だった。筆者が申したいのは、同僚等との比較で、一喜一憂するなと言いたい。自己観察の為には、前述の通りである。

総体的には、己の身辺の交際は、一歩下がって遠目、高所から観るような心構えも、ときには必要な考え方と思うが、いかがであろうか。

自己観察も兎も角、身近な上司あるいは先輩で心から私淑する人からのアドバイスを得られれば、これに優る幸せはない。

この様な、先達ならば、あなたを常に客観視されており、公正な判断で忠告を与えられるに違いない。仲々他に得難い幸せと思う。

第17章 友人（業務上の）は、利害の関わらぬ間柄に、多く持つて

昔から、飲み友達ならすぐ出来ると、言われている。

全く其の通り。毎日の新聞社会面の記事に、時々これを言い当てたような、お粗末事件を散見する。

「友」と言う一般的定義を、ここで書くでもない。ここで言う「友」は、職務上の親しい交際相手を主に考えるところ。

親しい同業、または、社内の友は、なにかといつては、会議で同席有り、又話し合う機会も多く、型にはまった付き合いの範囲を出ないだろう。

また、小中高校時代の所謂、竹馬の友は何時会っても懐かしく、表現がわるいが、「人畜無害」一寸言い過ぎかな!? これじゃ絶交になりそうだ。失礼申しあげた、お赦しあれ。人生、互いに親友と思える友を何人得られるか？ これも人生幸福度測定のスケールの一つと思う。

外国の事は、いざ知らず、我が国で入魂の間柄（ごく親しい）となれるのは、竹馬の友、趣味・スポーツの友、学友、戦友、職務上の友等が、発展しての事と思うし、これは、ご

く自然の成り行きであり、願わしい事である。

誤解して貰いたくないのは、交友は自然発生的に、人間同士の厚意からの交わりであり、なにかを得よう、あるいはギブアンドテイクと言った打算で、ここに、この一章を書いた積もりは、毛頭ない。全て自然のなりゆきの中にあり、成るべく、機会を作つて、平生の発想思索を離れて、浩然の気を養うには、むしろ同業や社内の友とではなく、普段と異なつた、フレツシュな刺激こそ何らかの形で、良き人生充実に繋がるものと思う。

それゆえ、職務上のやむを得ぬ交際は、べつとして、心機一転を図るには、年齢による配慮も異なるが、まず家族との触れ合い、これは一番大切であり、次善に己の趣味・スポーツの仲間との交遊、特に普段、頭脳労働に携わる者にとつて、自然に打ち解けてのリップレツシュ、これは何よりの寛^{くつろ}ぎと言えよう。

日頃我々が、発想に関わる職務を果たすには、只今述べた様な、奇麗事では到底適わぬ現実がある。実際の立場は、もっと、ドロドロした人間同士の凭^{もた}れあいだ。

「清濁併せ飲む」と言つ諺のある通り、孤高を気取らず、それこそ、「来たるを拒^{こは}まず、去るを追わず」これは処世術の一つと考えられるが、我^がを無理に通す事無く、仕事上の自然の流れを尊重しつつ、自ずと其の流れを、我が方に導き得れば理想と言える。

人間、感情の動物であるから、快い方向には、自然となびく。又、理解の進んでいる事は、納得し易い。それで、職務上の責務を果たそうとするには、事の次第を事前に「根回

し」と言う手段、ご承知の筈。企業に於いては、派閥等の障壁が無くも無いが、業務発展の熱意をもつて当るところ、我が意は必ず相通じ、納得出来る結論に到達できよう。

この様な、良好な進展を得るや否やは、矢張り日頃の相互の風通しのよさと、誠意のもたらす処大なりと信ずる。

そして、前に述べた種々の友、何事についても、気軽に交流出来る事は、己の人生に於いて心強い抛り処であろう。

IT時代は、機器の運用次第で、相互の理解がし易い。我々は誠に有難い時代に生を享けたものだ。これも先人の並々ならぬ努力の恩恵の賜だ。我々は、それに報いる責務がある。益々優れた発想に努力勉励、目立たなくても、世の一隅を照らしうれば、先人の恩に報いた事になろう。

昔、覚えた、都都逸^{どどいつ}

「世間わたるにゃ、豆腐のように、豆で、四角で、柔らかく。」

作者不詳であるが、中々乙な哲人の作と思う。中味を良く味わって戴きたい。そして、是非こう有りたいたいものと、思う次第である。

第18章 転んだら、寝そべってから起きる

「転んだら、只おきるな。」とは、昔から「ガメツサ」の表現として、よく使う言葉である。全く同感する時もあるが、ここでは表題をもっと率直にいうと、物事に対する観察眼をより徹底させよと、言い換えることも出来よう。

戦後、海外で言われたようだが、アジア人でメガネを掛け、カメラを持った者は、まず、日本人と思つて間違い無い、と言われた時期があつた。

勿論、これは観光旅行者への観察と思つが、そのカメラ持参について、一言、申したい。風光明媚な景色も、あの狭いファインダーからばかり覗いていたのでは、むしろ留守番役に回り、撮ってきたビデオテープを観たほうが、余程気が利いている。一寸極端に言い過ぎかな！！

特に、技術視察等で出張の際、たといカメラ撮影出来るチャンスや、撮りたい場面があつても、むしろ、己の二つの眼で、その実状を、「確しか」と脳裡に焼き付けておく方が、後々の発想に効をそうする。自らの肉視観察を怠り、カメラばかりを頼る悪習慣は、高度の発想を探求する者としては、ハッキリ申して落第と思つ。

己の専門分野に関する限り、昔、支那の有名な孔子の訓えに、「一隅を教えて、三隅を知るにあらざれば、われ教えず。」と言うように、次のように言い換えよう。

「一隅を觀て、三隅を想起出来ざれば、技術者にあらず。」ご承知と思うが、また、「眼光紙背^{しはい}」に徹すと言われる言葉も我が国にはある。

只漠然と見るのではなく、釈迦に説法かも知れぬが、技術視察が目的であれば、其の爲の準備として、できる限りの予備知識を十分吸収し、我がソフトとしてインプットしておけばこそ、三隅を想起出来る。技術視察と言つのは、文字其の物が示すように、前述した事前の予備知識を万端整え、そして眼で直視し己を納得させる事に他ならない。

カメラを持ち込む事は、場合によっては、相手が警戒心を持つて対応する為、かえつて觀たいところを、意図的にパスされてしまう事も起こりうる事だ。

企業設備内容視察を認める、事態先方は当方にむしろ好意的である訳だ。人間同士、心が打ち解ける様、心掛け、幸い何かの一寸した物事を媒体とし、いや触媒かな!? 上手く反応すれば、思わぬ収穫も望めぬ事ではない。其の幸運の得失は、一に掛かつて、外交手腕と言ひ得るだろう。視察も社命の通りして参りました。と復命では、そのくらいの事、やってしまうロボットが近々にも出来そうな時代だ。

技術屋の本領は、担当正面にある技術の革新にある。

たとい、他民族の異国に、出張視察の時でも、人間としての基本的人情は、極端には、

変わるものではない。胸襟を開いて付き合う頃合いを熟慮して、腹を割つての交際出来る信頼を、相手がしてくれば、成功した視察と言えよう。

第19章 裏側から、物を観る

章題は、言葉の綾としては、成る程と思われるかも知れないが、実際の課題であれば、至難の事である。厳しく、自由な生存競争のこの社会では、時々刻々、工業製品の大多数は、進歩発展留まる処が無い。お互い、良い刺激をし合えば、この世は、益々発展向上する事は間違い無い。

この多くの競争者（企業）の間に在って、公正な調整役を果たしているのが、各国の特許庁と言うコントロールの存在だ。極めて重要な職務をつかさどる官庁と言えよう。

自国の権益である、国民からの、特許出願を主とする各出願、すなわち、特許願、実用新案登録願、意匠登録願、商標登録願等を受理審査する事と、同様に、「特許協力条約に基づく国際出願等に関する法律」で、相互に承認している国からの諸出願も、分け隔てなく、公正公平な、審査と登録がされている。しかし、この公正な立場に在って、自国の特

許出願をはじめとする、国民の智力の結晶と言える、前記各工業所有権の保護と言つ、一見矛盾した立場に在る。

我々技術開発に携わる者としては、工業所有権法の内、特許法により、特許の公開公報が、出願の日より一年六月後に、通常、公開される。この公開公報で、己の属する分野の最新の資料を知る事が出来る。

また、この公開されただけでは、特許登録される事はなく、出願人か、或いは、第三者的立場から審査請求により、審査後、必要な手続きを踏んで、特許登録の可否が決まる。我が国のみならず、特許協力条約国の特許法等の公文書、我が国特許庁の特許公開公報、特許公報等は、世界の枢要国の工業所有権に関する、最新情報を集録した最高の情報である。己の属する技術分野に関する部門の公報を調べる事により、己の研究目的と同じ方向にあるライバルを、大よそ知る事も可能だ。

既に公知になっている事は勿論、公報上の公開状況を勘案して、己の研究する方向の障害となるか、どうか判断材料とする事も可能だ。重複してのことだが、つまり特許出願の公開公報の内、己の属する技術分野の最新情報は、堂々と容易に入手出来る最高の物で、これらの中に、己の職務に障害となるか分析する事は、あたかも、ジグソーパズルを組み立て結果を知るのに似ている。たとえば、ライバルがどのような研究を主として進めているか、裏側から観る様な推測は、この場合さして困難ではない。このような場合、孔子の

前編（発想の糸口を、作る）

訓え「一隅」どころか、場合によれば、「三隅」を知り得て、残りの「一隅」を知るチャンスも有り得るだろう。其の為には、馬車馬的觀察は避け、常に余裕ある時は雑学、雑学、純粹に物事を観過ぎると「葦の髄すいから、天井覗く」つまり管見のそしりを免れない。

その製品の種類にもよるが、時には、新聞の新製品欄の方が、地獄耳が働く記者が特ダネをスツパ抜き、気分良くなっている事もあるう。技術情報より、このような社会面情報も、時には、おろそかに出来ぬと言つ次第。

この章で、クドクド駄文を述べてきたが、アツサリ率直に言えば、大同士でもやっている、「スパイ」ではないか!? 「それならそれ!!」現今流行の情報戦だ。法人や個人営業形態とて埒外うちではない。情報戦は国家組織でも、企業でも、大小は問わず、今やこれを疎かにした時は、必ず滅亡に繋がる事、我がかつての大日本帝国が、開戦以前から諜報戦で敗れていた事実を考えれば、結論を書かずとも納得されよう。当時日本の国家最高機密は、ゾルゲ事件の頃には、既に敵側に筒抜けだった。しかし、現在映画やテレビドラマに出る情報戦は、もう古い。今は、公開されてる種々の情報を、恰も、ジグソウパズルの不足分を組み込む、残りの空白部のチップを推測する様な情報戦と思う。

今や、敵地に潜入等と言つ手段によらずとも、堂々と発表されている資料から、それこそ「一隅を知りえば、三隅は、手を触れずとも、推理出来る時代。」が到来している。

「情報は表からは、得難い。周到的な態勢を整え、裏から堂々と収集すべきだ。この為に

は、別章で述べたように、「観る眼」の養成を充実し、雑学の範圍を広げ万端整つて居れば、推理力が働き、あたかも火にあぶった、あぶり出し玩具の紙の絵が浮き出すように、求める成果を得られよう。

この章の最終結論は、工業所有権法の虚隙きよげきとも言える、特許法の出願公開に在る。情報収集者の立場に立てば、絶対に見逃し得ぬ、情報源の最たるものと言えよう。

ひるがえつて、逆の立場（出願人）に立てば、当然、一年六月後には、公開されることを前提に、万事惜しみなく、疎漏の無い願書を作製しライバルを「ウーン」と絶句させる完璧な出願内容の方策を立案すべきは申すまでもない。

第20章 病床は、発想の好環境

永い人生には、突発的に交通事故に遭遇する時や、また、思わぬ時に、急病の床に伏す時がある。

これは、怪我、病気でうめき苦しんだ経験が無ければ、その苦痛は分からない。全く、お先真つ暗と言う精神状態に陥る時、其のままでは、治る病氣や怪我也回復が遅

れてしまう。

まあ、成るべく早く平生の心を取り戻して、「デン！」と構え、開き直って、天与の特
別休暇と思うよりほか、仕方無い。くよくよすべからず。「ナルヨウニナルー……ケ、セ
ラ、セラ……」大分古い歌にあった通り。この時は半分ヤケッパチ。

健康な人が、毎朝定時に起きて、満員電車のすしづめで、時々「痴漢」!? なんて、あ
らぬ誤解をうけながら、やっと職場御到着なんて……。

こちらは、事はどうあるうと、一寸痛いところ我慢してれば、毎日美人看護婦さんに、脈
執られたり、この世の極楽とは、此処なんだと、ユックリ養生をしよう。我が身を幸せに
思えば、たいしたもんである。人間、万事氣持ちの持ち様で、幸、不幸が決まる。

私事で恐縮だが、筆者なぞも、ずっと昔、ずうずうしい経験をした。血液B型の楽天性
かも知れぬ。と言つて、極楽で満足しては只のひと。病院のテレビやラジオで時間を
つぶしては世間様に申し訳ない。

こんな時である。緊禪きんぜん一番は、なに!! 禪締ふんとしめてない!! これはたとえばの事。

別章で書いた「転んだら、（本当に）寝そべってから、起きる。」絶好のチャンスだ。
病院のような限られた環境でも、患者同士の付き合いつてももある。成るべくその方
は適当にあしらって、明日へのクリエイション（創造）の行動を開始すべきだ。

寝ていたって出来る事は、幾らもある。病院だから余り派手な行動は控えた方が良い。

大いに思索に更けるもよし。思う事、感じた事のメモもよし。日頃感じていて出来ない事が、ものに依つては、思う存分出来る絶好のチャンスだろう。

そして、この様に精神面の活動が期待できれば、おのずと、病氣怪我の回復にも、好結果を得る。また、一方では、先程、患者同士の交際制限を奨めたが、回復期に入れば、矢張りそろそろ職務復帰への準備も考えるが良いと思う。運が良ければ、異業種交流の好チャンス。雑学勉強の教室と思えばよい。患者と交際の際、それとなく相手の職業職席を言葉は悪いが、探しておくがよい。只入院してるもんじゃない。場合によっては、今まで見知らぬ同業者と交われる事だってある。福の神もいる。こんな事病院でないと出来ない。そして、入院なぞは、願つてする所じゃない。それゆえ、「禍を転じて、福となす。」と諺にある。

考えてみれば、入院するような事態にならぬ事が、最も幸せである。

お互い生身の身体だから、己が願わずともやむを得ぬ状態に立ち至つた時、如何にその事に処すべきか、己、自身のことは勿論、家族を養う立場にあればその点まで、そして己の属する企業のため、心積もりをしておく責任がある。

「己の望む発想は、思わぬ時、思わぬ事が引き鉄で起きる。」

無事退院、現場復帰後、何か発想の行き詰まりが起きたら、たまには、病院の美人看護婦さんの顔みると、案外、発想の進展あるかも!?

でもね！！ また申すが、入院しないのが、一番幸福。
「備えあれば、憂いなし。」

上記の様な、事態、何時起きるかも知れない。それ相応の心構え、お互いに怠り無く備えよう。

第21章 発想が、空転している時は

映画やテレビドラマのなかで、文士が原稿用紙の途中まで書いては丸め、また書いては丸め散らかしている、つまずきのシーンがたまにあった。今はワープロ、パソコンの時代だが。

誰でも、物事を始めるには、当然それなりの準備をして、仕事に取り掛かるものだ。そして、それでも思わぬ伏兵に悩み、あるいは、壁にぶち当たる。まあ、これは神ならぬ人間であれば、やむを得ない。

科学技術関連の事柄は、今後益々奥行き深く、幅広に発展して留まるところが無い。それゆえ、ある一部の研究開発を進める際、計画のみが先行し、図上戦術的に、夫々

対応処置のみを進め過ぎると、それこそ、ライバルに裏をかかれた時、衝撃を大きく感じ、動揺し易い。

所謂、スランプ状態は、永い間には、人間のやる事に於いては、大なり小なり経験する。それも程度の差はあるが、一つには最もバイオリズムの悪い時、仕事のつまずきが重なり、加えて個人的に、好まぬシーズン等の悪影響に左右される。

この様な、不運のマイナス要因ばかりの集合も、時には起こる。この悪要因は、加法計算的でなく、夫々複数同士の複雑な計算の集積の様だから始末が悪い。

まして、その課題が限られた日限での仕上げでは、万事窮す。これは、戦さで、死中に活路を開くと同じ難事だ。この様な状況下では、実状を先方に話して猶予の了解を得るしかない。下請けの企業は、従来この日限問題と単価の切り下げ要求に、始終泣かされてきたのだ。この様な理不尽を跳ね飛ばす力は、一にして他に無い、独創的技術開発に帰する。只今、開発した技術は現在に有効ではある。社会情勢は常に進んでいる。慢心する事なく明日への対応に、新進の技術開発研鑽^{けんさん}怠りなく日々過ごされん事を切望する。

技術開発の仕事は、己の技術開発能力、研究に要する予算枠、日限、時にライバルの状況、等種々の制約下に措かれている。真剣に考えれば考えるほど、状況に依つては氣詰まりになる時も有ろう。しかし、人生何事も、生きて居るうちに、片付く位に開き直る図々しさが欲しい。執着しすぎるところには、名案どころか、迷案に取り付かれて居るだけに

過ぎない。こんな時こそ、親しい友と和やかな雰囲気での交際。趣味、道楽への一時の没入、短い旅等、緊急避難は、心気一転の良薬と思う。これから後の心積もり次第で、事の成否を決するに違いない。

この様な時は、ご承知と思うが、戦国の昔、山中鹿之助と言う武将が、「吾に七難八苦を与え給え。」と神仏に祈願したと言う。

現代の我々は如何に、今の苦境にあるとも、往時戦国の世にいた鹿之助程の苦労は買っても出来ないくらいの現状だ。しかし、気構えとしては、七難八苦に立ち向かう程の勇氣は欲しい。

我が国の昔には、立派な人物は大勢いた。次に示すのは、武田家滅亡の時、菩提寺の和尚が、敵に攻められ火災の中の究極の場で述べた、敵前の遺言、「心頭を滅却すれば、火も亦、氷の如し。」山中鹿之助にしても、この恵林寺の和尚にしても、昔の人は失敗は許されない。失敗は、己の死で終結した。

失敗の時は、現代の我々の心構えに比べ、己に極めて厳しい態度であつた事がうかがえる。先人たちの心意気は、現代では到底真似も出来ぬが、筆者自身も含め、スランプの時はこの様な偉人を思いだし、他山の石としたならば、我々の甘すぎる心構えへの警鐘と成るだろう。

第22章 真理は、造物主が我が頭脳に与えられる

少なくとも、己の關係する仕事の範圍内の事については、章題位の自負が持てるように、努力したい。余りにもおこがましいと、思われるかも知れぬが、このくらいに思える程、頑張ろうではないか。

自信の持てる處、自ずと道は開けてくるもので、物事の良循環は、当然この様な意気込みから進展する。くどいが、この「乃公」(おれ)にあらずんば……」と言う意気込みを表わす言葉が、古來我が国にはあるのを、ご承知の事と思う。事、専門分野の事柄は前述と重複をあえて、少なくとも、社内随一、くらいの自負を持てる努力はしてもらいたい。

この為には、兎に角、研究熱心は当然である。更に進路を誤りなく定める為にも、広く關係情報の収集は大切である。

己の技術レベルの自己評価の資料は、学会、業界、一般報道紙から、世界の技術情報源である特許公報等工業所有権に関する諸公報に求めるがよい。その他思い付く資料からも、初めからトップクラスにある者など、まず有り得ないのは当然である。

嘗々と十年、二十年と言う努力の積み重ねがあつてこそ、自信も生まれるものだ。若いうちは、それなりのキャリアに相應しい自負が持てる様、頑張るべきだ。

しっぽを巻いた負け犬的心理状態に在る者からは、優れた発想は望むべくも無い。

人生の処世の一つは、何でも良い。この事ならば俺は誰にも退けをとらない。この自信を持てるか、どうかが大切と思う。出来れば己の仕事に於いて、この気構えを得られれば理想的である。

「一事が万事」と言つ諺がある。確かに一つ事にズバぬけて優れている人は、ほかの事に於いても、まず後塵を拝する事は無い。先程も申した通り、仕事上で優越の座を占めるに越した事はない。また、そうでなくても、例えば、スポーツ、趣味の領域で、同様優れていれば、努力の勘所は人のやる事大差無いと思う。仕事と趣味の内容に共通点を見出せる時は、とやかく、これ以上申すに及ばない。

もし、不幸にしてあなたが、負け犬同然の心境に陥っていたら、どのようにすべきか。この様な時は、過労か又は心身に病的兆候が現れていないか、特に体調優れぬときは、専門の心療内科等の受診も無駄ではない。慎重に検査の結果、心身に支障なければ、それこそ、九十九%の努力である。最初から難物攻撃をすべきでない。己の職務とは限らず、趣味も良し、スポーツも、可能な目標と期間を決め、比較的得意で容易な種目からチャレンジする。そして、全身全霊をそれに打ち込む事だ。そのトレーニングも出来れば、指導者

について、やるのが賢明だ。予定の期限を迎え、過去を振り返ってその間の努力は、あなたにとり、実に有意義であつた筈だ。「やれば、出来る。」この確信さえ得られれば、過去のアナタとは、もう別人の筈、あとは段階を経て難関に挑戦するだけだ。

初めの方の章で述べた、「九十九%の努力と、一%の閃き」矢張りエジソンのこの言葉は「名言」だ。低い山を上り詰め、そして高い山の頂を目指そう。

第23章 発明工夫と社会情勢とのマッチング（適合製品）とタイミング（時代の要求）

我が国でも、近頃「水」が商品として、上水道水の何百倍かの値段で、売れる時代である。ご存知の方もおられよう。大分昔から、富士山頂上の雪解け水が、「金明水」と名付けられて売られていた。これは例外の一つ。

今や、缶やビンづめされた自然水や炭酸水が、市中に出回り広く使われている。

特に最近では、今まで名も知られなかった、過疎地の鉱泉水まで、郷土の名産品として、デパートでも扱われる時代となった。

また、同じ水乍ら、視点を変えて考えると、適当な容器に滅菌パックされた水は、非常

前編（発想の糸口を、作る）

用の飲用水となっている。単なる水で有りますぞ!! でも、この水一日でも無かったら?! 勿論、我が国では、一部の外国とくらべ、本来、良質の水の豊かさを、かつては、豊葦原の瑞穂之国みずほのくにと、称して誇っていたほど、清い水の豊かな国柄だから、一般にはこの「水」がと、思う感じがしなくもない。

時の移り変わりと共に、「水」が今や盆暮れの贈答用商品に迄なっている。

いや、この位で、驚くなかれ。「山の嵐気らんき」か「磯の香り」かは、兎も角、空気の缶詰まで売れる時代だ。ついに此処まで来たかと言う感じ。

商品と名の付く物の中で、理解し易いよう極めて単純な物を取り上げたが、時代の要求か、または、売る側の工夫を、この様な、水や空気まで商品として、社会が受け入れたのである。

この水が我が国で、商品となる、時代背景を諸兄弟探ってみては?! 夫々、成る程、こんな訳でなあ!! と納得するか、どうかは、さて置いて、俺ならばなあ! と、あなたの発想が、そこに生まれれば、もうシメタもの!! 発想道? 初段位には昇進のお墨付きを差し上げたいですな!?

このボトル入りや、缶入りの水も、それこそ、時代が三十年前とか、戦前であつたとしたら、時代がずれていて、世に受け入れられる事は無かったと思う。いかに優れた品物であつても、その時に受けいられるには、時世に適合した品物、すなわち、マッチングと

タイミングを外しては、残念乍ら、陽の目を見る事は無い、と言う事をごく単純な商品で説明したつもりである。

補足して申せば、水が現代に商品として、受け入れられた、この時代背景には、ご存知の通り上水道水の水質の低下、および水を商品化する為のボトルが、技術進歩の結果、低コストに軽量かつ安全な物が出来る技術の発達した時代だ。

こうして考えると、己の発想製品とは限らず、過去に世に出たには、出たが時期尚早で、世間から見向きもされず、涙を呑んでいる発明工夫の結晶だって、相当数眠って居る。

何処に在るかって?! 過去の特許公報等工業所有権に関する公報を近くの発明協会の支部かパソコンの特許庁のホームページで閲覧するのが早道。なんだかひどい脱線したもんだ。一つご注意。特許権は、出願の日から二十年、実用新案権は、出願の日から六年で終了する。また、意匠権は設定登録の日から十五年で終了する。(平成十二年四月一日施行の新法) 其の後なら良く確認した上で、利用するがよい。

第24章 急には育たぬ、発想力（創造力）

発想（創造）と言う事は、語意としては、誰でも勿論ご承知のことである。ある事物の真の創造者は、真理の発見者に、他ならない。

思考の範囲を、グット大きく造物主である、天地の間に広げれば、人間は、取るに足りない微生物であるアミーバー一匹の存在と、天地にとって大差は無い。

たまには、このくらい観点を拡大してから、地球、日本、己の地域社会、職場、家庭、己へと、ズームアップしてみるのも、面白くまた、意義がある。

夏の一日、造物主になつた積もりで、大地に営々と働く蟻たちの姿を、暫く観察するの、スバラシイ。勉強にもなり、幼時を思い出す。ジーツと、彼等の行動を観察していると、何か、本当に人間社会を観ている、神なる造物主になつた様な、気になって来る。蟻のなかにも要領の良い奴もいれば、勤勉で感心なものも居る。イソップ童話発想の成り立ちも、この辺に有りそうだ。何事によらず、視野の広い事は、それだけ事を処する判断基準が、ハイレベルに保てる訳で、貪欲に好奇心を働かせるほど、発想の展開に磨きを掛ける事になる。幼児が物を見ての「ナゼ」?! の連発を、我々も復活出来れば、恐らくもっ

と道が、自ずと開かれよう。チョット年をとりすぎたかな!?

別章にも述べたが、発想の原点は、「無」にあるのではなく、十分蓄積されて、潜在化されたかに思われる、知識からの、事に臨んで適時適応の抽出組み合わせによって、成り立つのが、原則と思う。所謂、「種」無しでは、奇術が出来ないのと似ている感じた。時間をかけて、ソフトの入力を根気良く行つてこそ、コンピュータの価値が高まり、適時適切な出力を期待出来る。そして、演算の速度向上と、事物への対応力は、日々アナタ自身の心掛け如何が、性能の良さを決定する。

話が飛躍するが、人の寿命を我が国に、絞つて考えれば、男女の寿命併せて平均八十歳位である。社会に出て働く時の年齢を二十歳前後とすると、人生の四分の一位の間は、働く為の準備期間と考える事が出来よう。更に高度の事柄の従事者ともなれば、追加の年限を加える事となる。一般的社会人について概算しても、この様に人生の四分の一かそれ以上の年限は、いわば、無駄ではないが、待ちどおしい、待ち時間に違いない。

この多年の積み重ねの有無で、後の人生が決められ、また社会への貢献度に差異を産む。一日、一時もおろそかには出来ない。昔の人は「若い時の苦労は、買つてでもしろ。」名言である。「後悔、先にたたず。」毎日着実に智慧の実を、腹をこわさぬ程度に根気良く沢山食べよう。

第25章 「有り難う」と押し戴き、心で「批判」をする

章題が、穩当を欠くが、決してそんな積もりは無い。内容を良くご検討願いたい。己の専門分野以外、特に日常一般の生活では、だれからのご厚意にも、大いに感謝感激しているのは当然で、そうでなければ礼を失する。己の属する職場のチームワークにおいては、言わずもがなである。

しかし、心の置き処として、職務上扱う研究テーマに於いては、仮令、己が開発したもので、また、先任者の物であっても、一寸待て！ 言わば、斜^やに構える見方、すなわち、設計者であれば、現場の担当者として、流通機構に携わる者の眼、或いは、使用者の立場で等と各立場の違いについて、最終的評価が出来る様、先見の眼と批判が重要だ。

其の為には、己の関わる専門以外の製品にも、たまには意識して眼を向け批判をするべきだ。専門外は何時も感謝感激で無批判に物を見てばかりでは、観る眼が育たない。

俺ならこうすると、一家言を持つまでもなく、一寸した、身の回り品の評論家になる事だ。実は、これも結構楽しみなもので、僅かの休み時間に、無関係な事に無責任評論することは、言い換えれば、アイデア研究其のものと言える。そのうち、専門外の新製品が生

まれるかもしれない。

トイレの中（前述第11章）だって、ただ用足するだけじゃ勿体無い。アイデアを出す場と心得よう。この頃は便利な設備のトイレが常識化した。それこそ、何処で発想したアイデアなのかな！？

昔から、良く言われている、「ハングリー精神」、何でもこの精神じゃ困るが、事、己の職務については、つねに心のスペースを用意しておく事は大切だ。このスペースがあれば、夜中のウトウトに、グッドアイデアが目覚し時計のように、あなたを起こすだろう。此処で言うスペースは、求めるアイデアのテーマに関する事といっても間違いない。

第26章 物理馬鹿

筆者が自称する、言わば、反省事項であるから、気にしないで、お読み戴きたい。

日頃、仕事の面では、それこそ極端に、合理性を追求する構えで居ると自認している積もりである。

どうも、仕事を離れると、兎角トンチンカンなことをやって平気で居る。周囲の者も認

めて居る。若い頃からであるから、加齢に依る呆けでも、なさそうだ。元々だから。

仕事から開放されると、この現象が顕著になるのは、一種の無責任状態とも言えそうだ。大体に於いて大きな実害の方は、絶無ではないが、それこそ大過なく過ごして来た。一番多いのが、家の頼まれごとをウツカリ。それと雨上がり、それ、言わずとも、お分かり。其の中で、まあ、自慢出来そうなのは、人との約束した時刻。これだけは、昔、軍隊で躰られたせいで、まず、無断遅刻無し。都合付かぬ時は、前もって知らせる事を心掛けて居る。

長々と、くだらぬ前口上を申して恐縮。発明考案が、どうにかものに為りそうな発想は、一日の内、精神弛緩状態しかんで物忘れ等が起きる、この心の空白時に発想すなわち、創作への第一歩が浮かんでいる事が、筆者の場合は断然多い。と、言う事は、一日中張り詰めた状態で、熱中するのは、甚だ良からぬ事と、己の生活態度の自戒にしている。「張りっぱなしの弓は、いざ、と言う時役には立たない。」弓を形造る材質の物性を考えれば、用いぬ時は、弦つるを外して、休息させるのは、当然。今ごろ気づくとは、相当な「物理馬鹿」だ。「灯台、基暗し。」と昔から言われている諺もご承知の筈。その他電灯、エアコン、扇風機、等々消し忘れすれば無駄に電気を食い、我が家の経済に永い間に影響し、山の神もうるさいし、国家の不経済だ。でも、分かちやいるけど、忘れる物理馬鹿だ。

アナタは大丈夫ですね!? 大変失礼。

第27章 たまには、変わった息抜きを

大多数の人々は、夫々決まつた生活リズムが、出来ていて、その上に乗つた、毎日の営みが進行している。

それゆゑ、他人から見ると、大層に思われるようなスケジュール、例えば、早朝二時三時から出勤する人もいるし、反対に夜遅くまでの勤務者。それに、警察官、消防官の様に、夜勤昼勤が、定期的に入れ替わる勤務等、この複雑な社会構成には、どうしても二十四時間、誰かが己の職責を護り維持しなければ、社会の構成が乱れる。

これも生活のリズム化により、そのリズムに馴れる事により、さしたる苦痛も感じなくなる処が、人間の順応性の良い面だろう。

良い意味の生活のリズム化も、余り長く続くと、マンネリ化の現象を生じてくる。常に新規性、進歩性と言う、条件を具えた発想を追う、我々にとって恐ろしいのは、このマンネリ化に毒される事である。

こう、申しては、大変失礼であるが、職業に依つては日々、型の通り行われた方が良い職種もある。一見マンネリ化されたように、見えてこの様な場合は、訓練充実の域に達し

たベテランと言う語意が当てはまる。マンネリ化とはハッキリ異なる。

人の性格、日常生活上の習慣は十人十色で、何事も一括して、一概には決め付けられない。

それでも、毎日の生活の中で平穏な日々が、続くうちに、この良的無刺激が矢張り、マンネリ化を進ませ、我々にとって最も必要な、精神活動面での能動性が、減退し、スランプに陥る時期が、人により軽重はあるが、必ずと言ってよい程、襲って来るらしい。

これは、心身両面の疲労に違いない。この主として、心労は、心と体の調和が崩れ、そうしてこのような状態となれば、自律神経の失調を生じている。何らかの精神面のストレスが強い時に、生ずると聞く。このような時は、当然ながら、十分の栄養をバランス良く摂取し、程よい休養に加え、無理の無い軽度の運動により、血行をよくすることを医師が説いている。

勿論、このような時は、最近では周知の事だが、心療内科の門を叩き、指導診療をつけるのが、対処の早道に違いない。そして、この状態を無理なく癒してくれるのは、大自然の懷に包まれ、浩然の気を養う時間を得られれば、申し分ない。

このような状態に立ち至った時、身近に家族がいれば、当然直ぐ気づく事だ。また、日々接する上司は、この時部下の様子を見過ごす様では、上級者として職務怠慢である。申すまでも無く、部下の体調を含む総体的状況を把握し、企業の戦力保持は、幹部社員の当然

の責務である。

部下の疲労状態に依つては、無理しても休暇を与えるべきで一時戦力低下を来す事があつても、早機にこの様な対応をすれば、長期的にみて企業にとり有利な処置と言えよう。休養は、大自然の懷もよい、また多額の費用を用いずとも、近くに銭湯或いは、温泉まがいのものでもあれば、幸せだ。何もこの銭湯に限らず、日頃の発想力を發揮し休養法を創出するのも、これは一風変わった楽しみとなるかも、知れぬ。

この場合の、頭脳の働きは、あたかも、遠足前の子供と同じ心境にあり、「瓢箪ひょうたんから駒。」思わぬ土産の“発想”を持つて歸社できるかもしれぬ。

第28章 自己暗示の、インプット

物事を成し遂げる為の根源は、強固な成し遂げようとする、その意志力にある。いやしくも、独創のものを、追求する身ともなれば、分相應の自信に満ちた氣概が、推進力である。「乃公おれでなければ……」と言つ、自負心を持てるだけの、その道の素地が仕上がっていなければなるまい。

夫々職場に於いては、専門分野の既知の知識能力抜群を自認する人は、幾らでも存在する。その総合的知識の有効活用、つまり発想の能力となると、他に一歩先んずる事は、いかに、持てる知識を総合して新規性、進歩性の基盤に立つものを世に訴える力を養うか。従来、発明考案は、難物との認識が、世間一般に持たれていた。それは科学技術、理数系の方面の知識に無関心、或いは無関係の人ならば兎も角、何らかの関わりを多少なりとも持つ立場にあれば、発明考案に無関係ではない。まず、「やる気を出す。」これが第一歩である。

次の段階は、他の章で何度か述べている、基礎学力の復習または、習得に努め、一般社会におけるあらゆる物に、幼児の様に「ナゼ?」と言うあの関心を示す、言わば知識欲、これが大切である。今直ぐ役立たぬような事でも、これらと思う事柄は、メモするなり頭の隅に留めおく。この様な具合に、言わば貯蓄しておいた諸々の事柄は、アナタの技術資産である。この技術資産の活用が、発想の根源である。また料理で言えば、どの様に夫々の材料に料理の目的に適う調味をして仕上げるか、ここが調理人の腕のみせどころだ。

次に、この様な頭脳労働をする者にとって、心掛ける事は、常に体調を健全に保つ事と思う。誰しも知っている事であるが、精神活動をする頭脳とて、身体の一部に違いない。体調不調であれば、当然頭脳の活動にも、影響をおよぼす。心身共に、ベストコンディションを維持するには、申すまでもなく、快食、快眠、快便の心掛けが、大事と言われている。

更に体調を左右するものとして、バイオリズムが、人間の精神的、身体的活動を、体内時計により一定周期で変化すると言つ説が言われている。この事も、おろそかにはできないファクターだ。

他に一步先んずる事は、余程努力を積み重ねても、困難な時もある。それは所詮努力のみで解決出来ない限界にある事かも知れぬ。

誰しも大小の差こそあれ、体験している事と思うが、やる事なす事、極めて順調に進む時と、また反対に全て中々思うに任せず、難渋する時もある。

読者はどのようにお考えか知れぬが、毎年、六場所テレビ中継の大相撲がある。

これを観戦して筆者の感ずる処を述べたい。ある場所で一人の平幕力士が、極めて好調な場所では、時に不思議と思うくらい、勝ち運がついて、誠に失礼な事を申すが、平幕の地位にある力士の優勝を過去に幾度か見ている。

勿論、人生には何回かの幸運の巡り合わせがあるそうだ。また、努力の程には、順調に結果が得られぬ時、或いは其の反対もある。

相撲のように、ごく短時間での勝負においては、毎日の稽古により鍛えられた身体に付いた業、すなわち、「心技体」の総集により、瞬時に勝敗の大部分が決まるものであるが、「ツキ」と呼ぶ何かが、あるのではないか。そんな気がする。私見ではあるが、一つには、力士がバイオリズムの好調期にあると思う。我が国技であり、肉弾相打つ激闘の繰り返し

の中に、星をつぶしあう。そして連続勝ち進む。この連勝の要因は何であろう。

勿論、横綱の様な、上位者ならば当然と思うが、先程も一寸ふれたが、平幕力士が、優勝の敢闘ぶりには、頭が下がる思いがする。素晴らしい！！。

これは管見のそしりに甘んじるが、その力士の稽古熱心に加え、有形無形の諸条件、先程述べた、好調なバイオリズムと心技体との結集と言う幸運、つまり「ツキ」に恵まれたに違いない。そして執念其のものは、どのようにして湧き出て来たか。それは力士自身の努力の賜だ。兎に角、その力士に秘められた執念が昇華する処、力闘への起爆剤となる。具体的表現で、相手力士には失礼であるが、マンネリ化状態の一部の相手に対し、この敢闘精神は、抜群の成果を発揮している。このマンネリ化は、力士に限らず無意識の内に、我々自身包蔵し易い。闘志とか闘魂と言う、精神的要素は、勝負師ばかりの問題でなく、日常平凡に見える一般社会に於いても重視すべき課題ではないか。勿論、内に秘めたるものでこそ、存在価値があり、内より発するものが、自然と他に伝わる処、人をして感動せしめ、共感が得られる。発想、即創造は、無より生ずるものではなく、幼時よりの意識、無意識は問わず、多年に亘る種々の経験の蓄積より抽出された要素と、「閃き」と言う日頃養った「誘引接着剤」の働きにより結合アウトプットした産物に他ならない。

逆戻りの話になるが、力士とて短年月に、他に誇れる成績を、あげられる「心技体」を得られたにあらず。これも少時よりの志に基づき、嘗々努力の積み重ねの結晶と言えよう。

他ならぬ我々も、旺盛なる氣概を養い、先に示した通り、「乃公にあらずんば……。」と己の心に言い聞かせ、日夜、研鑽の労を惜しまず、自他共に認め得る拔群の努力にこそ、己に対し「自信」と言つ、何者にも勝る味方が加勢するだろう。

自信に結集される、自己暗示は、並大抵の心構えでは、得られぬ努力の賜だ。勿論、そこには、一%の閃きと言つ工夫もいる。

第29章 漠然としていては、よい発想は生まれない

多数の人が、何かの機会に己の仕事が一時期頓挫し、スランプを経験されている事と思う。

次への発想の展開が、どうも思うようにいかない。そこであれやこれやと、模索するが、一向に埒が開かない。スモーカーならば灰皿の煙草は山となり、部屋の空気は汚れて、益々思考は鈍る。こんな時、あごを手で支え、沈黙思考では、居眠りの方が余程まだ。こんな時は、一度席を立ち、用足しでもして、具体性のある行動、つまり、ペンをとり、只今沈滞するに至った過去の思考足跡の羅列でもよい。或いは箇条書き、図形化、グラフ

化、何でもよい。取り掛かれるものから再検討に入るべきである。

この様に、頭脳に「活」を入れている時は、一寸した気分転換が、有効である。

例えば、座っている椅子の向きを少し変えてみる等の自己所在変更。時にクシャミでもタイミング良く出ると、リズムを変える刺激となり、良性の思考転換を助けて呉れる。

ぬるま湯にじつと浸っている様な、変化の無い精神状態は、単に時間の空費のみで、益するところは無い。デスクワークは、眼と指先からの刺激のみならず、頭脳へのあらゆる刺激を送れる態勢、耳への種々の雑音や、BGM。鼻へのコーヒーの香り、時に邪魔と思われる無関係の電話でさえも、脳内の不要な壁を取り払ってしまう。

勝手なもので、普段ならばうるさいと思う事も、こんな時は、味方と思えるから人間なんて、いや!! 他人ごとじゃない、己の勝手さにあきれている訳だ。

つまり多年に亘り、頭脳の記憶を司る脳細胞毎に蓄積記録された種々の知識の間に、何等かの良い刺激が引き金で、求める脳細胞間の架橋作用が働き、新たな発想と言う新展開が与えられるに違いない。全てを、我が味方なりと積極的に、ずうずうしく心を開く処、それこそ「あばたまえくぼ。」と善意に見損ない、良循環に導く事が可能となる。

沈思は居眠りに劣る。この様な状態では、まず、己の身体に変化を与え、血行の増進で眠れる脳細胞の活性化を図る。一寸休憩し、外歩きでもして気分一新する。

そして熱い茶でも、コーヒーもよい、カフェインの力で脳の血行を更に良くする。漠然

から決然に転換をはやく!! 自分を一番良く識っているのは、己自身である。

スランプは何時襲ってくるか分からぬものである。そこで一案だが、ご承知の人も多いと思うが、「バイオリズム」と言つ、人間の精神、身体の活動力が、夫々一定の周期で変化するという説。此れなども関心を持たれたならば、一考に値する説と思う。詳しい事は専門書により調べられたい。

第30章 二世、三世へのアドバイス

昔は我が国、他の諸外国でも多くの職業は、世襲の姿で、永く続いて醸成され、築かれた古き良き伝統が受け継がれてきた。また、その反面その間の弊習も付着してきた。

それが時代の進展とともに、教育制度の確立、産業革命、政治体制の変容、各種営業形態の法人化等の諸々の変革が重なり、相互に影響を及ぼしながら今日に至っている。

この間にあつて、世襲制度も、良きに付け悪しきに付け崩壊の方向に殆ど押しやった。ヨーロッパに確立された特許権を主とする、工業所有権制度は、工業分野の発展を著しいものとした。

特に、我が国幕末開国後は、汎ゆる諸制度を、欧米先進国を師と仰いだ。我が国では、国情の変革の後に、明治十七年我が国特許法が制定され、既に百十年余りを経ている。

戦前に於いては、我が工業所有権制度は、一般国民には、さしたる関心を示すものでは無かった。むしろ、「人の技術を盗む」と言つ、職人間の弊習が一般的だった。

然るに、敗戦後、戦災復興、国力回復途上には、諸産業発展のバロメーターの様に特許、実用新案登録等の出願件数が堰を切った様に急増し、今や出願件数は、世界のトップにまで成長した。

この現象は、表面的には誠に喜ばしい事である。一方観点を変えて見ると、工業所有権諸法、すなわち、特許法、実用新案法、意匠法、商標法、特許協力条約に基づく国際出願等に関する法律等に対応する実際の正しい知識の向上を考慮する必要がある。勿論我々は、素人であるから、全てを熟知するまでの労は要しない。

まず一つには、己の権利を主張し、保護を要求する為には、他人の権利に対する尊重と配慮をせねばなるまい。

前述したが、従来、我が国に伝わる弊風とも言える言葉に、「他人の技術を盗む。」と言う事が、古くから、主として職人の間で公然として通用してきた事だ。

この為、特許法が制定されて百十余年経た現代でも、兎角、他人の特許発明等を軽視し侵害しがちであるのは、既に先進国国民の態度として、大いに反省を要する恥部である。

特許法の趣旨は、申すまでもなく、かつて昔は、父子相伝等秘密としていた技術其のものを、一般に公開し、その反面それに対する褒賞的措施として、一定年限を限り、「特許発明」とし、排他的保護を国家が行い、産業発展の原動力としたものである。

つぎに、研究テーマ設定と出願時の注意と言えることは、その研究開始とその出願時にできる限りの先行調査が必要なのは、申すまでもないが、先端技術で鋳迫り合いのものは、恐らく出願中のライバルもいる事であろうし、調査のしようも無い。この時は運任せだ。通常、発明等の実用化前には、他を尊重し、また、先願者有無確認をし、生じ得る無駄を成るべく省くためにも、公知のものか十分事前に先行調査は、必要かつ賢明な処置と言えよう。

特に日用品、汎用品部門に関するものは、戦前迄溯り、特許、実用新案登録、意匠登録等の公報閲覧は、決して無駄ではない。この調査も十分慎重に行えば、休眠中の技術の思わぬ発見と言う、余禄よろくにありつく「瓢箪から駒」なんて事もある。宝庫は、「特許公報」だ。これも、「観る眼」が無ければ、「猫に小判」と言う訳、しっかり基礎の知識を身に付けてから、宝の山にのり込もう。

現行の特許法（平成12年4月1日）では、出願の日から二十年、実用新案法では、六年が権利期間。通常これらの期間を過ぎると、誰でもこれらの技術は使用可能となる。

かつて、我が国先人の一部には、前述した他への配慮を欠いた事。或いは、往時は、後

進国で、「猿まね」と蔑視された過去の謗り^{そし}を再び繰り返す愚は、是非避けねばならない。新進気鋭の士は、すべからず、一部の先人の愚を拭い、吾人等独創の発想を持つて、かつての師たる国への報恩を心掛け、勉励されん事を心から願つて、この章を終える。

「温故知新」（故きを温ねて、新しきを知る。）

第31章 仕事が道楽でも、必ず二番目の道楽を他に持つて

技術屋は、仕事が何よりの道楽と言う傾向がある。大体惚れ込んで選んだ道であれば、当然の帰結と言える。かつて、筆者も若い頃同じ経験をしている。本書の読者ならば、程度の差こそあれ、この経験者であろう。

時代が移り変わり、今や若い人の多くは、マイホーム指向が強いと言うが、中には、この不況下にあつても、業種に依つては、定時だけの勤務では収まらず止むを得ず、深夜帰宅連続になる人、無しとは言えない。己の好む仕事に従事し、しかも順境にあれば、若さのパワーで、遣り抜く事も可能だろう。

この章題で書く気になつたのは、人間、常に順境にだけ在つて、人生を過ごせるなら、

誠に結構な事である。永い人生、何時逆境に陥らぬと断言出来ようか。

その事態に立ち至って、気分転換を図れる何らかの方法が、身近にあるならリクリエーションは容易な事で、ひどく心が陥る事を軽減できる。家族の気苦労も少ないと思う。

これから述べる事は、全ての人に当てはまるとは言えぬが、昔の職人的感覚であった時代よりも、今や現代感覚の方が、全体的に視野が広く、技術的進歩だけを見ても、格段に優れている。これは如何なる理由によるものか。仕事一筋と言う、日々の経過よりも、時に仕事を忘れ、余暇には何か他に関心を向けられる、趣味、娯楽をもつことは、気分転換のみならず、己の視野拡張つまり、雑学の範囲を広めるには、絶好のチャンスなのである。仕事に依っては、特注により期日が限られ寝食を忘れ、没頭せねばならぬ。と言う致し方ない事もある。それでなければ、如何に仕事に惚れていようが、気分転換の余裕位は、心して作らねばならない、言わば、身体の調整時間である。この時間を惜しむ事は、昔から良く言われている、「骨身を削る。」この言葉通りの結論に到達する事は、言うまでもない。アイデアの発想は、真正面から取り組んで行く時より、ひょっとした心理的空白を生じた時、或いは行動中の心の転移の瞬間を狙って「ヒラメク」ようだ。

風呂上がりのタオルを絞り終わった瞬間、「あっ!! これだ」。寿司を口に頬張ろうとした時等。発想の閃きは、中々茶目つ気もあり、また、意地悪小僧だ。

勿論、この様な思わぬ時に、発想出来るのは、其の元になるインプットがあるからで、

只では出来ない。我が頭脳と言つコンピュータは、ご主人お休みの間でも、ご注文のテーマのインプットに就いて演算を忘れてはいない。我が忠実なるコンピュータたまには、トラブル前に、バックアップ電源だけ残り十分休ませるのが賢明だろう。

第32章 発明考案の、国家保護は完全か

特許制度は、発明者の苦心の研究成果を保護するとともに、優れた技術知識を世に公開して、技術の進歩、産業の発達に役立たせることを目的としている。（特許法第一条の主要部）

発明の使用については、発明者又は発明者から権利を受け継いだ者は、出願から二十年間の独占権をみとめ、それとともに、発明の内容を広く世に公開して、技術知識と言う人類の宝庫を豊かにしている。そして二十年の経過後は、誰にでも使用を認めている。（特許法第一条の概略）

幕政時代は、消火ポンプ（竜吐水^{りゅうとすい}）等一部のものに発明の奨励、保護もあつたやに聞いている。それゆえ、昔から己の技術開発したものは、外部に秘し、父子相伝と言つ、伝承

法が、日本刀を始め、多くの品物に聞かれる。講談の盛んな頃は、日本刀鍛練の技術を盗む、悲壮な内容のものが、語られた。また、当時は突飛な発明は、世を乱すと禁じたようだ。これも幕政の体制温存の悪弊の一つと言い得、かつ、どの位科学の進歩を妨げたか。現代の特許法の趣旨では、前記のように、産業発達のため、「特許発明」は公開し、その見返りに、二十年間の独占使用の保護が国から与えられている。

現今、我が国は、特許出願等の件数に於いては、世界第一位を占めるに至っている。

しかし、内容の質そのもの、必ずしも良質のものばかりとは限らぬと聞く。更に出願件数の多いことは、特許庁の受理後の処理能力に限界があり、現状それを大幅に超えており、各種情報処理機器を備え、また出願も書類方式に限らず、磁気ディスクの使用等改革を行っても、膨大な出願書類の審査は、全て機械だけでの処理は、事の性質上不可能である。

この渋滞の被害者は、受理先の特許庁のみならず、出願側の特許を受ける権利を有する出願人、発明者、同関係者の被害も、数字では表わし難いものに違いない。この様な渋滞の被害を多少なりとも軽減の方法は、特許庁からも喧伝しているが、出願以前における公知、先願物件有無の周到な、可能な限りの先行技術調査に俟^まつ以外無い。

このためには、他にも述べたが、特許庁の公報閲覧室、発明協会支部の公報閲覧室、その他関係機関のインターネット等、調査はこれらを理解して使用すれば、従来より格段の省力が出来る。

一方、出願についての私見を述べる。往時に比べ、出願手続き上の各部分が煩雑化したように思う。これも特許庁側の出願膨大化対策の一環と感じられる。

中小零細企業および一般個人の出願は、余程出願手続きを勉強し熟知しないと、一筋縄では事足りない。

幸い、発明協会から、特許、実用新案、意匠、商標の各「出願のてびき」と言う懇切丁寧な小冊子が、協会各支部で有料で入手可能である。また、工業所有権法に関して詳しい事を学ぶならば、前記協会に問い合わせれば、諸参考書は入手容易である。

現代は、技術の高度化著しい。己が技術開発し、出願の知識十分であれば、自力での出願も考えられるが、現状、権利の主張も極めて微妙な違いを要求されるので、矢張り、高度の技術については、専門の弁理士の手を煩わすのが賢明と思う。

各弁理士は全ての分野の力バーは難しい。煩雑化した、諸技術の内、得意とする分野の弁理士に依頼すべきで、この選択は、日本弁理士会ホームページで検索するのが早道である。

* 日本弁理士会（電） 03 3581 1211

第33章

わが地球の生き残りは、己の良心的発想力を
たかめる心構えから

発想と言う単語を辞書に求めれば、「考え、思想を表現する事。」「考えの展開の仕方。と
なっているが、本書では発想とは原則として、ごく狭義に発明考案に関するものだけに限
定する。

さて、昔から言いふるされた諺に、「必要は発明の母」と言う名句があり、また「窮す
れば通ず」ともある。

人間の歴史数万年の間、人類は智慧の実を食べたばかりに、色々と不便を知り、その解
決をする為に、生活をしてきたのかも知れない。

大昔、人間界に物理学だの、化学等の学問があつた訳でなし、つい数百年前、少々おま
けしても、紀元前千年前後位に、地球上のごく一部地域に於いて論理的発達をし始めたも
のと思われる。

経験から生まれた、実証的物事こそ、科学的解明以前の合理的なものであり、その多く
が、現代に迄立派に通用している。

今、人類は、戦争を罪惡視し、如何なる理由に依るとも、おこすべきでない、と言いつつも、一部隣国同士の緊張は、未だに絶える事はない。人間の欲望の無くならぬ限り、永遠の課題に違いない。

過去・現在に於いてでも、戦争の勝敗を決する要点は、勿論、戦略的優位に立ち得た方が、勝機を得易いが、洋の東西を問わず、革新的武器の發明が、そしてその有効活用した方に、勝利の女神の微笑みがあつた。

遠く歴史をたどれば、大まかに石器時代、青銅器時代、鉄器時代と人類が経てきた、永い歴史のなかに、其の時々革命的発想、たとえば銅劍を用いるより鉄劍に利あり、また飛び道具にしても、弓矢より鉄砲、大砲と時代の欲求は留まる処を知らず進歩し、今や人類、いや地球をも破壊し兼ねない核兵器の時代へと、文明の進歩、必ずしも地球に益あることのみではなくなつた。

地球上人類の歴史が語るところ、戦争が人類文明の發達に寄与したと言つては、言葉が適切ではない。しかし、戦争目的のため、科学進歩の跡が遺された事は、歴然たる事実である。

現状、人類の智慧は、今後大戦争を起こす事が、地球の破滅は必至であり、この様な愚挙に至ることは、あつてはならぬと、自戒の智慧の方が先進していると固く確信する。

そして今後は、地球其のものの「生き残り」、すなわち人類をはじめとした、動植物全

てが、共存できる良い環境を永久に保つ責任は、誰あろう我々人類を描いて他にない。

この青い地球も、日々は新たな変化を繰り返している。そして智慧の実を食べた我々は、其の時々現状には満足出来ない欲望の固まり、すなわち、我々人類である以上、一日として明日へのすぐれた思索を進められない限り、この地球に大いなる歪み、すなわち、公害問題の広がるのは必至の喫緊時^{きつきんじ}にちがいない。

いや、もう既に広がっている。我々の発明考案は、地球破滅の方向に向けてはならない。けれども、識らず知らずの間に、我々の思考が、青い地球を困らす方向に向かってしまふ事だつて当然有り得る。地球をクリーンに護ることは、我々人類の連帯責任であり、単に各国為政者にのみ任せて事足りるものではない一大事である。特に発明考案に関わる科学者技術者の、これらに対する自覚如何は、新世紀の地球の存亡、即ち人間のみならず、動植物を併せた、居住性の良否を決する重大問題だ。

前述の様に、我々は地球をクリーンに保つ一端を担っている一人として、時に各国の為政者をして、非に向かわしめぬ使命感を持つて、事を処すべき、良心でありたい。

日常、個人の発想する範囲は、狭くまた小さいかもしれない。

若し、その方向を誤つていれば、やがて、その累積は、その時に及んでは、如何ともし難く遅すぎる事になる。我等の数百年、いや、数千年後の子孫を思い遣つての日々の思考行動こそ、地球生き残りの一方策だろう。

第34章 現場の、マンネリ化は?!

ある程度目標値を達成している企業の現場では、全てではないが、兎角マンネリ化に陥り易い。

オフィス、工場の壁には社訓をはじめ、中には猛烈な檄文が貼つてある。大変失礼であるが、この様な壁の貼り紙では、どうにもならぬ事を知りつつ、まあ一種の企業用のアクセサリーかも知れない。いや、勿論効果を發揮している企業もある。

此处で扱っている発想とは発明考案に関わるものと、最初お断りしてあるが、ときには自由闊達に、発想を広げて見よう。

一般企業では、必ずと言って良いほど、行われている提案制度は、確かに程度の差こそあれ、効果は挙がつているに違いない。中には毎月ナニガシかの提案を義務化し、半強制的なものも聞いていた。是では恐らく逆効果を産む場合もあるう。人間の頭脳は、兎に角強制は好まぬものだ。

提案制度は、古来、人間の集団には、意見具申と言う形で、自然発生的にあつた形態である。この制度は、現代の企業形態となつて、下意上達がやりにくくなつたのを、感じた

経営者が、褒賞を見返りに作った制度と思う。

沸沸として、優れた提案が湧き出てくる企業は、当然優秀な経営者と従業員の団結の成果ではあるが、矢張りそこには、やる気を起こさせる具体的手法と言うものが有る筈である。勿論、経営観や企業の規模の大小により、その処遇は多少異なるう。

基本は、「公平適正な評価と提案の有効活用」にある。其の根幹は経営者の眼光紙背に徹する、各々の提案に対しての「読み」の深さにある。

人間の思考は、勿論千差万別、この場合従業員提案書の、一字一句の内容、図上の線一本の苦心、この様な事は、書き並べるのは容易だが、実際には、その審査眼は、本当の現場を識っている者でなければ、素通り見落としする。昔から我が国には、「士は己を識る者の為に死す。」とある。

一枚の提案用紙への託した事は、現場での実務から生まれ出た従業員の苦心の結晶とも言える。その琴線に触れられる、経営者の活眼との出会いを、如何に待ち望んでいる事か。己の提案が採用され、我が職場がより活性化し得た矜持を感じしめること。これが最も肝要である。かつ、適正な論功行賞の実施を伴ってこそ、社運向上の車の両輪だ。企業の幹部のやる気が漲みなぎっている事を、感じるところマンネリ化の方向には進む懸念も遠ざかるに違いない。

第35章 発想の、糸口を作る（捜す）

章題のこの「糸口」と言う文字は本題に、打ってつけの表現と、ひとり悦にいつている。発明考案の発想は、今まで幾度か説明した通り、起承転結の発想の道程が、あなたのコンピュータのソフトとして完全に組み込まれると、まるで湧き水のように発想できる。但し、コンピュータのソフトは、常に新鮮な情報をインプットするよう心掛け、あなたの専門分野以外の事柄についても、粘り強く幅広い取材に努める事は、既に再三要望した。

テレビの教育番組等の中で、理科、社会科学系の課題を放送しているものに、雑学復習に役立ちそうな番組が結構有る。習って忘れていた事、中には新知識もある。

もう、本書を此処まで読んで、内容の理解が得られていれば、飛行操縦ならば、単独飛行許可が下りたも同然だ。これからは自主的に、如何にその場を処すべきか、迷った時は出発点における考え方に戻り、演算法を良く自身で考え直し、試行錯誤の繰り返しの中に、自ずと道は開けて来ると思う。夫々各コンピュータには、一長有り、また一短ありで、能力にも夫々の目的別、つまり得手不得手がある。己がそれを感じたならば、幾度も申す通り、ソフトの充実を常に怠らず、次への対応に備える事を切望する。話が急に変わる事を

お許しただく。

今、若い方に、「糸口」と申しても、すぐにはピンと来ないと思うので、大よそを説明する。皆さん蚕のマユはご存知と思う。あのマユから生系を取り出すには、マユを熱い湯に浸し、マユの表面が湯でゆるんで、糸の端末「糸口」が搜し易くなったところを箸の先でつまむと、後は生系がマユから楽に取り出せる。この生系の端末を探り出すのが、「糸口」を探し出す事である。また、他には、糸巻きに巻いて有る糸の端を探し出すのも、同様に言われている。この様に、物事の始まりを「糸口」と言う訳である。

ここに、一つの課題があるとする。これを絹の^{よりいと}燃系とする。

先程のマユを適温の湯に、暫く浸しておくともユの表面が湯で弛み、箸先に絡み易くなる。この段階は、あなたの頭脳コンピュータが演算中で、ソフトの適正な応答を抽出する為、もう最終段階までもなくの処だ。やがて、箸の先に、そのマユの糸口[〃]先端が絡まる。一個のマユから、この様にイト一本を取り出し、燃系の求める太さに応じ、複数個のマユからのイトを束ねて撚り、この束ねたのと同じ別の束を、複数本、縄をなうのと同じようにして生系の燃系が完成する。この完成した燃系其のものが、課題の発明そのものである。

燃系を構成する夫々一本ずつの生系は、発想し得たいくつかの出願する発明考案であり、またその他の生系は、公知の技術と言う事も有る。少々説明が適切を欠いたかも知れぬ。

前編（発想の糸口を、作る）

つまり、新技術の開発は、全てではないが、公知の技術、先人の開発した技術その他を総合し、主とする己の新技術に加え併せて、新製品が世に発表されるのが通常である。

まとめとして一言、既に本書中にこれから申す事と類似の内容は、説明した。我々の目指す物、方法等の発明の真理は、この宇宙間に既に在り、五感に感じる事はなくも、存在する。あたかも大きな伐採した樹木が在るとする。彫刻の技術を持つ仏師であれば、この樹木の中におわします、仏像を神々しい御姿として、世に現す事が可能である。この仏師の「技」こそ、我々が求めてやまぬ発想の「起承転結」ではなからうか。

前編 終わり

後編 (こんなヒントで、 パテントが得られる)

第1章 「発明免許証」は、まず自分が「特許登録」か 「実用新案登録」を得て、自信を持つ事、これが「発明免許証」

「良く言つよ、発明考案の発想なんて、そう簡単に出来るもんじゃないわい。なにか、俺この本買って騙された。」と、お感じの方、全く其の通りと筆者も思う。

しかし、「今」!! が近い将来あなたが創作者として認められるか、あきらめてこの本を捨てるか、山の頂上の分水嶺に立っている。

「一寸、待つて!! 釈迦に説法かも知れないが、大枚はたいて買い求めた、この本一冊読んだだけで、発明スイスイと、発想出来る位ならば、誰も苦労はしなくと思う。」

この本は、たとえば、「百米競走のスタートラインは、ここです!」と説明したようなもの。速く走れるようになり、目指すタイムでゴールインは、アナタ自身のためまぬ努力と、それこそ、「エジソンの1%の閃き」だと思う。その1%の為の糸口を、この本は説明した積もり。

後編は、恥ずかしながら、筆者の失敗談を主に説明する。どうか、「他山の石」とされ、また、「前車の轍」を踏まぬように願うしだいである。

前編には、主として、今申した通り、スタートラインの位置、そしてスタートはどのようになればと、事細かに説明はしたが、具体性が無い。言わば精神論に終始しただけだ。一層理解を深める為と、失敗談だけでは、書店の立ち読みだけで、読者に見向きもされないと思う。そこでチョッピリ、成功談も。失敗、成功の判断は読者ご自身で!!

前編を読んで、「何か工夫する心がなんとなく湧いてきている。」と感じている読者も多数おられる事と思う。しかし、なにをどうと言うと、中々すぐには出てこない。

まず最初は、身の回りを見て、平生最も親しんでいる物、例えば歯ブラシが今此処に其の形である。毎日何の疑問も不便さも感じず、此処にあるのは当たり前。

皆誰しも、身辺を見回すと、この程度の感じで、感謝の念なんか、隣の部屋見ても無い位で使っている。皆さんこんな感じと思う。筆者もそうだから。

まず、「この歯ブラシは、俺が金出して買ったものだから、そこにあって使うの、どうと言う事じゃないよ。!!」この様な気持ちがあっちゃ、良い発想なんか、あなたの目の前迄きて、「はい、ではまたね!!」

前編の何処かで書いたが、一つの物が出来あがるまでには、複数人、いや、大多数の人々の色々な苦心の結晶だと。そうして、夫々の人に対する感謝の念が発想の原点である。チリ紙とは最近言わない。ティシュペーパーだ。あなたの手許にくるまでには何人の人手を経て出来上がった物か、この辺から、少し考えて見よう。

製紙は、どのような物でも、大変手数の掛る品物で、現在のように鼻紙トイレ用には、それこそ昔は高貴な身分でも、紙は使えなかった事はご承知のとおり。

それが今では、「湯水の如く」なんて死語になって、「ティッシュ（ペーパー）のポイ捨て」と、無駄づかいの表現も変ったくらい、紙類も大量生産のお陰は、この様な処迄恩恵が及び過ぎた。

まず、物事最初が大切と思うので、ティッシュペーパーに話題を絞って検討してみよう。現代社会、大概の国で言える事は、西暦一七六〇年代に、英国で起きた繊維工業を基幹とした産業革命は、欧米諸国にまず拡大した。そしてそれまで手工業の域にしかなかった大多数の工業は、夫々機械化が進んだ。

この成果は、製品の品質、精度の向上と共に大量生産が、各部門の産業で可能となった。この産業革命の出発点と言える、原動力即ち蒸気機関は、一部は車両の牽引力である蒸気機関車として活躍し今もSL（スチーム・ロコモティブ）と略称され、電車にお株を奪われたが、一部ローカル線の名物化し、休日の特定日に子供等の親友となって健在だ。

子供等は、このSLの小旅行を何か特別の思いで乗っているのかなあと、筆者は感じる。かく申す筆者も、SLは人間と機械の接点のような親しみを持っている。「イヤア……また悪い癖の脱線……、SLの脱線じゃなくてよかった。」

ご承知の通り、我が国で昔紙が手漉きのころは、楮^{こうぞ}、三桮^{みつまた}の木皮を原料とし、何工程も、

それが、しかも寒中の作業で出来た紙が品質が良いと聞いている。和紙の優秀性は、良質の原料と共に、労苦を惜しまず丁寧な仕事をして仕上げた、我が日本人の感性の特長を現している。

この様に優れた和紙も、限られた原料、そして煩雑かつ大変な労苦に加え、技能者でなければ出来ぬとあつては、残念ながら今の世では用途が限定される。それゆえ、芸術工芸品の素材としてのみ、これからも永く伝えられる事だろう。

一方、誰でも一日の内で、一度位は拝む、福沢諭吉、新渡戸稲造、夏目漱石諸先生も、機械生産された和紙を原料としたものと広義に解釈出来る。（紙幣）

一般に用いられる洋紙の主原料は、ご承知の通り木材から製したパルプが原料の大部分だ。

少々、脱線になるが、今や、地球上の樹木の伐採が増え、気象にも大きな影響を与えかねないと憂慮されている現状である。

紙の消費は、文明度を示すバロメーター等と、往時は言われた事もあった。とんでもないバロメーターで、極端に言えば地球環境破壊を表わすバロメーターと言い換えた方が、当を得ていよう。

パルプ供給の源を木材伐採だけに頼つては、それこそ地球の砂漠化が止まらなくなり、地球の破滅に繋がる事必定。勿論これらの事は、当事者は以前から気付き、紙の再生使用

を活発化しようと努力している。

我が国でも近来「再生紙」と言う言葉を盛んに見聞きしている。故紙を再生するには、パルプから造るよりコスト高、つまり手数がパルプから造るより余計掛るのが難点だ。他聞で確証はないが、「ケナフ」(一年生アオイ科の草類)と言う草が紙の原料になるそうだ。木材では何十年の育成期間を待つ事になるが、草類であれば短期間で採取可能ではないか。

兎に角、地球上何十億と多数の人類のたとえば半数近くの人々が使うとしても、トイレトペーパー、ティシュペーパーの消費量は、馬鹿に出来ない膨大な物量である。

一寸、浮かんだヒントだが、所構わず生えている雑草類の中で、これが多くの手を掛けずに、上質な物でなくても紙の原料化が出来たら、木材伐採や、再生紙の問題も多少は解決出来るような気がしてきた。誰かその筋の専門家頑張つて戴きたい。

ティシュペーパーは通常二〇〇枚程度の紙数が、一寸洒落た化粧箱に収まり、折りたたまれて二枚ずつ取り出せる晒しパルプの薄紙製だ。

また、トイレトペーパーは、申すまでもなく家中で一番狭い部屋専用の物だが、どうして中々用途は広い。

本書を読むくらいの人、紙の名前に拘らず、便利と経済を考えれば、結構出番があるから頼もしい。それを見越してか、トイレのロールペーパーを使い、何処でも置けるホル

ダーを造って売られている。それこそ、ティッシュペーパーに成り代わって、トイレットペーパーが机上や思わぬ所にスマシ顔で座っている。簡単なようだが立派な考案だ。

ロールペーパーは通常、先程言った一番狭い部屋専用かと思っていれば、一寸衣装を換えティッシュペーパーに変身し栄転だ。ロールペーパーの用途拡大、たいしたものだ。其の分、ティッシュペーパーどうなるの!?

皆さん発想も、身の回りのこの様な品物の用途拡張等も勉強になると思う。

我々の身の回りには、結構発明考案の隙間があるので、これから時代の進展に伴ってまた其の時代の要求も移り変わるものだ。

分かり易く例を挙げると、昔は草鞋、草履と言う履き物が幅を利かしていた。今じゃ草履、草鞋なんぞ、まずお目に掛れない。まあ、草履はかつての娘さん、早く言えば御婆さんの和装の履き物に使われている。草鞋にいたっては、舞台上の時代劇なら見られるかも知れない。こんな訳で、時代の要求は、益々目まぐるしく変化の時代である。時の流れで需要は幾らでも湧いてくる。発想の方も、どしどし頑張っても一向に心配ご無用と思う。明るい社会構成には、発明考案に限らず、良い発想がこの社会を支えている。其の一端を担っているのが我等である。この責任は重い。

発明考案は、己が不便を感じている事が、ヒントになり易い。かといって何事も不服不便でいたのでは、人生こんなつまらぬ暮らし方はない。そこは人間、心の持ちようで、余

程、不運な境遇にある方は兎も角、普通のなに不足無い暮らしをしていたら、昔から年寄りが受け継いで来た言葉「今日様に感謝の気持ちを忘れないように。」良い言葉だ。これが普通の日本人の真底にある、アイデンティティ（同族性）の一部分を形成しているに違いない。

話を元に戻す。其の品物自体、その用途、何が不便か、自分で其の改良が出来るか、その改良は長さの変更か、其の物の穴の明け位置、穴の大小の変更か、一部材質を変えるか、等々一時流行った、重厚長大、軽薄短小のように形状変更から、改良の対象物の観察に取り掛かり、一つずつ、じっくり、あれこれ改めた時の、その品物どの様に变化するか、頭の中だけでなく、紙上に書いて確認して見る。そして必ず実際に改良出来るものは、切りつめるなり、穴をひろげるなり即、実行する。改良後の其の物の性能は、アナタのコンピュータの責任だ。まず、この辺から手がけてみよう。運良く努力が実ると新製品の誕生も可能だ。身近で使っている品物の不便さに気づき始めていれば、あなたは必ずそれを改良しようと言う作用が頭脳で働き出したのだ。筆者の経験からしても、そうなると、どしどし品物の欠点が目に入ってくる。

家庭で差し障りの無い程度に改造を心掛けよう。たまには、山の神から褒められる時もあるし、「お冠」で恐縮!! まあ、いいではないか!! 日に日にあなたのコンピュータの性能が向上しているのだから。

前編でも少々触れたが、もう此処まで来ているアナタは、「観る目」が大分前とは違つて来ているので、たまにはバスルームか、例のあの狭い部屋で、今までを振り返つて見るのも良い事と思う。もう、そろそろ特許製品ができそう!?　なんておだてて!!　そして、アナタが技術、研究の職席に居れば、製品の改良、新製品の開発のチャンスは、目前の事と思う。テーマさえ与えられれば、以前とは異なる高度の見識ある対応に上司も得心される事と思う。慢心すべからず。「勝つて兜の緒を締めよ。」益々この道に研鑽、周囲から不動の信頼を得られるよう願っている。また、己の創作を大切に。

一方、自営独立の方は、己の経営方針に適合する創作を研鑽され、貴業界に雄たる技術力の蓄積を心掛けられ、更なる研究開発に専心されん事を心から願っている。

尚、特許庁への出願については、前編に概要申した通りである。自力での出願は、十分法規を理解し実力を付けてからにお勧めする。

先にも触れたが、弁理士に依頼するに際しては、分野別の得手、不得手がある。己の出願分野に適つた方を、弁理士会に問い合わせの上、依頼される様、念の為。

第2章 「特許登録」と「実用新案登録」との違い

特許法、実用新案法の夫々、第一条をまず、連記（列記）してご覧に入れよう。

* 「特許法」第一条この法律は、発明の保護及び利用を図ることにより、発明を奨励し、もって産業の発達に寄与することを目的とする。

* 「実用新案法」第一条この法律は、物品の形状、構造又は組み合わせに係る考案の保護及び利用を図ることにより、其の考案を奨励し、もって産業の発達に寄与することを目的とする。

実際に、上記二法（本章では二法に絞る）を学ばれて、出願し、そして出願中特許庁からの、本件に対する主として拒絶査定書類に応答するには、それなりの法規に対する理解とともに、己の出願書の内容で如何なる訂正で審査官に受理されるか、これは、同類の技術が、既に登録されている場合など、其の隙間を縫うように権利を主張するのは、中々一筋縄で出来る事ではない。矢張り、プロの弁理士に依頼されるのが無難である。相当実力を蓄えてから、ご自身で出願をお勧めする。

次に、出願して気になるのは、権利の有効期間だろう。（平成十二年四月一日施行法）特

許登録された、特許発明つまり、「特許権の存続期間は、出願の日から二十年をもって終了する。」とある。

次に、「第十四条1 実用新案権は、設定の登録により発生する。」「第十五条 実用新案権の存続期間は、実用新案登録出願の日から六年をもって終了する。」

さて、この上記二法の主部を読んで、お気づきと思うが、権利の存続の起源は、「出願の日」から起算している。

出願にさいし、二法のどちらにすべきか、弁理士に依頼しての出願なら、心配ないが己自身の出願で迷う時は、発明協会及び各支部の相談室と言う手もある。そのような時は、次に記した事を弁えた上で相談されると良い。

章の終わりに一言、特許と実用新案を簡単に説明する場合、良く用いられる譬えは、頂上に雪を戴く富士山の絵で説明する人がいる。分かり易いと思うので、一寸お借りしよう。

山の頂上の冠雪の部分、大体八合目以上の白い所は特許発明、そしてそれより低い裾野の部分が、実用新案権と説明している。つまり、発想した技術内容の高度のものを、発明と認め、それ以下の物を実用新案と解釈出来るだろう。そして、二法の内容の精細な相違については専門書により研修されたい。

第3章 「ブックカバーに、カレンダー」 (書店で、本に覆う紙カバー等に)

なんだ、こんな物がパテントか?! 其の通り。

実用新案登録の名称、「簡易書籍覆」登録番号は、(イ) 第570285号、
(ロ) 第580286号。

「実用新案登録」(イ) の登録請求範囲。

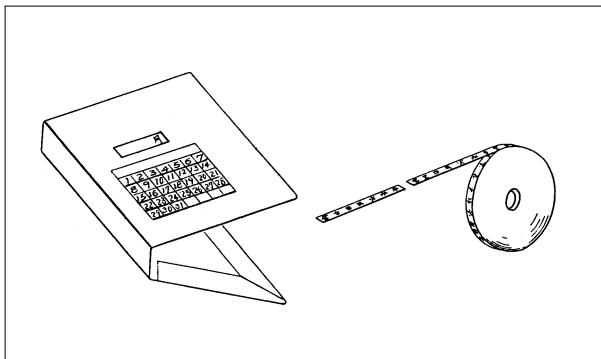
図面に示す様に、紙又はビニールよりなる表紙、又は裏紙に曜日表示空白部を有する
一ヶ月分のカレンダーを表示せる簡易書籍覆の構造。

「実用新案登録」(ロ) の登録請求範囲。

図面に示すように、紙又はビニールよりなる表紙又は裏紙に、曜日表示空白部を有する
一ヶ月分又は数ヶ月分のカレンダーを表示せる書籍覆と、これと符号しうる曜日を連続的
に表示したテープとの組み合わせ。

以上、実用新案登録(イ) 第570285号、(ロ) 第580286号の各登録請求範囲
と各図面により、内容は理解された事と思う。

後編（こんなヒントでパテントが得られる）



このような簡単な考案でも、新規性、進歩性の要件を充たしているものについては、登録は認められる。これだけで、読者は、十分理解され、御分かりの事と思う。「ヘー!!」
こんなもんでねえ。よし!!
俺も考えよう。

そうこなくっちゃ!! 是非、奮い立って頑張つて!!

本考案の実用新案権は、現在は出願から既に六年以上経ており、権利は消滅して公知のものと、なっている。（本考案の権利の生きていた時は、旧法で十年の権利期間であった。）読者の中で本屋さんが、おられたら、ご自由に自店のブック・カバーにご使用下さい。キット顧客に喜ばれると思う。どうぞ!! 話は、大分それるが、新規事業を起そうと言う時、何を己の事業としたら良いか、未定で、工業技術の道を選ぶのであれば、良い穴場を紹介しよう。これは、皆知っている様で、案外気づかぬ所がある。一寸、勿体無いな!! でも、前編でも触れた事だし、新規開業の饒はなむけになれば良い。お話しよう。それは、期間の過ぎた特許公報、実用新案公報の類だ。特許庁各公報のホームページをパソコンに求め、あなたの事業関連分野を調べれば、先程もブックカバーで説明したよう

な発明考案の宝の山が、眠っていますぞ。尤も其の中から己の事業に適した発明等の案件を戴くには、その道の専門知識の基礎の部分で良いから、しっかり勉強しておく事が肝要である。其の後に宝捜しをやれば、必ずや、「これだ!!」と言う発明考案に巡り合う事間違いない。

前述してあるが、世の中には、己の発明考案の権利は得たが、世の中とのタイミングとマッチングのズレ、或いは資本調達不具合等であたらすバラシイ発想の技術がお蔵入りで、陽の目を見られぬ案件が泣きながら、ゴロゴロしている。これは発明者の労苦にも報いられず、また国家的損失でもある。また、権利が有効期間中の案件は、その権利者と実施権設定の契約するのが賢明だ。心有る読者の皆さん、再度申すが、新規開業に際しては、筆者の愚案なれども是非ご一考を。

第4章 小学校時代の、理科の実験を思い出し、 二目で飲み頃が分かる徳利」を考案した

飲兵衛の考える事なんて、こんなもんだと言うサンプルを御見せする。

筆者は子供の頃、学校の勉強で一番好きだったのは、理科特に物理、化学系の教科に集中していた。動植物は東京の下町育ちのせいもあってか、また性格もあると思うが、余り関心は持たなかった。それでも、近くに浜町公園と言う、今でも在るが、日本橋界隈としては、結構広い公園で、植物も多数植えられており、自然環境に模して造られていた。

夏は、駄菓子屋で売っていた篠竹、四米近くあったかな。其の先端の部分に鳥もち、今はそこらに売ってないから一寸、ガムをかみつぶしてねばこくなる。これに似た鳥もちを指先で竹の先に塗り付けておく。これで、トンボをとるのだ。昭和の初め頃は、都心も結構自然物も豊富で、公園には色々なトンボ、バツタ、蝶、鳥類が子供等を楽しませてくれた。

筆者が理科系に興味を持つ様になった、一因は家から浜町公園に行く途中に、Y堂書店と言う本屋があった。亡父が当時職業上の資料の新刊本等は皆此処に注文し、当家は得意先の一軒だったらしい。余所の友達が立ち読みしていると、其の店のオバサンがハタキを持って出て来て、パタパタ始めるが、筆者（当時の）が一緒だと、ハタキを持って出てこない、わが友は言っていた。何時も読む本は、「子供の科学」だった。少年倶楽部は家で毎月買ってくれた。

筆者が「子供の科学」に相当関心ありと、みてとったオバサン、頼みもしないのに少年倶楽部のほか、親父の注文品にかこつけて我が家へ届けに来た。その時、筆者は運良く居

合わせ、注文してないと言っていた母を強引に説き伏せ、遂に毎月我が家で「子供の科学」も読めるようになった。さすが、商売人のオバサンだ。筆者にとっては福の神だった。

元々理科系のものに関心の強かった処に、念を押すように理科ずきになったのは、この少年時の読書の影響は、大きなものだ。其の後、味を占めたY堂のオバサンは、其の頃筆者に向くような、名はハッキリ覚えてないが、小学生の理科辞典を届けて奨めた。前と同じやりとりがあつたが、遂にお袋も折れて、分厚い理科辞典もわが手中に歸した。

それから暫くは、学校から帰ると、まず辞典に飛びつく様にして、アチコッチ、パラパラめくつて拾い読み、学校の宿題なぞソッチノケ、お陰で宿題を忘れ立たされた事も覚えてる。確か五年生の頃と思う。

この様にして覚えた事は、己が覚えようとして居るから、当時はまだ無かつたが、今はどこにもある、エアークリーナーで埃を吸い取る様に強引なまでの知識欲だつた。学校の理科の教科書も新学年四月手に入ると、まず、一番先に開いて見たのは、言うまでも無い。理科の課目は当時四年生からだつた。桜の花弁が最初の方の頁にあつたのを覚えてる。人生行路は、玩具の「迷路ゲーム」遊びのようだ。岐れ道つまり分岐点で、右に行くか或いは左を選ぶか、それも己の自由になる事もあり、人任せの時もある。どちらを選ぶかで、幸か不幸が決まる。永い人生に於いてその感慨を、^{つくづく}熟味わつて今日迄生きてきた。

人間の生死や、生きざまは、万事全て己の自由にするものでなく、天地の造物主の力が

支配している事は確かだ。そんな訳で理科を得意にしてくれたのも天与の幸運だ。この課題に限って予習は抜き無かった。と言うより教科書の中味は楽しみとして勉強済みだ。それに手工も好きで得意の一つだった。（手工は、現在の図工の内の工作の事。）

学年はもう定かでないが、膨張の実験で、赤色の水を満たしたフラスコに、穴を開けたゴム栓にガラスの細い管を差し込んだ状態にしてつなぎ、それを支持台に固定してあった。フラスコ内の赤い水の上端は、ゴム栓上数センチの所まで管を昇っていた。この実験に就いて先生の説明が終わり、いよいよ実験にとりかかった。

最初は先生の手の掌の温もりで、色水が、ガラス管の中で、どのような変化をするか、当時は一クラス約六十人の百二十の目は、ガラス管の色水の先端を凝視していた。

暫くの間、先生の手の掌はフラスコの球をジッと温めておられた。赤い水はユックリとガラス管を昇り始めた。我々は誰知れず「ワーツ」と喚声が挙がった。

次に続いて、ガスバーナーを使ってフラスコを温める実験が行われた。点火したバーナーの炎を下から金敷網のそばに近づけると、間もなくガラス管の色水は急上昇した。

勿論バーナーは、フラスコから直ぐ離された。

この膨張実験の有り様は、心に深く刻まれていた。そして、約二十五年後の事である。当時、年も若く晩酌等はしておらず、ごくたまに仕事の終わった夜、一寸一杯と言う程度だった。「運命」（おおげさ）のガラス瓶づめの清酒の栓はぬかれ、そして薬缶でお潤を

した。

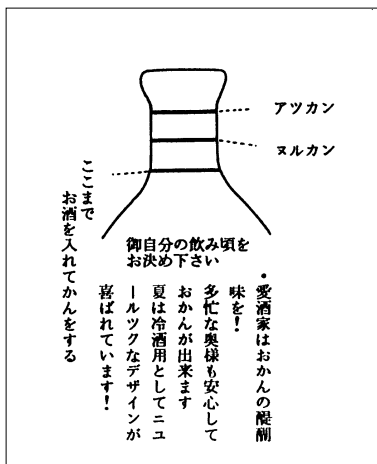
頃合い良しと、瓶を取り出すと、酒の液面が口元近くまで昇っていた。「その瞬間」筆者は、幼時の理科の先述した実験を想いだした。

ガラス瓶口元、外側に一寸した小さい糸屑のようなキズの位置、初めは意識してみていなかったが、液面との関係位置が変わっているのに気づいた。

「この糸屑状キズと、液面との変化。」ここに気づいて筆者は、最も早い休日に早速、必要材料、まず清酒一升（普段はこんなに飲めぬが、この実験が、「錦の御旗」シメシメ。）温度計、液量を計るメスシリンダー、等々準備の上実験開始。最初に使ったガラスの徳利に、酒を入れる高さの位置に水平線を印し、酒を其の線まで注ぎお澗開始。電気コンロに載せた薬缶の湯は、沸騰前まで余熱してあるので、薬缶に入れた徳利は、間もなく、液面が膨張により上昇し始めた。前回発想時の位置迄、液面上昇した位置くらいの時マークし、取り出し試飲、「宜しい」。次は、熱燗あつかん、その次「温い澗ぬる」はと、実験を重ね、その日は休日のせいもあつて、普段は飲まぬ五合以上も飲み、また、ある程度実用可能の見通しも立ち、その日は遂にグロッキー。本日は定性実験でお終い。

早急に、定量実験に、実用に用いる容積のある市販のガラス製徳利を購入、熱によるビンの容積膨張と酒の体積膨張との関係、液面指示の方法その他、実用の物を作るとなると、中々細部まで調査に気を使うものである。他日、家人、友人の飲兵衛と合同実験開始、「熱

後編（こんなヒントでパテントが得られる）



爛」「中頃」「温爛」の夫々温度範囲を測定、良い結果を得て、出願の準備をした。当時、筆者は工業所有権に関する法規は全くの門外漢なので、出願は専門の弁理士に依頼した。結果は、実用新案登録第507790号を取得した。この徳利の考案は発明協会とNHK共催第二回発明工夫コンクールに出品し、「奨励賞」を授賞した。

この原理はどこにもある棒状寒暖計と同じである事にお気づきの事と思う。因みに、この徳利、世に発売されたのは、清酒をお爛して飲むのが当然であった頃、今から四十年前で幸運にも全国主要デパートで販売され好評を得た。また、清酒メーカーでも、徳利に名入れて販売促進媒体として、採用された。

やがて、時は移り清酒を冷酒として飲む時代へと変わりつつあるようだ。

当然、当時の実用新案権の権利期間十年間（現行法は六年）は既に過ぎ、他社が徳利を造っていると聞いている。我田引水だが、この徳利は、子供の年齢にもよるが、親子夕飯どきに、理科の実験をしつつ、和気あいあいの家庭環境をかもしだし、酒を楽しむ家庭円満のお手伝いが出来ると自負している次第だ。お粗末。

第5章 銀行の金庫の鍵を改良した男

章題の発明者をS氏としておく。S氏と筆者とは、仕事の関係で知り合った間柄である。仕事上の話も一段落し、雑談に入り手許にあった前出の三本線の徳利に興味を感じたのか、徳利に就いての質問があった。この部分前章で説明済みなので、内容省略する。

結論から申すと、この徳利は、前出の発明工夫コンクールで奨励賞を授賞した事と、そのコンクールに申し込むまでを、質問に応じこまごまと説明した。当時発想法の経験も未熟で、本当に運良く授賞したにも拘わらず、得意気になっていた事を思い出すと、忸怩^{じくじ}たる思いだ。

その後、S氏は前出のコンクールに出品し、筆者より上位の賞を授賞された。電話で祝意を表しておいた。彼の職業は金庫製作所の社長である。

前編で一寸触れておいたが、己の職業分野においての発明考案が、一番望ましい事で、彼はそのとおりの事を実践し、しかも、我が国最高権威の発明工夫コンクールにおいて優秀性を評価されて授賞をされたのであるから、たいした発明家だ。

次に発明の概要を記して、読者の納得を得なければ筆者の責任を果たしたとは言えない。

発明の構造は、専門技術の範囲で複雑なもので、この紙面では簡単な説明だけでお許し願う。発明の内容は、どこの銀行にも見受ける大金庫の鍵に関する構造の発明だ。

それまでの鍵は、金庫の所在する銀行の現場で、責任者が施錠、又は、開錠する構造であつたメカニズムを、その日の終業時以後、翌朝始業時迄は、現場の鍵では開錠出来ない構造で、止むを得ぬ時は、外部の他所（重役等）からの指令の信号に依らねば開錠出来ない構造と記憶している。この構造ならば、仮令ギヤングが押し入って、金庫を開けようにも、それこそ本当に埒が開かない。そのうち非常ベルはなるし、自動的に関係部所に連絡されるし、一巻の終わりだ。この頃は、銀行には厳重な備えがある事をギヤングも知っている。せいで夜間侵入は聞かぬ。S氏の発明は、世の中の安寧に役立っている、立派な発明家だ。其の後にも前述のコンクールで別の授賞されたと聞いている。

第6章 飲み頃の温度が、見て分かる哺乳びん

親父の晩酌に使う、「一目で飲み頃が分かる徳利」を考案しておきながら、哺乳びんの改良をしないのは、片手落ちで乳飲み子に申し訳ないと言つのが、この発想のヒント。構造

は、添付の図面で、ご理解願えると思う。

原理は、種々の飽和油脂が、常温（摂氏二〇度位）では、不透明なものが、温度上昇すると、夫々固有の融解温度以上で、透明となる。この点に着目して、融解温度の異なる、飽和油脂を哺乳ビン内のミルク温度表示に利用した。

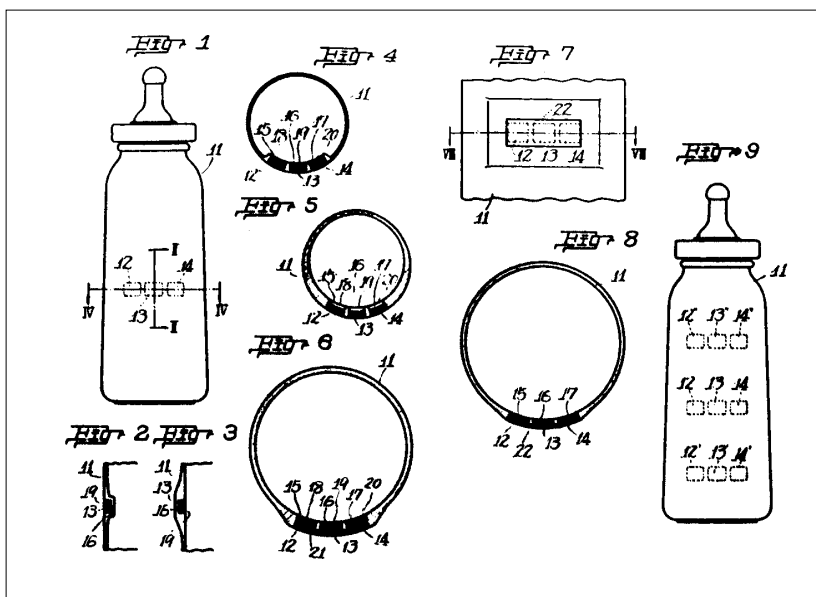
ミルクの哺乳ビン内の適温と言えば、母乳の温度と同じであればよい。（摂氏三六か三七度位）それゆえこの温度で融解透明になる油脂を中心とし、高低3度差で融解する油脂を説明図のように、哺乳ビンの壁面に装置し、内部にあるミルクが乳児に飲ませるのに適温を一目でわかる様にした。感温部の壁は、夫々温度表示を明瞭にする為、橙色、青色、赤色、三色の色彩を交通信号機の表示に似せて並べて用いた。

用い方を概説すると、哺乳ビン内のミルクが、高温過ぎて飲用不適の時は、三個の表示窓の油脂が全部融けた状態で、三色の表示が全部見える時、内部のミルクは熱すぎである。

青色、橙色の二色の板が見える時は、飲ませるに適温である。また橙色だけが、見える状態であれば、ミルクがぬるくて飲むに気分良くない。

ご承知のように、乳児は、気分そう快ならば笑顔であり、不快の時は、泣いて知らせる。余程子育てに熟練した母親でも、世の移り変わりに連れ、四六時中子の傍で、付ききりの面倒見は、難しい時代となった。世知辛い時代は、乳飲み子にとっても受難時代と言えよう。母親とのスキンシップのとばしは、子供の成育に取ってもよからう筈はない。

後編 (こんなヒントでパテントが得られる)



日常報ぜられる、未成年者の事件報道、昔と比べ発生する量も兎も角、その質が惨忍だ。矢張り子育ては、親子の心の問題だ。

兎角現代は、心の触れ合いが乏しくなり、親は子に心を注ぐ不足分を、欲しがる物をあてがつて、親は己の心を充足したかに錯覚している。一時、子は欲しい物を与えられれば、満足した様に子も錯覚している。

この親子の心の行き違いが、諸悪の根源をなす人間性浮薄の培池ともなり兼ねない。

話は一変する、若人は昔の物のない時代の事を、折りあれば高年者に聞いていただきたい。「清貧」は子育ての毒にはならない。親が子に背を向け、懸命に働く

姿からは、子に背かれる事は、まず無い。話を元に戻し、哺乳ビンは、たとい、母乳豊富な母親でも、出産直後は別として、我が子がある程度成長すれば、職業をもつ人は、元の職場復帰する事も考えられる。

まだ、授乳中であつても、今の世の中はそんな甘いものではない。もつと我が子の為と思いつつも、愛しい我が子を託児所或いは身内の誰かに預ける事となる。

この場合の授乳はまず、哺乳ビンに頼る事となる必需品と思う。

この哺乳ビンの特許出願は、日本、英国、米国、仏国、西独国に出願し、西独国以外は各国特許取得を出来た。（西独国は類似のものありと拒絶。）

この出願に際しては、当時、通産省及び東京都から優秀発明と認められ、出願費用の略半額を助成補助金として受領した。この発明も前回出品した、全国発明工夫コンクルの第四回に出品、徳利と同格の奨励賞を授賞した。

第7章 日常身辺に見る、諸々がヒント

「諸々がヒント」と言う章題であるから、数え挙げたら、それこそきりが無い。

そこで、これから一つの物の発達を、筆記具に絞り、考えてみたい。そしてその後で、雑感を少々申し述べる。

今、筆者が原稿用紙に書いている、鉛筆の祖先とでも言う物が、我が国に渡来したのは、江戸幕府初期の頃、我が国土をふんだそうで、十四世紀になってイタリーかイギリスで発明されたと辞書にある。今の鉛筆は、形状は昔と略^{ほぼ}同じと思うが、品質は格段の改良がされている物である。＊（発明国は辞書により、異なるので併記した。）

渡来当時は、珍品で便利であり、恐らく高価で、直ぐ普及する事は無かつたろう。鉛筆とて、そう簡単には製造出来る物ではない。普通の鉛筆の芯は、大体黒鉛と粘土を主原料として焼結したもので、その製法は、素人が考えても容易に作れる品とは思えない。これを大量生産するとなると、矢張り基礎となる工業力の裏づけが必要だ。

この鉛筆を国内で大量消費するようになったのは、そんな昔のことではないだろう。

推測するところ、明治末から大正十二年の関東大震災前くらいではないか。と申すのは、後述する、故早川徳次氏（家電メーカーのシャープ創業者）が大震災前、東京の墨田区の本所（昔は、本所区）で、氏が考案したシャープペンシルを製造しておられたが、罹災して大阪に移り、ラジオなど弱電製品を造る様になったと、本人から直接聞いている。

また、鉛筆の国内生産は明治十九年に始まった。明治の初め頃、国民の教育制度が確立し、それまで寺子屋での、読み、書き、算盤。そして武士階級の藩校等で主として孔孟の

訓え等、筆記の道具は、殆ど毛筆が使われていた。毛筆は支那大陸よりの伝来品である事は、ご承知の通り。毛筆の長所を挙げれば、幾らもある。しかし、一大欠点は、書画をかくには、筆、墨、硯、そして水を使う。

つまり、携行には、甚だ不便であつた。その為使用の都度、墨を磨^すらず硯のいらぬ墨壺が考えられ、また、矢立も考案された。若い方々は、矢立とはどんな物か、皆目お分かりないと思う。

簡単に説明すると、筆と墨汁を綿などに含ませた物を入れた容器とをひとまとめにして、持ち歩き出来る様に考案された物である。材質は、真鍮^{しんちゆう}、あるいは、銅製で、筆入れ部分は管状で、墨壺と一体の形は、腰の帯に刀同様に帯びて携行出来た。使う時、墨壺部分の蓋を開けると同時に筆入れの蓋も開き、構造は良く出来ている。贅沢な物は銀製もあつた。下手な説明で恐縮だが、見た事無い人は、大よその形を想像し、図に描き発想練習と思つて作図されたら良い。

其の後、筆時代はとうの昔に終わり、使い易さでは筆に勝る筆記具が世に出現した。それでも、我が国に於いては、筆書きの書物を現用し、芸術の書道として、また改まった行事の際の文字は、筆がきが常用されている。また一般に書道が全国に普及し、盛んである。前述の矢立に代わる物として、一見万年筆の外見で、キャップをとると、毛筆の穂先が付いている、携帯用の毛筆が一時期盛んに流行つた時期もあつた。この軸の中に墨汁が入

れてあり、筆を持ち歩く人にとっては、便利なものであった。好奇心から筆者も当時買ってもらい用いた。

それから、戦後になり、一見毛筆かと見える、穂先はゴム製の筆記具が、考案され売り出された。書く時の筆感、大分本物に近いが、現在でも今一步と言う感じである。此処まで良く考案されたものと思う。しかし、大量生産の出来る構造なので、価格はボールペンに近い。そして便利だ。更にもう一步の改善を望みたい。其の為に、需要の増大が第一の条件だろう。

筆、鉛筆、の外、欧州では、昔、羽根ペン、つまり、鷲鳥等の羽根一本を用い、根元の羽毛の生えてない羽柄の先を斜めに切り、その鋭い先端にインクを付けてペンとして使った。それを改良されたのが、金属製の付けペンで、現在は殆ど用いられていない。手に持つ部分は、木製その他あり、この部分をペン軸と言う。その先端部分に、金属製のペン先を、着脱容易に出来る構造に考案されていた。

やがて、この付けペンでは、一タインクを付けながら書くのを不便と感じた。

ペン軸内に、インクの貯蔵が出来、ペン先のインクの消耗に伴い、軸内のインクが、ペン先に供給出来る構造の、「万年筆」(FOUNTAIN・PEN)という便利な、しかもペン先を覆うキャップ付きの完成品が出来上がった。ペン先は通常14金、18金製の金ペンを使った。金ペンを使う理由は、金の材質の弾力が書き味に丁度良いと言われている。ど

こへも持ち歩き出来る様になった。其の便利さゆえ、この万年筆の世界中への普及の速さは、想像以上のハイスピードだったと思う。

今や、時代の要求は、更に進み、万年筆では飽き足らず、ボールペン主力の時代と言える。ボールペンで書いた文字は、インクが速乾性であるとともに、耐水性である。この利便性を持ち合わせない、そして単価も太刀打ち出来ぬ、万年筆は主役の座をおりた。

然るに、万年筆は、他には無い快い筆跡、書き味、つまり紙面へのタッチ、そしてインクの色調、インクから香りにも似た化学的芳香とも言える、使った者でなければ分からぬ魅力。一口に「雅味」とでも、表現のニュアンスが、オールドボーイ、そしてレディの心を捉えて放さない。

時代の変遷は、面白いもので、今や若人にも、この雅味、クラシック調が彼等の琴線に触れたらしく、愛好者が復活気味と聞いている。そのせいか雑誌などの広告に散見するものもそのぎざしだろう。

筆者は筆記具の嚆矢^{こし}をあたかも、鉛筆のように書き始め、誤解されるようなので、ここであらためてお詫び申しあげる。勿論、鉛筆以前にも各地で夫々工夫があった。

人類文明初期のころは、筆記と言うより、ご承知の彫刻の部類の、甲骨文字、金石文字等がアジアにはあり、また、一時的に書き記す材料としては、木炭、蠟石（葉蠟石）を細長く筆記し易い太さの形に作った石筆等その他にもあると思う。

この石筆は、筆者が小学校一年生の頃、硬筆習字は、石版（粘板岩の薄板に木枠を付け、黒板状の形とした物）に石筆で習ったのを記憶している。今でも玩具の文字、絵の道具として使われており、また、木炭も画家がデッサンに用いているのは、ご承知の通り。

再び鉛筆に戻ろう。今や鉛筆本来の書写用のみならず、使用目的を拡張、鉛筆の芯を黒鉛でなく、消しゴムを芯に代えて充填し、鉛筆型消しゴムとなっている。また一方芯を墨に置き換え、化粧品として、それこそ化けた。

本来の用途として、応用範囲を色鉛筆としたり、筆者が未知の範囲の考案も多数在ると思う。

さらに、変った物は、目的は本来の筆記用に使うが、鉛筆の欠点とも言える、芯の消耗とともに外側の木部を削る手数を無くす構造体を考案し、シャープペンシル（商標登録）と命名した人は、前出の日本人、故早川徳次氏であった。今やこの使い勝手の良さから、広範囲に普及し、小中高生の間において、其の需要は在来の鉛筆を凌駕する盛況だ。勿論、おとなの執務用としても広汎な用途を有している。

人智の進展は、人類の存する限り、留まるところを知らない。人類が代々、経年智力向上の結果、生活の種々の手段、或いは生活に必要とする加工物は、次第に改善され、またそれが受け継がれて来ている。

しかるに、残念ながら、現代に明確な遺跡として存在する物は、極めて希少のものと言

えよう。そのなかで、わが日本、エジプト、支那古代の遺跡その他の所においては、文字の存在が発見され、現代考古学者の研究により、エジプトの古代文字も次第に解読が進んでいる。一方、支那古代の甲骨文、金石文は、相当な範囲迄理解が進んでいる。

わが国は昔、隋、唐の頃より、かの国の文化に育まれた事物を導入し、漢字文化は、既に、我が日本化し、原産国である支那大陸よりも進み、特に、我が国で片仮名、平仮名の音標文字が発明され、諸事物の表現が、漢字だけより、極めて自由自在の意志表現が容易に行われ、書の芸術と言える、書道においても彼等を圧倒し、またアジアにおいて唯一の先進国たり得た。これも表現性の自由闊達な国語に存する、わが先人の英知の賜であらう。

我田引水の言辞を以つて、我が国先人の業績を評すれば、全ての事物が我が国に渡来するところ、我が先人の頭脳は、渡来事物の長短を觀極め、取捨選択の妙は、他を圧してゐる。その卓越した頭脳は、渡来の品々を改良の余地ないところまで仕上げ直し、完成の域にまで達した。

一方、他国からみると、日本の物は独創の物でなく、海外渡来の諸物を、先に申したように完成の域に改良到達させる。この我等が頭脳を誤解し、「猿まね」と蔑称した。一つに倣^{ひが}み、また一つに羨望^{せんぼう}に他ならない。

更に、この実績を示すに足る物として記さねばならぬ最たる物は、「日本刀」である。この発明の源は、恐らく大陸伝来の製鉄法を、逸早く我が技とし、日本人特に縄文人子孫の

英知が、単なる製鉄技術を、製鋼技術に一段と昇華させ、世界に冠たる日本刀鍛練の基を築いたに違いない。これは確たる実績だ。早くも当時科学技術の萌芽が芽生えていた。

従来、弥生人渡来以前の縄文人遺跡の、弥生人に比する評価は、全て未開のものと同じてきた。然るに近年縄文の遺跡の一部の発見調査が進み、特に本州北部の三内丸山遺跡は、縄文文化の秀逸な遺跡の出土である。従来の縄文文化が、弥生文化亜流との評価を覆すに足るものある事は、誇り得る悦ばしい限りである。更に、最近産経新聞紙上に、縄文時代既に記号文字が存在していたと報ぜられている。後記（註）参照。

近年、我が考古学に於いて、事実を曲げる様な、極めて卑劣な不心得者に依り、我が日本民族の歴史の年代を傷付ける不正行為が発覚、我が国民は勿論、世界の考古学に汚点を残した事は、国民の一人として返す返すも残念であり、この汚点により日本の古代人はもとより、我が考古学者の積年の努力を水泡に帰せしめた所行は断じて許せない。

一つ事物をみた時、「成る程」で済ましてはならないと思う。発想に努力する我々は、常にその物の真価を観極め、足らざる点を補い、また、あらゆる機会、また事物に接し、たゆまず観察眼を働かせ、ヒントを得て、世の正しく明るい進歩に貢献したい。

（註）前記の縄文の記号文字については、産経新聞・平十二・十・二十一（土）朝刊の生活ページに「古代日本固有の文字文化研究」（ホツマ）研究家・松本善之助氏の記事を一読されるよう。

第8章 私の生業となった、発明と考案

この章末に記した、特許、実用新案登録番号及び名称の工法等が、私の生業の基礎となった発明考案である。一覽されれば、発明の目的は、理解して戴けると思う。ガラス、貴石、或いは一部金属の表面等に、サンドブラストに依る精密彫刻をする特許発明である。

内容を逐一説明すると、それで一冊の技術解説書になる量なので、本章には概略の説明に留める。詳細は、特許Noから特許庁のHPで参照されたい。この精密サンドブラスト工法に依る、彫刻技術発明以前には、ご存知の方も居られると思うが、猛毒の弗化水素酸などの薬品を用いて、扱いも大変危険であり、文字を彫るにも、線一本彫るのも、多工程の事前の準備と特殊な設備を要し、かつ、深彫りには不適な技術であった。

一方、精密度を要しない、通常のサンドブラスト彫刻においては、彫刻を施す物の表面に、ゴム、にかわ、厚紙、エンビ板、等で覆い、其の表面に必要な、文字、絵を小刀等で彫りとり、露出部分をサンドブラスト（噴砂加工）に依り彫刻を施していた。それゆえこの従来工法では不可能な、同一文字、図形の彫刻を、多数生産するには、筆者の発明になる、各工法のうち最も適切な工法の選択施工により、所望する生産量の彫刻加工が、効率

良く可能になった。

筆者の発明した各工法は、不遜な表現を用い恐縮であるが、被加工物の形状、材質、そして彫刻する深さ使用目的等を考慮して、工法を選び用いれば、大よその需要に応じ得る、当時としては斬新な技術を開発したつもりである。

今や、精密サンドブラスト工法は、多方面において利用され、また、新分野を開拓し、筆者の開発した数件の技術が起爆剤の役割を果たし、大企業に於いても研究対象となり、新たな工法が開発されている事は、技術屋冥利に尽きると誇りに感じる。

筆者の開発になる、本章で公開した特許発明を全部此処に説明するには、紙数に制約があり、また、本書は技術解説書ではないので、この件は他日に譲り、本章に示した、工法のうちポピュラーな工法で一品ものに加工出来る、「特許第488704号硝子にサンドブラスト彫刻をする方法」につき、あらましを説明する。

特許公報等にある説明は、其の技術の属する専門分野の人が、理解出来る程度の内容である事を前提としたものである。この点をご理解願いたい。

「特許第488704号・硝子にサンドブラスト彫刻をする方法」の概要。

「特許請求の範囲」本文に詳記したように、清浄な硝子面にポリビニル・アルコールの水溶液を、サンドブラストに耐える厚さに塗り重ね、その乾燥した表面に、感光剤重クロム

酸カリまたは重クロム酸アンモニア等の飽和溶液で任意の文字図柄等を描き、この描写部分の感光剤がポリビニルアルコールの塗層中に吸収されて乾燥するのを待ち、加工全面を太陽光又は人工光に曝露して、上記感光剤吸収部分を光化学反応により非水溶性化し、その他の部分は全面水洗により溶解除去して、残留した文字図柄の非水溶性化部分を保護膜としサンドブラストを行う事の特徴とする、硝子にサンドブラスト彫刻をする方法。

以上

前記文中にある感光剤として用いた、重クロム酸カリ、重クロム酸アンモニアは、現状では、六価クロムの公害問題あり、若し、この工法を用いるならば、これに代わる感光剤としては、ジアゾ化合物を感光剤として用いる。

また、サンドブラストに用いる砂は、通常我々の身边、例えば公園の砂場にある砂とは異なり、加工する対象物により、カーボランダム（結晶性珪素炭化物）、アランダム（酸化アルミニウム）、鉄粉等を用い、また、その粒度も用途により大小使い分けている。次に、生業に役立てた、主たる工業所有権のナンバー名称を一部列記し、御参考に供する。

「特許第482449号硝子表面などに対するサンド彫刻法。」

「特許第488704号硝子にサンドブラスト彫刻をする方法。」

「特許第541257号硝子面に特殊被膜を形成してサンドブラストを行う方法。」

「特許第755065号器物面に写真法利用のサンドブラスト用保護被膜を回転式に設け

る法。」

「特許第967521号透明な硝子、貴石面等に精密なサンド・ブラスト彫刻を施す方法。」
「実用新案第1026651号スクリーン印刷装置。」

出願人（発明、考案者） 奥山博

第9章 日本は、今でも憧れの「ジパング」でありたい

そろそろ、二十年前にもなる昔の話、ところはニューヨークで、一アメリカ人が、己のアメリカ製の車が、度々故障するので、その車に嫌気がさし、買い替えようと、車のディーラーに行った。

話に聞くと、日本の「トヨタ」が良いとの評判を聞き、それを求める積もりであったが、あいにく品切れと言う。ディーラーの社員は、「トヨタ」製はよいが、今ではトヨタはアメリカで生産しているので、この在庫の「マツダ」はどうか、と言われた。「これは日本で生産した車で、確かな車だ。」と奨められたそうだ。

この話は筆者が大分昔、ある本で読んだ時の一部分だ。本の著者も確かな人で、信ずる

事の出来る、笑えない本当の話である。読者も恐らく、これに近い事をご存知か、又は中には経験されているかもしれない。

今や、我が日本は、世界の工場国である。大多数の生産品が海外で、超一流品として認められている。物作りで、品物の良否が決まるのは、大方、作者の旺盛な研究心と良心の有無が製品の良否を左右すると言っても過言ではない。

我が国は戦時中、敵の空襲に依る爆撃で国内主要都市が、瓦礫の原と化し、日本の復興は難しいと他国は見ていた。

勿論、我々日本人とて、敗戦の悔しさとともに、どのようにすれば再興出来るかと、当時思い悩んだ。あの敗戦とともに戦死者、或いは敵の我が国主要都市の無差別爆撃に依る戦災で失った家族に対する悲しみは、その遺族でなければ分らない。一寸の事では消えない永遠の悲しみだ。更に、家屋、家財又、工場設備も空襲されたところは、焼失してしまった。

戦後、我が日本は前述の犠牲のほかに、敗戦のため高額な賠償を背負っていた。

若い方々は経験されなかった、この様な幾重にも、覆い被さる、筆紙には尽くせない苦難を克服して、今の日本がある。物の面では、それこそ何一つ不自由無いと言えるだろう。そして一方、精神上的の苦痛や損傷は拭い切れない。兎に角此処まで、いや戦前以上に部分的には、物質面では回復発展する事が出来た。これは一に、当時海外から、やっとの思い

で復員した血氣盛んな人々を主とした努力の成果だ。今やその方々は高齡に達して居られる。そして、中には既に故人となられている。この先人達の辛苦の結晶と言う外無い。

この章のはじめに述べた話の様に、日本製品の大多数は、自動車を筆頭に世界中から、技術力・信頼度が高いとの評価だ。これこそ世界に誇れる我が国の財産といつてよい。これも、一朝にして得られたものではなく、前に述べたように敗戦の苦渋に耐えての、我が国民性の誠実さと智恵と汗の賜に他ならない。

話は、一転する。我が国民がなりふり構わず日々の勤労の隙を窺う様に、戦後の占領政策に載った或教育集团が、古来我が国の伝統文化、特に将来を担う子孫の教育を、我が国民らしからぬ偏向思想教育で汚染した刷り込みを、相当広範囲に施してしまった。

これは、我が国将来にとり、由々しき重大事である。戦後の世相荒廃、希薄な人情、一部の企業の指導的立場にある者の無責任、愛国心の欠如。そして、近隣国の外圧に右顧左眄し、内政干渉に断固たる態度で対応出来ぬ政治家。これでは、一国をなす形態とは、どこを取っても言い得ない。某国の政治家が、行政官が言ったとか、日本はあと十五年程で世界の三極（日、米、EU）から外れてしまうだろう。或いは二十年も立てば、弱小国化するなど、海外の観測は、甚だ厳しい。この様な評価は、他国の親切と甘受しよう。

今にして、これらの弊風となった、諸事情を改める方向に心有る国民が意識改革に向かわなければ、海外の眼が観ている通りの結論に到達する事は火を見るより明らかな事だ。

誠に鳥肌が立つ思いがする。

章題に示した、「ジパング」のいわれは、かつて十三世紀の頃の日本を指し、東方見聞録上に於いて、わが日本に対する呼び方である事は、ご存知の通りである。

なぜ、この様に過去の我が国を懂れての事を申すのか。其れは他でもない。当時の日本は恐らく完全な国家の態ようを整えていなかったにも拘わらず、時の為政者執権北条時宗は、理不尽な要求を携えた元国の使者に対し、断固たる態度で臨んだ事、その後の元の襲来に対する対応と言ひ、非常時における一国を預かる為政者はかくあるべし。と言つ「鑑かがみ」と言つのも過ちでは無からう。この氣迫が今の日本に是非欲しい心意氣だ。

今の我が国は、物満ち足りてゐる。しかし心の持ち様になると、お互い甚だ心もとない。世情はそれを如実に表わしている。かつて、「修身、齊家、治國、平天下。」この訓えは或程度の年齢の方ならば、教わつてゐる東洋の古い訓えである。是非、こうありたいものである。これが為し得てこそ、物心共に世界から評価される、現代の「ジパング」と言える「理想郷」と慕われるだらう。

そして、かつての黄金の国「ジパング」に匹敵する魅力あるものは、何ぞや!? これは、他無し、次代を担う若人に引き継がれてゐる、遠き祖先縄文人以来の優れたDNAに由来する発想力を磨く事に他ならない。

第10章 金儲けに、発明は不向き、純粹な心で

現代のような、技術革新の時代では、章題の語意はあてはまらぬと考えている方が多いと思う。

米国のビル・ゲイツ、その他若い人々が、コンピュータ関連の発明により、世界主要国に於いて特許権を取得し、今や、世界長者番付の上位を占めているので、不同意の考え、一応、ご尤もと思える。

発明に依り、莫大な資産を築いた人々は、世間に多数いる事は確かな事とは思ふ。それは、全体からみれば、限られた一握りの人々で、結果としてであつて、金儲けに心を集中した心境からは、花咲爺さんの相手の欲張り爺さんと言うところが「オチ」だろう。

矢張り、発明考案は、世の役に立とう、と言う心持ちが自然であつて、これでこそ発想の歯車が快く回転し、順当な発想として、あなたの頭脳を活発に働かせる環境が成立する。我欲に満ち溢れた心の状態は邪念であり、何事をするにもプラスに働かないだろう。それなれば、どのようにあればと、問われても、筆者自身、その問いへの具体的説明は、甚だ難題だ。比較的近似の有りようといえ、幼児が、遊び場で、夢中になって、一つ事に集

中しているのを、観察された事があると思う。

また、アナタ自身、仕事でも、或いは趣味に意欲を燃やし、「フウツ」と溜め息にも似た、いや溜め息かもしれない。あの心の開放されるまでの緊張、つまり、心の張り詰めた後の、無心の暫くの一時。この心境に恵まれた時こそ、発想への転機かと思われる。

座禅については門外漢で、ほんの真似事もあやしい何も識らぬ者であるが、座禅僧が公案を与えられ、悟道に面壁の修行。禅の道は我々に無用の事と感じられるかもしれないが、折りあれば山門をくぐり、参禅されるのも、心の洗濯となり、明日への創造力増強を助長される。

発明考案は、己の専門分野に関する智識は、常に研鑽に勉め、博識を以って他に抜きんでようとするのは、当然であるが、前編でも述べたように、他を圧する気概を内に秘め、氣迫溢れる心構えが、肝要と心掛けるべきだろう。

反面、忙中の閑を求め、弓弦を外し、十分な休養こそ、明日からも「心の窓」が大きく開ける事と思う。

伊豆山中にて 硝石

「寒鴉 座禅の如く 山静か」

第11章 日本人よ!! 我々の智力に、自信を持とう

文中、筆者はあえて我が国今次戦争は「終戦」の文字を使わず「敗戦」を使った。

昭和二十年八月当時、昭和天皇はこれ以上戦を続けた場合、我が国民の犠牲、国土の荒廃を増すばかりとの御聖断よりポツダム宣言をやむなく受諾され、我が国軍に対し「終戦」を命ぜられた。当時、わが陸海軍の将士は、天皇陛下のご命令なければ、たとい、わが国土全て焦土と化すも、戦闘続行の心積もりであった。戦争継続の物量的裏付けは甚だ乏しかったが、今の時点で考えれば愚考と思われるかも知れないが、誠にやむを得なかった。

今次の戦争と、他国の戦争の比較の適否は別として、其の後、北ベトナムは、全国土を荒廃させ、大多数の国民の尊い犠牲を払って、米軍を国土から駆逐した大戦争を敢然と戦った。この北ベトナムの心意気、誠に壮大である。イデオロギーは別として、学ぶべき点が多い。

戦後、我が国は勝者連合国の勝手な振る舞いからデッチあげの東京裁判で、彼等自身の非は棚におき、あらゆる手段を尽くして、我が国民の優れたアイデンティティの弱体化に全力を注いだ。それは残念ながら見事に成功した。その結果が我が国現状の、この体たら

くである。

果たしてこれで国家の形態を保ち居るや、疑念と焦燥感と更に憂慮を抱かざるを得ない。「日本国」は立派な独立国である。然るに米国の属州感を拭いきれぬ。

またわが小中高校の教科書内容に他国の内政干渉されても、断固たる反論の出来ぬ事。そして我が領海周辺海域に隣国海軍の特務艦侵犯に軟弱な対応、どれ一つ取つても往時のわが日本の矜持を保っていない。これだけ我が国の背骨抜きを出来た事、かつての敵乍ら「天晴れ」！と自嘲せざるを得ない。「悔しいが。」

今や、「昨日の敵は、今日の友。」日米安全保障条約も締結され平和な状態に戻った。

今後、我が国民が、他国より秀でた発明を世に送り出す為にも、この敗戦の「コンプレックス」は早急に排除脱却しなければならない。未だに、我が国家・社会には前記のようにこのコンプレックスが充満している。特に敗戦の結果、我が先人の偉業を若人に、曲学の徒が偏向自虐教育しているのは、由々しき重大事である。

さりとて、短兵急に改める事は混乱を招きかねない。これはあたかも身体に巣食った寄生虫を除くのに、似ている。わが身を傷めず駆逐するには相応の時間と、適切な方法を考慮しなければならぬ。恰も現状の政治家・教育現場に携わる人々の相当数は、戦後の偏向教育のもとに育った年代の人々である。この人々全てではないが一部分其の影響下に在ると言える。今後、わが国民が他国に秀でた発明を世に送り出すには、かつて我が国先人の

立派な過去の業績を温ね直す事の必要を痛感する。其の為にも前述の偏向自虐じやくの教育を速やかに除去、正常教育に立ち直らせる事は緊急事である。

在来、欧米人はわが日本人の後進性から、猿真似と侮蔑の目で観ていた時代があつた。これは止むを得ぬ事実と残念ながら受容せねばならぬ。第一の理由は、我が国土が島国である。第二に徳川幕政時代は、大部分鎖国の政策が執られた事で外交なく、これらにより後進性を生じた重大原因と思う。

如何に優秀な素質を包蔵する民族も、他民族との接触を保ち、或時は親交し、時に干戈かんか（戦い）を交えるような接触の無いところ、相互の発展進歩は、遅々たるものとなる。

斯様な思考を基に幕政時代の我が国を観察する処、誠に天下泰平の情眼を貪り過ぎた。一方、当時のヨーロッパを観ると、各国戦乱の時あり、また、夫々海外に視点を向け、頻りに領土拡張を目指し、広く地球上に、未開の地を求めて侵略、自国の植民地を拡張し、暴虐を振るつた。繰り返すが、この世界無法の時代に、我が国は太平の情眼が永すぎた。

其の頃、我が国外特にアジア、アフリカ、アメリカ大陸等諸大陸は、殆どヨーロッパ諸国が植民地化搾取を欲しい俛にした。一部は北米の様に植民地から脱却独立し、米国と言ふ一国となつた事は、歴史の教科書の教えるところである。

幕末、時の狂歌に

「太平の眠りを覚ます上喜撰（蒸気船）、

たった四杯（四隻）で夜も寝られず。」（作者不詳）

この狂歌は、戦前小学校の歴史教科書にも載っていた有名な狂歌である。歌の中に「上喜撰」とは、ご承知の方が多いと思うが、日本茶の銘柄名で、ペリー提督率いる米国軍艦四隻来航をひねった狂歌である事は、申すまでもない。

我が国は、この様に三百年に近い眠りの間に、他国の発達した文明と、幕末開国当時の我が国力とは比ぶべくも無い大きな較差が出来ていた。当時から、明治期までは彼等の文明吸収期間と言うもやむを得なかったろう。猿真似と言われても、臍を嚙み辛抱の時期だった。「禍を転じて福となす。」と古来我が国では言われて来た。

今次の大戦も、我が国にとつて、如何ともし難い処より起きた災厄である。

隠忍自重、戦後の国民の努力の結果、今我が国は物質経済では、戦勝国民より、ゆとり資産を貯え得た。そして今次大戦における、唯一の誇れる成果は、直接ではなくても、アジア、アフリカ、等に於いて所謂先進国と称する国々の占領していた、前述の植民地独立の起爆剤となり得たのは、一大壮挙である。

今や、世界の独立国は、約二百ヶ国に及ぶ。これは我が国が母胎となり難産の結果生まれた独立国が、この中に含まれている事に異議は無かつ。

今次大戦に於いて、我が国自体は満身創痍^{そつゐ}、民間と陸海軍の尊い犠牲者は、数百万人を数え、加えて国土の損耗も甚大なものであった。

戦後、半世紀近く国土の復興とともに、各々焼失された家屋財産の再建は勿論、国家賠償の資である高額の税金の負担は否応無しに、国民の双肩に掛かっていた義務を果たした。当時を思い出すと、一時期の首相池田勇人は、「貧乏人は、麦を食え!!」と放言、世論の猛反発を食らったり、また「国民所得倍増」等と調子の良い口車に載せられたり、今に思えば、苦しくも良く頑張れた。と万感交々、複雑な思いが拭い切れない。

戦前、戦中、戦後を体験して来た人達の想いは十人十色であるが、良く困苦に耐えてこられたと言う、この一点では一致するところと思う。

各地の戦野に草蒸す屍、南冥に、北海に水漬く屍と、一身を国に捧げられた同胞を想う時、転た感慨無量、今我々が平穩の日々を与えられて居るのも、これらの方々の犠牲による恩恵に他ならない。謹んで御冥福をお祈り申し上げるとともに感謝の意を表する。

現在のバブル崩壊後、我が国の長期に亘るこの経済苦境。これも国外の何等かの力かりが操作している気がしてならない。我が邪推に終われば良いが。

しかし、我が国は現状、苦渋を飲まされつつあるが、敗戦後の復元力を思えば、こんな苦境は些細な事で、侮る事無く対処する限り、まず、疎漏はあるまい。

極端に言えば、資源は我が国を取り巻く、海水だけの日本。そして我が国民の頭脳だけ

が頼れる主力である。海水の積極的利用は、日本将来の大課題だ。かつて猿真似等の侮蔑は、前述の様な環境と状況下では、後追いせざるをえなかったのが当然だった。今次大戦後、我が国復興の主力となったのは、明治、大正生まれの先人達の奮励努力の賜に外ならない。もう、猿真似とは言わせぬ。そして現在、不況下とは言え、我が国において培った先進技術は、他国を圧倒している。

「東海大教授唐津一先生からご教示戴いた一つ、アメリカが日本の技術を頼っている例として、自動車ビッグスリーが車のボディを造る金型は全て日本製だ。その理由は向こうの金型は三万回も打つとガタが来るが、日本製は六万回から十万回は打てるからだ。」と言うほど頼りにされている。勿論、全てに於いてではないが、わが工業製品の大多数は一流の域にあり、世界の繁栄に偉大な貢献をしているのが現実だ。何時までも敗戦国ではない!! 若人よ!! 日本の未来はあなた方を措いて他にない。日本人の頭脳は、遙か遠き昔の縄文人以来受け継がれて来た。他民族に優るDNAの頭脳が備わっている。徒や疎かにしてはわが先人に申し訳ない。今日、日本国繁栄の根源は、一にわが昭和天皇の御英慮に依り有能人材の損耗を中断し、国家国民が復興の原動力たり得た事、そして国土の能う限りの保全を為し得た。この二つの事が、今日の日本の復興を全うし得た源と思う。真実は此処にある。若人よ、頭脳は良質の刺激によってこそ、其の質の向上が期待されるという。諺に、「玉磨かざれば、光り無し。」

そして重ねて強調するが、若人諸君!! あなた方の身近の先人は、敗戦となるも、広汎の範囲に有用な業績を留め現在がある。その子孫があなた方若人である。少しも他国に対し卑下する処はない。堂々と胸を張つて世界を闊歩されたい。そして優れた発想で乏しき我が資源を補い、世界に誇る我が国伝統の優れた創作力を後世に伝えられたい。

加えて、諸氏の発想が、世界を良導する原動力となる事を願いつつ。

第12章 出願する時は、 付（工業所有権法の各第一条）

いよいよ、発想した構想が、まとまったようで心からお慶び申し上げる。私事で恐縮であるが、かつて、この初めて出願してみようという経験をした時、心は逸り直ぐにも出願しないと、他人に先に出願されてしまうと、居ても立つてもいられぬと言う、稚氣で其れこそワクワクであった。不思議なものだ。つい今までどうつて事無かつた者（筆者）が、己の発明と自認出来そうな発想をすると、早く出願の手続きを済ませなければと、この事に夢中になる。後で反省し、何と欲の皮が突つ張っていた我が身と忸怩^{じくじ}たる思いで赤面し

た。恥ずかしながら、己の創作だと思える発想が来ると、こんなものである、最初は。でも、一寸待つて。今の段階で、夢中になっているのは、その発想した本人だけなのだ。この時には、まず調べる事柄がある。其れは専門用語で「先行技術調査」といつている。本書の「はしがき」で一寸触れた、同一分野で己の発想と同じものが、「公知」であるかを十分調べた後、調べた範囲では、まず出願する発想の案件類似のものはない。確信を得た段階で出願すべきものと思う。

わが国の工業所有権出願件数は、世界中で断然トップだそうだが、「先行技術調査」を十分していない出願が多く、他国に比べ権利の取得に至る件数は、出願件数の割には少ない。このような状況であると、出願書類を受理した特許庁に於いて、出願審査の処理が徒に煩雑化し、審査登録までの時間が冗長化するだけで、其の跳ね返りが出願人に戻る結果誰にも良い事はない。

先にも何度が申した事で、出願に際しては、特に初めての場合は、恐らく工業所有権法の法規及び関連の手続き要領を熟知されては居ないのではないかと、失礼ながら懸念する。そこで、前にも申した様に、信頼出来る弁理士をご存知で無ければ、弁理士会、発明協会等に紹介してもらうのが賢明と思う。

弁理士さんを代理人として出願する場合は、先に述べた先行技術調査は、こちらから申し出なくも、有能な弁理士ならば、順序として通常行うと思う。

又、ベテラン弁理士であれば、出願希望の発想内容を見て、種々アドバイスがある事と思う。其の意見に従うのが、賢明である。例えば、特許出願を希望して、依頼しようと思つたが、実用新案出願が適当と奨められたり、或いは其の逆を奨められる事もあると思つ。この様な時は、専門家の考えを尊重すべきだ。

更に、出願の内容に依つては、同一物品を実用新案登録出願と同時に意匠登録願の併願をし、その発想に係る考案の権利の確保をより一層確実な物にする等、出願手続きも一筋縄では簡単に行かぬものだ。

そこで、今後この発明考案を勉強したいと思つ方は、次に記す手引書が、発明協会から発行されているので、手元におく事をお奨めする。

尚一層、工業所有権法に就いて学ばれるならば、同協会各支部（道、府、県に所在）に問い合わせれば、この方面の書籍は入手可能である。

社団法人発明協会東京都港区虎ノ門2-9-14

（電）03（3502）5432（Fax）03（3504）1480

* 特許出願のてびき（特許庁編） * 実用新案出願のてびき（同）

* 意匠出願のてびき（同） * 商標出願のてびき（同）

「工業所有権情報の問い合わせ先」

「特許庁」東京都千代田区霞ヶ関3-4-3

(電) 03 (3581) 1101 (内) 2413 (Fax) 03 (3595) 2735

E-mail PA0670@jpo-miti.go.jp/

「工業所有権法の各・第一条」発明考案に関わる我々にとって、特許法、実用新案法、意匠法、商標法の四法とこれに関連する法律は、言わば、キリスト教信者ならばバイブルであって、本書でも、冒頭に記した方が良いかと考えたが、そうもうしては申し訳ないが堅苦しい感じが、しないでもない。発明考案の仕上げの第一歩は、この四法の趣旨より発足する道筋ゆえ、この工業所有権四法の各第一条を本書の終わり近くに掲げて、ファイナルとする次第である。

★特許法第一条 この法律は、発明の保護及び利用を図ることにより、発明を奨励し、もって産業の発達に寄与することを目的とする。

★実用新案法第一条 この法律は、物品の形状、構造又は組み合わせに係る考案の保護及び利用を図ることにより、その考案を奨励し、もって産業の発達に寄与することを目的とする。

★意匠法第一条 この法律は、意匠の保護及び利用を図る事により、意匠の創作を奨励し、

もって産業の発達に寄与することを目的とする。

★商標法第一条この法律は、商標を保護することにより、商標の使用する者の業務上の信用の維持を図り、もって産業の発達に寄与し、あわせて需要者の利益を保護することを目的とする。

第13章 パテント（特許権・実用新案権等）の有効活用

今振り返って、特許発明（特許登録された発明）が出来、特許庁から書留便で「特許証」が送達された時の喜び、そして感激は、本人でなければ味わい得ない尊いものだ。心から祝意を表する。苦労があつたればこそその喜びだ。

さて、本当の仕事はこれからである。特許発明等が、己の職務に使える立場、例えば、己の企業の分野で直ぐ使える時、又はその発明が「職務発明」（特許法第35条）である場合は別とし、発明はしたが、その発明を眠らせておいては、勿体無い話だ。何らかの活用実施を考える必要がある。

まず、第一は己がその特許発明を使用して、「企業する事。」これが出来れば最も理想的

である。言うだけならば、誰でも簡単に言える。この企業は基礎になる事業体が出来ており、其の一部を分離独立して出来る状態ならば、製品の販路は親企業にある程度依存出来るので独立も比較的苦労は少なからう。

兎角、技術屋は物を造るについては、さほど苦に思わぬ。ところが如何に優れた特許発明の新製品も、まず、世間に知られ受け容れてもらわねば一人前の品とは言えぬ。

製品の種類により販路も、商習慣も異なるので、其の点の事前調査も大切だ。蛇足のようになってしまうかも知れぬが、品物に依つては買い取り、委託等取り引き条件、開始の時書面での契約を取り交わす等、商品、金銭の授受、そして支払期日、現金か手形かの具体的取り引き内容も事前に取り交わす事は、発想する時と同じ努力が大切だ。

順序が逆になったが、一番根本であるアナタの発明に、率直に質問する。現在の社会において、先述したタイミングとマッチングの点を十分調査研究されたか？ 技術屋の目でもこの様な場合兎角我田引水になり、惚れたが笑窪、何でも己の都合良く解釈し、日頃は理性を持つて冷静に判断出来るコンピュータも、こんな時はあらぬ誤作動に陥りがちになる。それこそ、前にも述べた「緊禪きんぜん一番」、コンピュータのオーバーヒートを冷やして静め、企（起）業家となつて現在の社会に受け容れられるか。其の是非を確実に再演算し、出来る事ならば、相談相手を求め意見を聴き精密な計画を立て実行の段階に進むが良い。

現実、アナタの特許発明と技術力以外拳骨（フトコロからっぱ）だけと言う出発であれ

ば、筆者の経験からしても相当な苦勞覚悟の上でも、確実な念をおした準備を要する。

現在は昔と異なり、優秀な特許発明であれば、国、地方自治体、その他の団体が、相当高額の資金援助の制度がある。これを有効に使わして貰えれば、甚だ有利な出発が出来る。特許発明等を世に出すチャンスとして発明協会とNHK共催の全国発明工夫コンクールあるいは地方で主催する類似の催しがあるので、これを利用して世に出すチャンスを掴むのも、また、其の製品の有用性如何のチェックのためにも良策だ。

さらに、特許発明の活用法として、特許権者自ら発明の実施をせず、他で實際その分野で、同類の製品を生産している企業に、その特許権を譲渡、又は専用、或いは通常実施権の設定により、特許発明の実施をする方法もある。この様な際は法律上の手続きを弁理士、弁護士に契約手続きを依頼するが賢明である。

この特許発明の対価（使用する礼金）の決定も第三者が介入した方が、適正な評価が得やすい。

さて、独立して一城の経営者ともなると、全て責任はアナタ自身が負う事は当然覚悟の上の事。前にも一寸触れた技術屋の欠陥は物を造る事に重点を置きすぎる事である。企業特に製造業の経営は、売れてこそ其の企業の経営自体が成り立つ事を、肝に銘じておくべきで、製造部と共に販売のルートの確保を常に重点に経営すべきである。最後に老婆心乍ら申し上げる。これから新規に己の特許発明を武器に、一企業家となるには、再三申し上げる。

げたタイミングとマッチングは勿論、その業界の流通機構、そしてアナタの製品は季節商品なりや、国内でも地方色の強い物か等々、そして荒利潤、経費、他の競合品の状況、其れに対する貴製品の競合力、その他事前に調査可能な事項は周到に調べ、準備万端疎漏ない用意をされ、慎重に旗揚げされる事を切望する。

陰ながら御成功を祈っておる次第である。健康には十二分に気をつけて。

後編 終わり

奥山博(おくやまひろし)

現住所 埼玉県草加市神明 1 - 5 - 1 6
昭和 2 0 年陸軍士官学校卒 (第五十八期)
昭和 2 5 年 (有) 奥山電波工業所・設立
昭和 3 6 年朝霞応用孔版研究所・設立「脆性体・一部金属表面
に対する表面処理技術を発明、数件の特許取得、希望の企業に
施工の技術指導実施。」(昭和 5 7 年他社に権利譲渡し、退業。)
現在、福祉用品の開発に従事。

随筆風 アイデアマン やる気になればできる発明 (考案)

2001 年 11 月 20 日 発行

著 者 —— 奥山 博

発行者 —— 田中久雄

発行所 —— 株式会社かんぽう

大阪市西区江戸堀 1 丁目 2 番 14 号 (〒550-0002)
電話……(06) 6443-2171 / FAX……(06) 6443-2175

印刷／製本……株式会社 淀川工技社